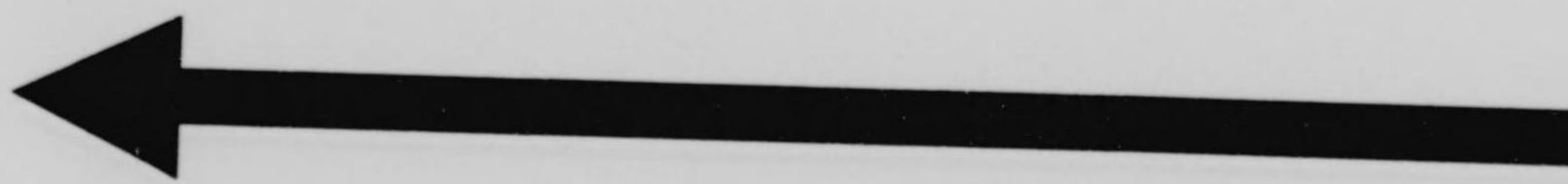


378

81



始



國際貿易と金融政策

378-81

自序

歐洲大戰既に終息して大正八年六月二十八日巴里ヴェルサイユ宮に於て講和條約調印となれり交戦國の一員として干戈を取りし世界的光榮ある我國民は又世界的平和の爲めに滿腔の至誠を以て祝するものたり吾人は之を祝すると同時に平和克復後世界の氣勢に變化を來すことあるを想倒せざる可からず即ち或國は戦時の傷瘍を醫せんとし又或國家は國力を發揚せんとして兵戰に代ふるに商戰を以てするに到らん名目上世界の平和人道公平無私軍國主義打破の有ゆる燦爛たる口實を以て讚嘆共鳴するあるも己に一方に於ては極力人種的差別對遇を主張し他方に於ては經濟戰を以てするものあり斯の如くにして豈克く眞の世界的平和を保持し得可きものならんや然りと雖も吾人は世界人道を尊重し實力を充實して人道の爲め精神的に我國の世界的通商貿易を旺盛ならしめ同時に我國權の發揚を期し殊に隣國を替襄して東洋の平和を保つ爲め東洋人は互に相團結して世界に精神的平和を宣言し歐米諸國と相親善し以て眞に世界的人格ある貿易を形成せんことを欲す而

人 寄贈本

8. 12. 18 寄贈

して世界的人格を形成せんとするには先づ我國の貿易及世界的貿易を研究  
 し同時に世界的金融を勘考せざる可からず斯の如く我國の人格的國際貿易  
 をして之を大成せしむるには實に國民に在り二十世紀の我國民たるもの克  
 く自重し上皇帝陛下を威敬し奉り大和民族をして發揮せしめすんはあるべ  
 からず又我國民は實に世界的公平にして平和的國民たるを忘る可からず而  
 して克く斯の如くなる所以のものは國民夫自身に於て覺醒し實參實窮せさ  
 る可からず何そや日本の國家は日本の國家にして而も世界を離れず日本の  
 國民は日本の國民にして而も克く世界的國民たればなり釋尊教へて曰く平  
 等即差別。差別即平等と此機微を喪はず勇往邁進す可きは實に緊要事たり  
 吾人か本論を誌する素より淺學菲才缺如ある所ありと雖も學者幸に其の精  
 神の在る所を參酌し實際に活躍せられんこと希望に堪へず豈夫他あらん哉

大正八年七月十一日

臺灣臺北三板橋庄大竹園の邊に於て

小 倉 文 吉

# 國際貿易と金融政策論

## 目 次

### 總 論

**第一編 我國の國際貿易** ..... 五  
**第一章 輸入超過の歴史** ..... 七  
**第二章 輸入超過の將來** ..... 二  
 第一節 食料品 ..... 三  
 第二節 工業原料品 ..... 七  
 第三節 國防品 ..... 三  
**第三章 輸出超過の歴史** ..... 二五  
 第一節 自然的輸出超過の事情 ..... 二九  
 第二節 對内的事情 ..... 二九  
 第三節 對外的事情 ..... 三〇

- 第三 相互的事情.....三
- 第四 輸出超過解決策.....三
- 第二節 不自然的輸出超過.....三
- 第四節 輸出超過の將來.....三
- 第一節 國債の發行.....三
- 第二節 國際投資政策.....三
- 第一 消極的國際投資政策.....三
- 第二 積極的國際投資政策.....三
- 第二編 世界各國の生産品額及消費.....四
- 第一章 農産物.....四
- 第一節 米穀.....四
- 第二節 小麥.....四
- 第三節 家畜.....五
- 第四節 馬齡薯.....五

第五節 世界各國食物消費高.....五

第二章 鑛産物.....五

- 第一節 鐵及銅.....五
- 第二節 鹽.....六
- 第三節 銀.....六
- 第四節 原油.....七

第三章 工業原料品.....七

- 第一節 棉花.....七
- 第二節 羊毛.....七
- 第三節 生絲.....六
- 第四節 護謨.....八

第三編 世界各國の貿易.....八

第一章 歐洲市場.....八

第一節 英國の外國貿易.....八

第二節 佛國の外國貿易……………九〇

**第二章 北亞米利加市場……………九五**

第一節 北米合衆國の外國貿易……………九六

第二節 加奈陀の生産及貿易……………一〇〇

第三節 墨西哥國の外國貿易……………一〇四

**第三章 南亞米利加市場……………一〇七**

第一節 伯刺西共和國の外國貿易……………一〇七

第二節 アルゼンチン共和國の外國貿易……………一一四

第三節 智利國の生産及貿易……………一二三

第四節 ウラゲー共和國の外國貿易……………一二七

第五節 ボリビア共和國の生産及貿易……………一二七

第六節 エクワドル共和國の外國貿易……………一二九

第七節 秘露共和國の外國貿易……………一三〇

**第四章 東洋及南洋市場……………一三九**

第一節 中華民國の外國貿易……………一四一

第二節 比律賽の外國貿易……………一五七

第三節 蘭領東印度の外國貿易……………一六〇

第四節 印度の外國貿易……………一七〇

第五節 濠洲の外國貿易……………一七二

**第五章 南阿聯邦市場……………一七九**

**第四編 貿易爲替の競争及其の調節……………一八五**

**第一章 貿易爲替の實際的調節……………一八六**

第一節 國際貿易……………一八七

第二節 移民事業……………一九二

第三節 資本投資額……………一九九

**第二章 貿易競争の集中地……………二〇八**

**第三章 貿易の純理的調節……………二二五**

第一節 直接貿易決濟法……………二二六

第二節 間接貿易決済法……………二七

  第一 普通間接決済……………二八

  第二 純間接決済……………二八

✓ 第四章 爲替資金……………三〇

  第一節 資本の充實……………三〇

  第二節 内國資金の充實……………三五

  第三節 對外資金準備充實……………三三

    第一 準備物……………三四

      一、正貨準備……………三四

      二、有價証券準備……………三六

    第二 準備方法……………三九

      一、獨立準備……………三八

      二、共同準備……………四〇

第五章 精神的調節……………四二

# 國際貿易と金融政策論

## 總論

小倉文吉著

我邦に於ける經濟的施設を觀るに二千五百年前建國の大業と俱に業既に存在し米麥の耕作行はれ衣食住共に必要な經濟的施設を爲したり夫より三韓と稱せる高麗百濟新羅等と交通するに至り佛教入り來り女工を献し吳服陶磁器冶金事業一新面目を拓き爾來朝鮮との交通一層親密となり殊に支那楊子江及福建省地方と交通貿易を爲すに臻り彼我の文物克く交換せられたりしなり幸にして我國の政治家は克く彼國の文物を咀嚼し是等の諸物は以て我國情に適合せしめたり夫より時代を經過するに従ひ東洋貿易漸次發達したりしと雖も支那帝國に於ける君主系は常に代謝するあり加ふるに我國の諸侯伯も榮枯盛衰相伴ひて一定の東洋國際貿易行はれしに非ず故に當時は國家と國家との相互的通商貿易にあらすして國家又は國民が任意的通商貿易を爲したりしなり換言せば修好條約によりて貿易するにあらすして任意的なりしなり夫より下つて我國戰國時代に方り葡萄牙及和蘭の使節來りて頻に國際的通商貿易を迫り我國は長崎を開放して此地に蘭船の入港を許容し嘉永安政の頃米國の水師提督ペルリ來りて強制的通商貿易を餘義なくせられ爾來尊皇攘夷論沸騰し一時國際貿易に支障を來さんとしたりしに之を大成したりしは實に明治維新後と謂はざる可からず。

Handwritten notes in Arabic script at the top left of the page, including the name 'Hajji Muhammad' and other illegible text.



願ふに明治維新當時我國の爲政家が鎖國的主義を取り戎劍を以て立ちしも事非なるを知るや直ちに鎖國主義を撤廢して開放し政治家及學者に於ても國際的政治能力なかりしと雖も斯の如くにして明治維新は實に我國に於ける一大新紀元を畫し尊皇の精神を發揚し皇謨の無窮を揚宣し從來專政にして不統一なる武斷的政治を打破して國民を統一し明治二十三年憲政の實を發揚せしめんかため帝國憲法發布せられ序で帝國議會招集せられしは寔に明治大帝の威徳と曰はざる可からず明治維新當初尊皇の美を發揚すると共に又攘夷の排外思想を宣揚したりし然るに海外諸國とは通商條約を結來りふに至り世界各國に於ける物質的文明の我國に勝るものあるを知り經濟的に政治的に影響を及ぼし自由民權論を主張したるは實に自由黨の總理板垣退助伯なりし當時は藩閥の餘弊旺盛にして策を横へ戎軒を事とせる時代にして而も此力説するあり現下文運進歩して殊に歐洲大戰以來世界思潮の變遷萬化せるときに比較し藩閥の餘弊甚だしき時に方り克く斯の従き大膽なる抱負を發表し國民上下共に疑はさりしは寔に一大變化的思潮と謂はざる可からず思ふに明治維新當時より諸事進歩せりと雖も而も國民夫自身に在りては尙大に致らざるものあるを思はずんばあらず何ぞや理に走りて其の實を知らざるに在り現在を付度し將來を慮らすして徒に空論を戰はずに過ぎず換言すれば實際的去りて空理的に在り。我國家の本體は二千五百七十九年以前より萬世一系にして實に世界無比統一的君主政體にして而も明治大帝世界思潮の最も政治に樞要なる立憲政體を認容せられ萬機公論に決

すと宣し賜へり然るに國民は此崇高なる政治を理解せずして憲法治下三十年を経るに寧ろ其の運用に於て退歩せるものあるは何ぞや想ふに歐米の學理を法規的否全く規則的に卓上の理論的と化し實際的應用に缺如せるに由らすんばあらず故に歐米の民主主義を鵜呑となし我國の美風を忘却し君は君たり臣は臣たりと雖も國家の組織上に於ける君と民とは二にして一にして二に非ざる即ち禪的一不二の理法たるを理解せざるに職由す治者と彼治者とは二方面なりと雖も畢竟是れ一なり此二者一體となりて始めて國家の基礎鞏固なるを認識し歐米諸國民が國際政治問題に於て優秀なる地歩を占むるは一に國民の後援あるにあり換言せば多數の國民が皆相一致して治者を援助するにあり我國の如く政治は二三者流に放任すると實に至大の趣を異にし蓋し車輪の一大中心點は車軸に在りと雖も兩輪克く輕重なく中心點と相一致して始めて車軸の運用宜しきを得ると理に於て異なる所なきなり況んや國家至尊の尊嚴をして一屏重且大ならしめんとせば左右翼に在る官僚者及國民に於て即ち臣民相一致して國家の爲めに盡瘁せざる可からず官民は尊きものに非ず又卑しきものに非ず國家の實體よりして之を實際的に活動せしめざる可からざるなり學理は實在をして堅實ならしむるに在り豈夫れ學理在つて實際あるものならんや。

我國が世界の經濟戰に於て常に人後に在る思を呈するは何ぞや國民夫自身に於て經濟的智能に缺如せるに在り更に進んで世界の經濟的智識に缺くる所在ればなり經濟的智識は農商工業の進不進と之



に關聯して其の運用を主とする企業家と金融業者と政治家との相互連絡を有すると否とに在り我國は其に個々別々の方向を採り進めるか如し即ち企業者は時世の宜しきに乗し一時に利得を得んとして生産を企て粗製濫造の如き敢て顧慮する所に非ずして世界到所に日本製品の粗製濫造を廣告し世界の人士をして日本品排斥の餘地を與へり恰も我國の教育が粗製濫造にして世界各地に於て東洋人排斥を絶叫せしむると異なる所なし若し一朝にして粗製濫造の生産過剰を來すに方りては市價の暴落量り知る可からざるものある可し斯の如くにして克く生産貿易上に於て歐米諸國の堅實なる商品と驅馳し得可きものならんや。

金融業者に於ても之と等しく國家産業の根底を理解し生産業者を援助するに非ず只利是とし利の在る所は放資を爲し世運少しく非なれば回収に著手し生産業者をして安んせしむる所なきが如し蓋し斯の如きは勿論金融業者は營利的事業にして之に趨くの情あるは止むを得ざることなりと雖も要するに根底に於て薄弱なるものなればなり何ぞや現在日本國家の財政及貿易其他經濟事情たる明治十七年頃に於ける即ち日本銀行創立の當初とは全く赴きを異にせるものあるに日本銀行の資本は今も昔も同一にして只積立金の増加せるを見る夫より貿易の進歩に伴隨し横濱正金銀行以外臺灣銀行及朝鮮銀行の設立せられしと雖も爲替資金に缺如せるものあり況や輸入貿易超過の場合に在りては在外公債政策たる苦心政策に依り治するより途を講せざる觀在り其他農工業銀行に於ても低利資

金供給と稱せるも寧ろ高利に走れるものあり近時信用組合制度を改善し殆ど銀行と同一の事業を経營せしめ公課を免せりと最も生産企業上幾何の貢献ある可きが若し又一朝恐慌の襲來するあれば如何にして之が救済を爲すの策在りや否や若し夫れ世界各地に於ける我在外銀行をして他國銀行に遜色なく克く活動せしむるの策と定見在りや否や觀し來れば寂寥の感無くんばあらず。

國際的政治上に於ても我邦人の從來成す所を見るに事勿主義に在るが如し然れども世界の諸事物は停止する所なくして常に活動せるものなるを忘る可からず通商貿易と謂ひ運輸交通電信電話飛行機と謂ひ外人の出入外國への交通移民問題労働問題教育問題宗教問題土地所有權問題竝に會社企業問題借款問題等數へ來れば實に種々あり是等に就き世界の各國は常に自國民の後援を基礎とし國民の勢力をして伸長せしめんと企圖し寸時たも忘る、所なく時々刻々として其の施設を爲せり我國民は斯る抱負ありや否や先んせざれば人後に落つる止むを得ざるなり而して是等の國際政治問題は一に金融市場に影響を及ぼさざるはなく金融市場の消長は實に國權の伸長如何に關す而して國際政治の如何を究めんとせば須く内政よりして研究せざる可からず内政を知らずして國際問題を論せんとするも木に縁りて魚を需むるが如きのみ政治家と謂ひ金融業者と謂ひ思を茲に致さざる可からず。

## 第一編 我國の國際貿易

史を續きて世界各國に於ける國際貿易の事情を観察するに國家經濟進歩の階級に應じて生産品に差あるか如く從て貿易品に於ても亦然るあり濠洲南阿及南亞米利加の如き未開の地方は天然物に富み農産品其他畜産品を主要貿易となすと雖も國家産業組織改全するに從ひ粗製品貿易となり夫より更に進んで精製品貿易となり各國の國情に由り夫々其の最適の貨物を産出して其の利益あるものを以て海外に輸出し有無相交易す故に是等生産品は(一)天産物(二)工業組織(三)資本(四)人才等國の文野によりて各異なる貨物を産出す故に當初は専ら天産物の恩惠によるあるは勿論のことなりと雖も夫より人智漸く進歩するに從ひ生産品の向上進歩を見るに臻るなり。

外國貿易を開きし當時は専ら物々交換にして物品と物品又は物品と金銀塊とを以てしたり夫より貿易の數量増加し漸く複雑なるに至り銀行を介するに至れるか如し往昔夫のアムステルダムに銀行設立せられ是等北歐洲の爲替を決済したる掩ふ可からざるか如し我國に於ても支那朝鮮とは幾千年の往昔より通商貿易を爲したりしも其の數量僅少にして物々交換を以てしたり而して是等物々交換取引上に二別あるを見る即ち(一)は即時取引にして(二)は延取引なり第一の場合は直に決済せらるゝを以て金融上に何等の關係なしと雖も夫の延取引にありては然らず第二の延取引の生せしより貿易業者は金融の途を得んとし兩替屋なるもの起り爲替方發生し支那に於ては錢莊なるもの進歩するに至りしなり夫より更に進んで銀行創立せられ爲替取引を爲すに至れり。

貿易をして現今の如く助長せしめ一大長速の進歩を成すに至りしは交通貿易の進歩なり海上貿易に於て往昔は帆前船貿易にして天候を見計ひ順風に帆を揚げ地理的に在りては近海貿易より更に遠洋航海に變し夫の我國の濱田彌兵衛の如き三百年前に於て既に南洋貿易を營み英人か未だ發見せざる前既に濠洲に渡航したりと謂ふ然れども是等時代に在りては物々交換にして其の進歩見る可きものなく一千年前と殆ど相異なる所なかりしなり然るにゼームスワット蒸汽力を發明し之を鐵道に利用し汽船に利用し爰に航海上に一新紀元を拓き東西兩洋を結び有無の交換非常なる速度を以て進歩し貿易の區域擴張し需用力一時に増して其の數量亦舊に倍蓰し各國輸出入上に於て權衡を失すること、なり其の間爲替銀行か一大活躍を爲し英京倫敦か終に世界金融の中心市場となれるは勢の然らしむる所にして世界貿易に對し最も堅實なる著眼點を有したりしにあり而して今後世界貿易史は尙現今の如き現情に止まらず必ずや進歩するものある可く又變化するものある可しと雖も尙當分は現狀の情態繼續するものなる可し然りと雖も今回の歐洲大戦争は有形的に無形的に變化せるもの有り我邦人は此間に處し大に成すあらんことを希望せざるを得ず。

## 第一章 輸入超過の歴史

我國に於ける明治維新後に於ける輸出入貿易史を續きて之を視るに當初貿易は順調に發達し而も輸

出超過國にして其の間何等の支障なきか如しと雖も顧みて我國情を觀るに諸事業未成品にして此事業を完成せんとするには西洋の文物を輸入せざる可からず故に東京横濱間の鐵道を布設するや國債を英國に募集し其の得たる資金によりて軌條を購入し汽罐車を購入し以て我國の鐵道の基を開きたり其の兵器軍艦等官用品の輸入大なるのみならず民間に於ける諸機械の輸入年々増加したり斯の如くにして當初輸出は輸入に超過したりしに明治二十九年以來輸入は輸出に超過し年々外債の募集によりて能く之が決濟を爲したり。

貿易品既に斯の如く又我國が條約改正通商貿易上に於て對等の權利を得んとし治外法權を撤廢せんため法治國とするの要を認め歐米より教師を雇備し専ら歐米の文明を輸入することに吸々乎として企畫擴張し終に物質的法治國と化して精神的法治國民として缺如するに到れり斯の如くにして我國民教育の粗製濫造は終に我製造品の粗製濫造を誘致せしむるに到れり故に外面的即ち表面的美を知りて内面的即ち精神的美を悟了せず單に近視眼的にして永遠の畫策を講ずる深慮なきなり故に我國の貿易の進歩を圖り永遠の大成を期せんとするには須く教育方面よりして改全せざる可からず今や人才の尊きを絶叫するものありと雖も人才と成るべき要素たる教育方針を改全するに非ざれば烏そ克く之を大成し得るものならんや又教育と共に宗教の偉大なる勢力あることを悟らざる可からず夫の我國の武勇の人にして宗教の觀念を有せざるものなく又歐米人か東洋の開拓を爲したるは一に宗

教教育に由らざるものなし要は人才を涵養し之が輩出を希ふに外ならず。

今我國に於ける明治二十五年以降に於ける輸出入貿易の情況を示し併せて年末國債在高を示さんとす。

年	輸 出		輸 入		超 過		國債募集額	年末國債現在高
	出	入	出	入	出	入		
明治二十五年	九一,011	七三,三六六	一七,六四五	一,九七五	一,九七五	一,九七五	二七,七六九	
同 二十六年	八八,七二二	八八,二五七	一四,九一五	一,四二五	一,四二五	一,四二五	二六,六八一	
同 二十七年	一一三,二四六	一一七,四八一	四,一三五	一,二四五	一,二四五	一,二四五	二八,三三六	
同 二十八年	一三六,一一二	一三九,二六〇	六,八五一	一,一四五	一,一四五	一,一四五	三九,一一三	
同 二十九年	一一七,八四三	一七一,六七四	五,三三二	一,一四五	一,一四五	一,一四五	四一,七八四	
同 三十年	一六三,一三五	二九三,〇〇〇	五,六一五	一,一四五	一,一四五	一,一四五	四一,二八一	
同 三十一年	一六五,七五三	二七五,〇〇〇	一,二四五	一,一四五	一,一四五	一,一四五	四〇,七〇〇	
同 三十二年	二二四,九七九	二二〇,七〇一	四,二七八	一,一四五	一,一四五	一,一四五	五〇,七〇〇	
同 三十三年	二〇四,四九〇	二八七,三三二	八,八三二	一,一四五	一,一四五	一,一四五	五三,六六〇	
同 三十四年	二五二,三四九	二五五,八一六	三,四六七	一,一四五	一,一四五	一,一四五	五八,〇三三	
同 三十五年	二五八,〇六三	二二七,一三一	一三,〇九二	一,一四五	一,一四五	一,一四五	五八,〇三三	
同 三十六年	二九九,五〇二	二二七,一三五	一七,三四七	一,一四五	一,一四五	一,一四五	六八,八七〇	
同 三十七年	三二九,六六七	三七一,八〇〇	四,一三三	一,一四五	一,一四五	一,一四五	七九,六二二	
同 三十八年	三三九,一〇八	四八九,〇六五	一五,九五七	一,一四五	一,一四五	一,一四五	九〇,〇〇〇	
同 三十九年	四四四,四一四	四五二,三六九	八,九五五	一,一四五	一,一四五	一,一四五	一〇〇,〇〇〇	

年	輸出	輸入	差	公債	外債	合計
同 四十年	四三六、二二一	五〇九、〇六二	七二、八四一	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
同 四十一年	五九九、〇〇四	五七九、〇〇四	二〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
同 四十二年	四三二、九八四	四〇三、六六五	二九、三一九	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
同 四十三年	四七五、五〇七	四七五、〇九〇	四〇五	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
同 四十四年	四六六、七六六	五三二、四四六	六五、六八〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
大正元年	五四八、三六五	六四三、九九二	九五、六二七	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
同 二年	六五六、一七三	七六九、一八三	二〇三、〇一〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
同 三年	六一三、二〇九	六〇四、四三三	九、七七六	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
同 四年	七九四、四三八	五四五、四三八	二三九、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
同 五年	一一三、二八七	七七〇、五三七	六五七、二九〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
同 六年	一、〇三〇、〇〇五	一、〇三三、八四一	三、八三六	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇

備考 本表は輸出貿易三十六年まで及國債現在高四十四年までは明治金融史附録による其の他の公債集積額は内外より彙集したるものを含む。

明治三十九年の外國貿易の輸入超過は五千參百萬圓以上超過し爾來年々歳々輸入超過を示し三十一年に至りて壹億壹千壹百萬圓の輸入超過を示せり爰に於てか是等輸入貿易の超過額に對する決濟を爲さんとするに好箇の方法を講究せざる可からず而して一般の觀測として第一に内國産業を奨勵し一方に輸入を防壓し他方に於て輸出を奨勵するに在り然りと雖も朝鮮問題よりして二十七八年の戰役となり更に三十七八年戰役となり多額の軍費を要し勢ひ區々たる産業政策は其の效を奏せず國家は第二の策として公債政策に出づるより外なきなり爰に於てか信用を海外に維持するの必要あり在

外大使公使をして我國の財政を諒解せしむるに力め他方に於ては其の運用を使せん爲め日本銀行員を海外に駐在せしめ以て政府駐在官と相策應したり今試に内國債と外國債との比較在高表を示せば。

年	内國債	外國債	合計
明治四十五年一月末	一、一七、九八〇、〇七〇 <sup>円</sup>	一、四三七、四四九、二〇一 <sup>円</sup>	二、五五五、四二九、二七一 <sup>円</sup>
大正三年十二月末	一、〇三六、一七五、九七八	一、五二四、六〇二、六八三	二、五六〇、七七八、六六一
大正四年十二月末	一、〇二一、四六八、二〇三	一、四九三、一五五、八四五	二、五一四、六二四、〇九九
大正五年十二月末	一、〇九七、四六四、五二七	一、三八四、八五三、四一四	二、四八二、三一七、九四一
大正六年十二月末	一、一五六、九八四、七五二	一、三四八、五八七、〇三二	二、五〇五、五七二、七八四

斯の如くにして外債は内債に超過せるを見るべく從來我爲政家の苦心慘愴せしものあるを窺ふことを得可し。

## 第二章 輸入超過の將來

世界各國何れの國家を問はず多くは國民の必要なる物資の需用供給上に於て何れも不權衡なるを免れず世界の金融市場たる英國は輸入超過國にして又東洋に於ける中華民國は輸入超過の國たり假令輸入超過に超過を重ねるも其の國民に必要な物資は輸入せざる可からず北米合衆國は領土面積頗

漸次減少

る廣大にして自ら必要なる物資は自ら産出し而も其の種類は幾多異なりたる總ての物資を産出するのみならず尙耕地に變更して産出せしむるの餘裕綽々たる是を舊世界に於ける英佛獨伊の諸國に比すれば洵に多々あり我國の如き面積に於ても實に狭少而も他の方面に亘り多くの植民地を有せず然るに人口は年々歳々増加して停止する所なし加ふるに過渡時代的國家にして國民産業組織上に於て多々缺くる所のものあり爰に於てが物資の輸入に對して研究を要すべきものあるのみならず世界各國を通じて國際的國民として大に研究せざるべからざるものなり。

第一節 食料品

國民にして國民たる固性を維持し益々向上して國民の安定と威信を保持し且國際的に密接なる關係を保持し一致協力して國民の勢力を得世界人道の爲めに生存の安全を期するには自國に於て必要な食料品を産出し之を供給して十分ならざる可からず然れども食糧品の供給たる第一土地面積を要し且其の土地は肥沃にして十分なる生産力なかる可からず我國は幸に土地肥沃にして且最近の學理を應用して専ら改良に力むるありと雖も如何せん土地面積上限り在り然るに人口の増加は年々歳々實に著しきものありて是が供給には勢ひ他に仰かざる可からず而して我國民の最も必要なるは米穀にして一面に於ては已に耕地面積の整理開墾等加ふるに肥料を施し泰世文明の學理を應用して耕作に力め複食物又は代用品の耕作即ち大小麥馬鈴薯甘藷粟稗等農民は夫々死力を盡して積極的に地方

に適當なる農産物の産出に力め他面に在りては都會人士は専ら米食を爲しつゝあるに反し僻陬の人士は大麥粟稗等を常食とせるものある程にして代用品の利用已に到れり蓋せりと雖も人口の増加と都會人士の奢侈の風習は交通の便と教育の普及とに従ひ勢ひ白米食を増加し限り在る田地を以て限りなき人口増加に供給せざる可からざる觀を呈せり今三十六統計年鑑により耕地と人口と農産物産出を對比し之を見るに。

年	田	畑	人口一人に付		米	麥	人口
			田	畑			
明治二十一年	2,765,959	2,233,011	700	523	38,645	7,067	29,612,724
同 二十六年	2,740,033	2,278,543	628	515	37,199	7,197	29,688,114
同 三十一年	2,747,666	2,257,226	607	504	47,387	8,914	29,733,855
同 三十七年	2,844,677	2,277,086	601	503	51,430	8,977	29,729,666
同 四十二年	2,857,739	2,410,129	523	426	52,438	9,273	29,725,471
大正三年	2,599,192	2,396,963	513	416	57,006	9,549	29,712,441
同 四年	2,622,644	2,376,638	509	412	55,929	10,235	29,712,441
同 五年	2,680,758	2,390,976	508	412	58,443	9,549	29,712,441
同 六年	2,900,000	2,511,412	508	412	58,443	9,549	29,712,441

右の如くにして耕地面積にして田園は人口一人に付明治二十一年は七町歩なりしも事業漸次減少して大正三年には五町一三となり大正六年には更に減少して五町〇八となれり又畑地に於ては明治二

十一年に五町二二なりしも大正三年には四町一六となり大正六年には更に減じて四町一二となり米穀の産出は明治二十一年には三千八百餘萬石にして大正三年には五千七百萬石大正六年には五千八百萬石に増加せりと雖も元來人口の増加は年々七八十萬人を増加し人口一人に付一石を消費すとせば年々米穀收穫に於て七八十萬石の増収なる可からず然るに米穀の收穫増加率は之に伴はざるなり大麥の收穫にありては二十一年には七百萬石にして大正六年には九百萬石に増加せりと雖も是亦人口の増加に對比す可きに非ず爰に於てか勢ひ米穀は海外よりの輸入に仰かざる可からざるなり幸に朝鮮及臺灣に於て米穀の收穫あるありと雖も之を以て未だ満足すべからざるものあり故に勢ひ外米の輸入に待たざる可からず果して然りとせば米穀の輸出國は何れに在りや最も近距離にして安全なる地方を選ばざる可からず是中華民國安南暹羅及びビルマ印度等なりとす中華民國に於ては輸出禁止を爲せる事情あり其の他英領に在りても同じく輸出禁止を爲せるか如しと雖も早晚輸出を解除するものと見做し否已に解禁したるものあり故に究局是等の諸地方を以て供給國となさざる可からず幸に是等の諸國は歐洲大戰以來我國の製品を需用し爲替調節に就ては頗るバランスを取るに容易なり若し又輸入超過の場合は何等かの方法を以て決濟するに容易なりと雖も互に國家を異にするに於ては時々刻々變化すべきものと観測すべく常に平素綿密なる注意を爲し殊に國際條約を締結して相互の安定を期す可きなり然りと雖も是容易の業に非ず須く國民夫自身に於て民力を涵養し世界的

國際的國民となり經濟的に政治的に於て生きざる可からず徒に政府當局者のみに之を委するは策の得たるものにあらず殊に歐洲大戰以來歐米諸國民は國民夫自身輿論の府となり政府當局者を鞭撻せるものあるに獨り我國國民に在りては恰も關せず焉的にして自ら清しとするは終には自衰するより外なからん須く國民は尊皇の誠意を以て當局者を鞭撻し之を扶掖贊襄すべきなり。

食料品中米穀は人口の増加に伴はずと雖も時に天候の如何により豊凶あり豊稔のときに在りては米穀消費者と生産地と東洋に極限的生産品たるの結果直に東洋地方に於て生産過剰となり米價直に下落し消費者は非常に喜ぶ所なりと雖も半生産者たる大農に在りては至大の影響を蒙り米價一時に下落して購買力を減殺し爲めに米價釣上策を迫まるに到る大隈内閣の當時政府が米價調節策を採りしは大農者より餘義なくせられたるものなり是が調節たる決して等閑に附す可からずと雖も其の蒙むる所の者が米穀不足して一般消費者を迫害するより薄弱なりと曰はざる可からず今回政府が米穀の供給に腐心し關稅を撤廢したるより或縣の大農者は之が反對の決議を爲したるものありと雖も是等は大勢を無視したるものと謂はざる可からず要するに國家を組織せる大多數者に對し殊に國民の動搖なからしむる爲め食糧品の調節最も必要にして愈々食糧品に窮乏するに於ては白米食を禁し又は酒造用白米を制限する又一策なりとす然れども是等は消極的にして吾人は積極的に盡瘁せられんことを希望せざるを得ず。

食糧品問題として輸入に對する一策として我國民は露國人と共同し西比利亞を開發し小麥及大麥の產出額を大ならしむるに在り小麥粉は目下我國及朝鮮等に產するものを以てするありと雖も多くは北米合衆國より輸入し稱してメリケン粉と曰へり米國は小麥の產出國にして其の豊凶は一般農民の購買力に影響するものなり夫然り故に平素米國は小麥粉を輸出して以て農民の食糧品問題を解決せりと雖も一朝事在るの日は直に之か輸出を制止し又歐洲地方に事在れば東洋人よりは西洋人を救済するものある可し換言せば黃色人よりは白色人を救済するは勢ひ免る可からず勿論米國民は博愛にして人道を重んずる國民なれば斯る偏奇の心なかる可しと雖も實行に到りては如何に變化するものあるや未だ知る可からず況や一部人士間に在りては我日本帝國を以て假裝敵として明言せるに於てをや果して然らば最も我邦に近き一葦帶水の地方に之を需むるに如かず是西比利亞地方に於て露國人と共同し以て相互扶掖の策を樹立すべきなり又物資の需用供給の平均を得るの點に於て又爲替調節を爲し得るの點に於て更に金塊の產出及輸送上の點に於て西比利亞人と共同するに如かざるなり吾人が現下の爲替調節を畫策する點に於て急務とするを認むると同時に將來輸入に對し又其の超過の來る可きを豫想し一面に於て輸出増加し輸出超過する場合に於て露國人と互に相提携して物資の需用供給を計らざる可からず是單に物質的方面に於て其の必要を認むるのみならず精神的に於て將又國際情誼上に於て最も必要なことなりと信す。

## 第二節 工業原料品

世界に於て人類の思想が最も進歩發達して公平の眼識と處置と相待ち人道の爲め人類の公平なる生存をして絶對的に意義あらしめ且是が實行をして的確なる保證を得るに到れば第一は無形的に宗教の自由政治の自由權利の自由等を與へ第二に有形的に貿易の自由交通の自由居住の自由生存の自由とを與ふ可きなり斯くの如くにして人類の生存權と公平とを期待し得可しと雖も現世界に於ては既に互に國境を劃し甚だじきに到りては耶蘇教に非ざれば人に非ず而も耶蘇教は白哲人の耶蘇教にして東洋人の耶蘇教にあらずとせる今日の現情に在りては言語文章に民族自決主義を唱導するも是只架空の説にして實際に方りては國際競争の好辭令に過ぎず換言せば武斷的政界に對し民衆を引率する一磁力的言義に過ぎざるなり若し斯る民族主義説の亡ふるときは人種的色彩的言義に到達するや必せり其の結果は當然競争的弱肉強食の鋒鏑を現はすに到らん否今回國際聯盟會議に於て其の一端を窺知することを得只國際的人類は最も辭令を好妙にする國民が世界人類の歸依する所となるに過ぎず此階段に到達する迄には實力養成が最も勝利を得べく從て一日も國力涵養に留意せざる可からず以上は消極的意義の解釋上よりして見解を下したるものなりと雖も是を積極的に解釋を與へ吾人は吾人の實力を以て世界の民衆を救済する點に於て其の救済すべき實力を大に養成し著々理想的世界に到達せしむる意義と是を實現せしむるに於て或有力なる實行方法を運さざる可からず是國家

國民の富力に於て充實するを要する以所なりとす。

斯の如くに觀じ來れば大なる意義に於て世界の救済すべき實力養成上に於て又民族的偏見を矯正すべき實力を養成する點に於て一は積極的に一は消極的に兩方面に於て世界人類の爲めに意義ある生存を遂行する點に於て吾國民は産業の旺盛を致し層一層工業を隆興せしめ工業原料を輸入し假令其の原料の輸入が超過となるも止むを得ざるることなり我國の國勢上よりして工業國たる可きは一方よりせば頗る不利の點ありと雖も亦止むを得ざるなり即ち地理的にして限ある土地を以て農産品の産出より工業品産出を以て立國の基本と成すの勝れるに如かさるなり。

工業原料の輸入に就て必要なるものは何ぞや曰く造船事業曰く製鐵事業曰く紡績曰く綿羊毛曰く染料曰く製粉等數ふるに暇あらず果して然りとせば造船事業に必要な材料の原料に著目し傍ら地の理と人の和を利用し綠花羊毛等必要なる原料を最も附近にして最も安全なる地方に是を需む可く加ふるに文明と共に最も必要なる製紙の原料輸入に就て是亦劃策す可きなり。

現下我邦に於て造船事業漸く旺盛とならんとするや北米合衆國は曩に鐵の輸出禁止をなし線製品をして世界に供給せんとするや印度カウンスシルの制限となり羊毛織物を供給せんとするや濠洲南阿等に於て殆ど禁止的制限を爲し食料品も亦然り金銀亦然る在り果して然りとせば第二次開戦に於ては一層甚じき現象を再現するなきを保せず故に我國の如き工業國を以て立國の基礎となさんとす

る國家に在りては斯る禁止的制限の再ひせられざる様豫め國策を運ぶる可からず現下我國の國是としては支那及西比利亞地方を除き他に適當なる地方なく更に南亞米利加に意を注ぎ其の缺を補ふ可きなり想ふに支那西比利亞は地理上最も近く最も容易なるべしと雖も英米諸國人は往々にして自國の利害に鑑み是に妨害を試む可く南亞米利加は遠く海洋を隔て輸入に不便なるもの有り要するに開は一の政略的手加減を要す可く一方に於ては合辦組織となして彼國人の收利的作用を尊重すべく他方に在りては海運事業を旺盛にして運輸の便を與ふ可く且海軍を擴張して運輸事業を保全すべきなり而して羅典亞米利加人と世界的に握手し互に利害と精神とを以て無形的有形的に結合すべきなり只自國のみ利を獲得せんとするが如きは吾人の取らざる所なるのみならず必ずや相互間に軒輊するに到る必ず可きなり何れの國家及國民を問はず表面上に於ては人道を尊重すと雖も眞個の目的とする所は從來歴史の示す所により又今次戦争の暗示する所によれば獨立國夫自身の國威の發揚に非ざるはなく若し時の是非を問はず目的とする所に勝利を博せば直に國民は一齊に謳歌せるを觀る可し若し一朝敗を取ることあれば直に國家を顛覆するものある歐洲列國の示す所なりとす斯の如くにして第三者たる國家も亦自國の存立上よりして自個に利益なる國家を承認す可く勢ひ獨立國として國權の擁護と國力増進とを圖らざる可からず我國の現状よりして今や歐洲は鼎を覆すか如くにして直に其の威力東漸すとは斷す可からずと雖も歐洲中原に於て定まるや勢ひ手足を東亞に進漸す可く



殊に米國は今や歐洲に手足を延長し充分新世界の威力を以て舊世界に及ぼしたる今日更に東洋に於てヒリッピンの第二の勢力を延長する無きに非ず只米國は人道を尊重せる國なるを以て斯ることは在り得可からざることに屬するが如しと雖も要するに我國方に缺陷あるや直に機乘す可しとなし此間に物議を生すべき理由を索む可し是に由りてか他より乘せらるゝ機會を與ふることなく自決主義により國家國民は自ら奮闘して自裁せざる可からず是工業を旺盛にして國力の充實を計る可き要點なりとす。

人或は曰はん原料の輸入にして多ければ輸入超過を致し爲めに本論に必要な輸入超過の結果更に難局に到達せんと夫然り然りと雖も原料國にして最も近距離にして最も自國民と利害を共にせる地方より輸入せば一方原料の輸入超過を來すことあるも又他方に於て製造品の供給を爲し是を以て克くバランスを決済し得可く尠く共東洋に原料を得其の得たる原料によりて製造し其の製品を更に東洋に供給しにて相互間に決済の途を開く可きなり東洋人の人口は決して尠からざれば需用の途は必ずや大なるものある可く若し輸出にして大なりとせば金銀塊を輸入して是が決済をなし得るや必せり歐米諸國の遠き國家との間には距離に於て遼遠なるのみならず又人種上の差あり且國際條約に於て常に對等の取扱を得ざるのみならず種々なる口實を設けて不利の點多々あり加かすウヰルソン氏の言を借り東洋人は須く東洋に於て自決の途を講じ尠く共世界人類間に活歩し得るの素地を造ら

ざる可からざる可し否西比利亞白人と握手し一層意義を廣潤にし黃白の區別は東洋に於て絶無にするは實に世界人道の爲めに一新紀元を劃するものと曰はざる可からず否東洋に於て黃白人の握手現象を實現するは蓋し人道の爲め國際的一新例を拓くものにして世界の羨望する所となり却て全世界を風靡することなきに非ず幸に黃白人の握手よりして全世界に對し人道の尊重すべき範を垂れ國光をして四海に輝かすことを得は吾人相互の幸福なるのみにあらずして實に東洋人現存人類の幸福と謂ふ可く否全世界の爲め人種を尊重する上に於て詢に幸福と公平なる處理と曰はざる可からず是我國が採る可き第一義なり而して第二義にありては更に進んで歐米諸國より原料を輸入し更に其の製品を輸出するに在り吾人は只單に極東のことにのみ極限して全世界を忘却するものに非ず易より難に及び近きより遠きに及ばざんとする順序を示したるに過ぎず工業原料品の斯の如く一致の行動を採ると共に吾人は工業に最も必要にして工業を旺盛にすべき燃料問題に就て又我國の自給策を要すると雖も既に限り在る燃料を以て限りなき工業の旺盛を希ふ點に於て燃料問題を研究せざるべからず想ふに原料をして已に附近海外に需め更に其の動力たる燃料をも海外に需むること、せば頗る工業政策上に於て薄弱なることに想到するものなり或學者の唱ふるが如き百年の後は我石炭の供給充分ならずと假定し少くとも未來永遠の計に於て既に缺乏すべき點ありとせば今より是が動力問題に想到し想を茲に致さざる可からず聞く所によれば炭田面積の豊富なる國は支那及び西比利亞なりと

せば謂ふ迄もなく支那及西比利亞地方に仰かざる可からず是が供給を得んとせば勢ひ中華民國人と西比利亞人と握手せざる可からざるなり勿論動力は必ずしも石炭によるものにあらず一方に於て石油及水力に待つもの有り雖も石油も支那に在り水力は我内地水力を利用して是が動力を充實すべしと雖も必ずや支那及西比利亞地方の石炭石油及水力に待つものあるや必せり果して然らば輸入超過の際更に燃料の輸入に於て一層輸入超過を來すの虞ありと雖も勢の然らしむる所止むを得ざるのみならず彼地方人士の進歩發達に伴ひ製品の需用倍蓰するに到るは必然のことにして又原料及燃料の輸入増加に伴ひ爲替決済上に於て豫め是が決済の途を案出し以て商品の輸出奨励に力めざる可からず斯念にして我邦に存在せば敢て憂慮するの必要を見ざるなり只是と共に現今の如く粗製濫造を戒め著實なる商取引を心掛け商業道德を尊重せざる可からず只一時の利益は決して永遠の利益にあらず又國家の利益に非ざるなり須く米國人が人道を尊重して敵國人に糧餉を供給するの度量なかる可からず仁者は王たりとは孟子の政治的言義なりと雖も又以て商業道德に之を應用す可きなり。

### 第三節 國防

國家の存立上及維持上に於て最も肝要なるものは種々ありと雖も國防上に必要なる兵器彈藥軍艦及電線電話等は最も其の最たるものたる可し今回歐洲戰爭に於て軍國主義の最たる又外交政略上に最たる權謀術數政策敗れて軍國主義打破説勝利を得たるが如し若し世界各國にして眞に平和を尊重し

人權の擁護を主とし公平なる處置を遂行し得偉大なる國家の元主は全然此精神を實現し得るものとせば世界人道の爲めに詢に慶す可きことにして吾人共に歡ふべきことなりと最も軍國主義に代ふるに更に軍國主義を以てするものなきに非ず現に軍備制限説を唱導して軍備撤廢説を唱ふるものあらず果して然りとせば自國存在上又維持上に於て自ら軍備の必要を認むるのみならず今回世界列強共に口<sup>〇</sup>に軍國主義打破<sup>〇</sup>を主張して過去獨逸國が軍國主義に兼ぬるに權謀主義を實行したる即ち權謀<sup>〇</sup>政策打破<sup>〇</sup>に就ては何等一言の非難たも是に及ばざるは一面平和を希望して更に他面に於ける暗闘角逐を認むるものなり烏<sup>〇</sup>之眞の平和を望む可けんや軍國主義よりは寧權謀政策の害あるを吾人は是を認むと雖も世界各國は敢て之を認めざるなりナポレオン三世當時澳國外相メテルニツヒの權謀政策を否難して現今之を認め當てマキャベリズムを攻撃したる歐洲及米國は敢て是を攻撃せず只單に軍國打破主義のみ是を認む豈矛盾も甚しと謂はざる可けんや況や軍備制限説の如きの確たる標準豈公平なる標準は何によりて之を認め得可きや果して然りとせば自國々家の存立上相當の軍備を要するのみならず夫の白耳義が獨逸の侵略に對し對抗し得べき當時より尙多くの軍備ありせば獨逸軍をして短日月に歐洲を蹂躪するに至らしめざる可し斯の如くんは前轍の覆へるに鑑み我邦は現在世界平和を維持する點に於て他國より蹂躪せられざる範圍に於て軍備を完備するの要あり吾人は敢て失敗せし軍國主義を唱ふるものに非ずと雖も東洋の平和否世界的平和を保持する上に必要なる軍備の完成

を期せざる可からず果して然らば是に要する兵器彈藥軍艦航空機等の充實を成さざる可からず若し假に我邦にして現在より以上薄弱なる軍備なりとせば今回の大戦に對し克く太平洋南洋及地中海の平和を保持すべきものならんや濠洲は勿論印度等の安寧を保ち得可きものに非ざりしなり故に積極的軍擴張を要せずとするも消極的軍備の完成は緊要のこと、言はざる可からず。

斯の如くにして我國が東洋の平和を維持するの要ありとし世界の平和と共に國權を尊重するの要ありとし又民族自決主義上に於て必要なりとせば東洋人は須く東洋の爲めに尊重せざる可からず恰も我國は東洋平和保持上に於て双肩に其の責任を有する以上は當然或程度點軍備の完成を要すべし幸に世界平和會議に於て軍備を縮小し國民の平和を尊重するものなりとせば洵に喜ぶ可きことにして吾人は一日も速に斯る理想境に到達するを希望するものなりと雖も軍備は何を標準として縮小し又は制限し得るやは一大疑問に屬す可し。

斯の如くにして國力充實國民生活の安定國民道德の涵養等大凡國家國民の自立身を完ふするには其の必要なる物資の輸入は止むことを得ざるのみならず將來の發展上に鑑み益々其の施設を爲さざる可からず而して是が輸入を奨励すると同時に外國に必要な物資の輸出を奨励し以て其の解決を完ふせざる可からず其の之を完備せしめんとせば國民の海外企業銀行家及國民の海外投資と相俟たざる可からず今や我國民は多く徒に政府の施設に委し國民夫自身は何等周知せざる性質と實情ありと

雖も是鎖國時代に於ける民族の遺習たるに過ぎず政治の廣範にして變轉萬化するの理を知らず國民たるの理を解せざる盲目的生活に過ぎざるなり換言せば能力なき骸骨的肉體を有する生物に過ぎざる可し今や既に憲法發布三十年を超え世界の平和會議に參列を得而も五大國民たる權威を有し東洋に於て世界に於て重きを認められたる國家國民なり豈夫れ過去の歴史的國民たる可きものならんや須く自決心を有し國際政治的能力を有する經濟的平和的國民たらざる可からず夫れ然り而して斯る性質を具體化せんとするには實質的國力の發揚と智能の啓發と宗教道德心の向上と相俟つに在り換言せば物質的と精神的との向上に在るなり。

### 第三章 輸出超過の歴史

我國に於ける輸出入貿易の歴史を觀るに殆ど輸入超過の國にして明治元年四百八十六萬圓の輸出超過なりしも明治八年に至る迄輸入超過となり越て明治九年始めて輸出超過となり其の額約三百七十萬餘圓の超過を示せり次て明治十五年金八百二十萬圓の輸出超過を示し續て明治二十二年に及び夫より二十四年より二十六年に亘りて出超となり其の他二十八年に六百萬圓三十九年に四百萬圓四十二年に一千八百九十萬圓の出超を見たり其の他各年輸入超過にして明治二年には七百八十萬圓の入超となり翌年に及び一千九百十九萬圓の入超となり明治三十一年に至りては一億一千百七十萬圓の

入超を示し三十八年には一億六千七百萬圓の輸入超過となれり斯の如きは我産業及政府の施設諸事過渡時代にして物質的文明の輸入に伴ひ勢ひ物資の供給を諸外國に俟たざる可からず又價格の點より之を見るに我國の輸出品は多く原料品にして其の價格貧弱なるに海外の輸入品に在りては工藝品にして價格從て高値のものなるより數量の輸入増加と相俟ち價額の上りしは當然のことなりとす故に勢ひ外國に國債を仰き以て其の施設に順應し明治三年四百八十八萬圓の國債を起債し明治五年には二千八百萬圓同六年には四千萬圓となり越て明治十年には二億三千六百圓餘に増加し二十九年には四億二千七百餘萬圓同三十八年には十九億二千五百餘圓三十九年には二十三億六百餘萬圓となれり。

斯の如くにして我財政を策と産業政策と相俟ち貿易上に權衡を保ちたりしか輸入超過甚しきより一時破産説を出たし大正三年八月歐洲大戰に方り輸出は輸入に超過し從來輸入超過に苦しむたる苦境を脱して國民皆喜色ありしが輸出超過を重ねるに從ひ歐洲各國軍事費の嵩むに從ひ自ら戰時財政政策と共に貿易政策となり貨幣政策と變じ終には國際爲替政策に遷移し英佛の大政治家は米國華盛頓に會し資金の調達と共に英佛援助となり終に米國に於て金銀貨及金銀塊輸出禁止となり爰に我國人に對し一大障害を來たし爲替調節策を絶叫するものあるに至りし不幸我國民機を見るに敏ならざると共に其の施設に對應す可き準備なきのみならず又何等の權威だも無かりしが如し是我邦人の通有性

にして國際的能力と政治的國民知識の普及せざるに歸せずんはあらず所謂井の蛙にして國民は世界の大勢を解せず自國民其の物たも解せざる可し佛者は常に自己本心を知らしめ以て大に活動して自己本來の目的を達することを教へ導き賜ひ我國に傳達せられし以來二千年を経たりと雖も未だ佛者の佛たることを知らざると共に建國以來二千五百年以上を經過し國民夫自身の意義あることを知らざる可し斯の如くにして國民夫自身に於て自覺的精神に缺如せるものなれば勢ひ世界に於ける大勢の趨勢を忖度し機を察するの明あるものならんや然りと雖も恐多くも明治大帝は洵に大度量を抱かせられ國民政治の實を擧げん爲め決を公論に執ることを教へられ自覺的精神の發揚を宣し賜へり斯の如き大御心あるに我政治家及國民は却て之を感知せず自治の精神を歿却し奪略主義と政爭主義に没頭し憲政の妙用を去りて悪用となり國民は宗教道德の觀念日に日に淺薄となり佛心の光明は爲に蔽はれて物質的慾求に獲はれ洵に世は澆季なる感を呈せしむ去れば輸出超過を知りて他を知らざるなり果して斯の如くなりとせば我國民は茲に鑑み國際政治と道德と精神的根蒂ある實力を涵養して今後に處せざる可からず宗教道德は吾人を離れず吾人も亦宗教道德を離る可きものにあらず國民も亦吾人を離れて國民あるにあらず國民を離れて吾人あるにあらず又國民を離れて實力あるものにあらず國民の自覺的精神發揚の急なる曰はすして明晰の理なり吾人は今回の大戰に當り著しく此感を深くす。

輸出超過の場合に在りては輸入超過の反對にして輸入超過に苦しみたる過去のことたりし雖も負債に負債を重ね公債乗換政策に歿頭したる苦境に比すれば實に喜ばしきものあり即ち我國產の輸出旺盛となるより内にありては我產業の發達を助長し財政をして豊富ならしめ國民の富力をして大ならしめ國民の生活情態を向上せしめ外に在りては現在諸外國に負へる外債を減少し從て諸外國に對し多額の利子を支拂ふ事を要せず反つて海外に投資するに至る等内外共に有利なる現象を來すものたり斯の如く今回の輸出超過は我國に對し最も有益なる事情存するありと雖も其の間不自然的となり其の程度益々加ふるに至るや輸出入に對し其超過せる額の決済に苦しむに至る故に爲替調節は單に爲替銀行のみ之に當るにあらず國民舉つて之に當らざる可からずと唱導するに到れる所以なりとす。輸出超過に超過を重ねるも運輸交通及通商貿易の自由なる場合に在りては倫敦又は紐育に於て唯爲替相場上多少の損失あるを以てせば之を爲し得たるのみならず正貨輸送點に達せば金銀塊を以て輸入し之が決済を完了し得るものなりと雖も歐洲大戰以來是等の事情全然異なりて斯の如きことは絶對に爲し得ざるなり即ち我國輸出に於て一大得意先たる北米合衆國は大正六年九月七日付を以て九月十日以降貨幣金銀塊及通貨の輸出を禁止するの訓令を發したるあり茲に於てか爲替決済作用は半停止せられ全く物々交換に據らざる可からざるに至れり之れ吾人が爲替調節上に就て研究する所あらんと欲する所以なりとす。

### 第一節 自然的輸出超過の事情

自然的輸出超過の事情とは我國と世界各國間通商航海條約によりて輸出が輸入に超過する場合を謂ふ自然的輸出超過を致す事情の原因は種々あり一に對内的事情に二に對外的事情なり尙是に加ふるに三に相互的事情なりとす。

#### 第一 對内的事情

對内的事情とは第一に生産の獨占的なるに在り假令は熱帶地植物にして或地方より産出せざるもの又は金銀銅鐵及石炭等にして他國に産出せざるものは輸出上に於て獨占權を有し之を輸入する國家に對して輸出超過となるなり或は織物の如き美術品の如き然りとす。

第二は需用力が供給力より小なるに在り換言せば生産力が消費力に超過する場合に起るものたり假令は世界各國に於て共に同一物品を生産するも自國に消費する分量少にして生産過剰なる場合に起るものたり例せば北米合衆國の小麥は自國に於ける消費力以上生産するを以て外國に輸出し輸出超過の現象を來すが如し又瓜哇等に在りて砂糖の産出甚大にして消費力以上産出するを以て海外に輸出し輸出超過を生ずるか如し。

第三に輸出を助成する機關の完備之なり假令は船舶の硬保險の機關金融機關の設備等是なり是等の輸出入に對し助成機關の完備するや其の完備せる國家の生産品が海外の需用に應ずる便にして從つ

て輸出を便するに至る。

第四に同一の生産品の分量と雖も物品の價值大なるもの、輸出は又輸出價額を増大し従て輸出超過を來す可き原因の一となる勿論是等は必ずや輸出超過の原因たる可しと斷言すべからずと雖も蓋し其の因を爲すべき素質を有す。

### 第二 對外的事情

對外的事情とは對外國に於て必ずや我國の生産品を需用せざる可からざる原因となる可きものなり假令は我生絲及羽二重の如き然りとす生絲及羽二重は伊佛及支那國等にて産出すと雖も米國人の生絲及羽二重の需用は今や奢侈品に非ずして日用必需品となれるを以て其の需用力強大なり従て我國の外國貿易は毎年上半季は輸入超過にして下半季に至りて輸出超過を示せる事あり是畢竟生絲輸出の大なるに在りと雖需用力の大なる是第一の原因たり。

第二は同一人種又は同一の習慣を有する人類が海外に居住せるに在り假令は北米合衆國に在りては素と英領にして其の大半はアリアン人種なり従て英國に生産する商品を需用す又濠洲に於ても然るあり是によりてか英國の生産品が克く海外に需用せられ世界の商權を掌握するに至りしなり況や世界の各方面に於て植民地を領有し自國民を移植せるものあるに於てをや斯の如く觀し來れば我國民の世界的移植を爲すに非ずんば世界的活動を成し得ざる事情あるなり。

### 第三 相互的事情

相互的事情とは彼我相互間に諒解し協力して出入貿易を爲すに在り假令は英國が關稅改正を爲し本國と植民地と特惠條約を帶ひ本國に於て輸出を便し植民地に於て輸入を便するが如き場合に於て植民地に在りては外國品に對し重稅を賦課し本國製品を歓迎するときは英國の製產品は輸出超過を來す可き因を成すなり若し關稅にして均霑條約なかりせば或國家と特惠條約を締結するときは斯る傾向を來すなり。

第二に或國民と相互諒解し共同生産事業を經營するときは是に對する必要物資を輸出し又は輸入して従て輸出額を増大する因を爲す。

### 第四 輸出超過解決策

今や我國は輸入超過の困難を経過し輸出超過に對する苦痛を嘗めつ、あり是が輸出超過を解決するには如何にして可なりやと謂ふに。

第一 直接貿易國に於ける輸出入貿易により權衡を採ること

第二 間接貿易國に於ける間接的國家間の輸出入貿易により權衡を採ること

等なり第一の場合にありては假令は日米貿易にして輸出多きときは我國に必要な物資を輸入して調節を成し尙十分ならざるときは第二の方法を採るに在り蓋し斯の如き策は至難の問題たりと雖も

諸外國間に於ける生産消費及貿易情態に留意せば必ずしも不可能のことに非ず。

故に輸出貿易品に在りては永續的計畫を執らざる可からず永續的輸出を爲さんとするには國民夫自身に於て國際貿易及其の趨勢と國際政治と相俟ち國民に堅全なる思想の注入を成さざる可からず換言せば我物資の粗製濫造を防止するに在り物資の粗製濫造を防止せんと欲せば國民教育道德宗教及政治に於て粗製濫造を防止せざる可からず國民精神にして既に粗製濫造なりとせば其の精神より割り出されたる事業耕作製品等勢ひ粗製濫造となり政治も教育も總て粗製濫造となる可きは事明の理なり須く政治家も國民も茲に想到し自己本來其の者より粗製濫造を防禦せざる可からず去れば貿易上の物資は堅實なる製品と爲さざる可からざるなり更に茲に一見し易き様列記すれば。

- 一、世人の嗜好に適する物資を産出すること
- 二、世界人類の趨勢に鑒み其の研究を爲すこと
- 三、品質を一定すること而して漸次改良を施し堅實なる製品の産出を圖ること
- 四、製品は機械力により一定し見本と異はらざるものを輸出すること
- 五、荷造を嚴重にし遠洋航海に耐ゆる荷造とすること
- 六、註文品は其の數量を嚴重に調査し過不足なき様注意し且註文以外の物品は送付せざること
- 七、一市場に同一の製品を多量に輸出し投資せざる様注意すること
- 八、註文品に對しては確實なる保證人を以てせしむること
- 九、海外市場の情況を調査し過不足なき様心掛くること

- 十、海外領事館は實業家と同一の心掛を以て指導すること
- 十一、海外領事官は實業家を以て任命すること但其の部下には國際政治を研究したる者を任用すること
- 十二、銀行家は商人と心を一にし資金の運轉に便すること殊に官僚的色彩を離脱し自己本心即ち自己本來の目的を發揮すること
- 十三、政府當局者は國民的感情を以てし共同一致して貿易の助長に力むること殊に國民の後援を得ること力むるのみならず國民の後援を自發せしむること
- 十四、官吏任用例を改正して實業家を樞要の位置に就かしむること
- 十五、全國商業會議所及農業會議所をして活動せしめ國民の意思の存する所を聽取すること
- 十六、小中學校に對し實業教育の普及を計り且思想を確乎ならしむる爲め宗教道德の講演を爲すこと
- 十七、教育には單に智識の啓能のみならず精神の根本問題を注入するため宗教道德を講演し物質的進歩と調節を圖るのみならず自己本來の目的を知らしむること殊に國民的換言せば國家的政治思想を普及せしむること

斯の如くにして要は國民其の者の粗製濫造を防止し我建國以來の健全なる發達に鑒み特に世界に於ける最も崇高なる精神を發揚し機を見る敏に時に處する著實にして世界の大勢に後る、ことなく否一步を進め進歩的に國際的公平に平和に處することに到達せざる可からず十目の見る所之玄なる哉にて百尺竿頭一步を進めざる可からざるなり。

第二節 不自然的輸出超過事情

自然的輸出貿易超過は其の發達漸進的にして内容及び情力も從て堅實なり然りと雖も不自然的輸出貿易超過は根柢未だ定らざるに一時の好況に伴れ海外の需用旺盛なるより前後の思慮を運らずに暇

なく輸出するより起る現象に在り故に。

- 一、不自然的輸出の盛況は我産業界の生産能力充分なりざるに急遽製造すること。
- 二、農産物の輸出に在りては年々一定の生産品よりなきに只價值高くして利益の大なるを見越して國內必要額をも輸出し爲に物資の缺乏物價の騰貴を喚起するものなること。
- 三、製品の輸出旺盛なるに製造業者の資本薄弱にして海外の需用を充たし得べきにあらず且國內の需用に應じて製造し得可からざること。

四、輸出一時に旺盛にして資本金額僅少且技術拙劣なるより製品は粗製濫造となり一時諸外國に於て間に合せの供給することあるも他に同一製品以上の供給者あれば需用者は之に赴くこと加之粗製品の製造は各國共に容易なるより競争者の輩出をして速ならしめ後日我産業界の一大打撃を現出するの虞あるなり。

五、輸出一時に旺盛にして國內は富の増加したるが如く兌換券は明治四十五年は三億萬圓臺なりしも大正七年は七億萬圓臺となり通貨の流通高は明治四十五年六月末は五億六千三百萬圓臺より大正七年六月末は實に十一億四千二百萬圓以上をなり富力の増進寔に慶す可く洵に喜ぶべき現象なりと雖も正貨大半以上は在外正貨にして現に大正七年七月三十一日正貨在高は十二億三千五百萬圓にして内内地正貨は四億五千七百萬圓在外正貨は七億七千七百萬圓なり勿論右は正

貨準備にあらずと雖も在外正貨を以て正貨準備中に組入れあるや推測するに難からず夫の大正七年六月末日本銀行兌換正貨準備は六億四千五百七十八萬八千八百拾圓にして同年六月十五日及七月末日の内地正貨は僅に四億五千七百萬圓なり假に之を以て全部正貨準備に供せられたるものと見做し尙在外正貨を以て一億八千八百萬圓を準備せるものと謂ふ可し況や内地正貨の内には政府所有額も包含せるものと見做せば在外正貨の兌換準備は前記の金額より以上の額に達せるや必せり爰に於てが是等在外正貨準備は眞の正貨準備にあらずして名目上の正貨準備なり故に保證準備金に繰入れ計上するを至當とすべく一朝在外正貨國と事在るときに方りては恰も歐洲大戰勃發當時伯林に我正貨二千萬圓(記憶に止まる)をして獨逸に對し宣戰布告と共に獨逸政府に沒收せられたる二の舞を演すべし又斯の如きことなしとするも我國内に恐慌の起ることあるや兌換券にして兌換の途なく恰も不換紙幣たるの奇象を演するなきにあらず。

兌換券の増發によりて國內の資金充溢し富の増殖せし感ありと雖も我邦の産業組織は不自然的となりて生産能率の向上によりて物資の供給圓滑となるにあらず徒にプローカーの一時的事業者に幸を與へ空拳者に利せり畢竟するに産業組織が未だ斯る多額の兌換券をして消化し使用するにあらざるに歸因す是に由りて物價は徒に騰貴し國民惴惴するに至るなり大凡食物に於ても消化せされば腹痛を生ずると等しく兌換券使用換言せば資金流用にして消化作用充分なれば



富の利用的確に鹽梅其の宜しきを得可しと雖も我邦人に遠大の氣宇なく常に目前の利に眩惑せらるゝより焉に到らざるなり。

#### 第四章 輸出超過の將來

外國貿易は國內に餘剩ある物資を海外に輸出し海外より必要なる富を輸入し以て彼我有無相交換し吾人相互の慾望を満足せしむるものたり故に英國に於ては自由貿易說盛に主張せられ且實際に應用せられたり此學派の説によれば世界各國に於て最も適當なる産物を適所に産出し吾人々類の慾望を容易に満足せしむるに在り假に世界各國及國民を平等視するときは寔に公平なる學說にして吾人も斯の如くなるを希望するものたり然りと雖も世界の各國は民族を異にし國體を異にし憲法を異にし關稅制度を異にし俄に自由貿易論者の學說を適用す可からず殊に自國民に最も必要缺く可からざる物資にして尙他國民に於ても亦必須缺く可からざる物資なきとき自國に於ける生産品の海外に輸出せらるゝを防止するは自衛策上又止むを得ざる所たり假令は今回歐洲戰爭に當り米國が金銀塊の輸出を禁止したるが如き寔に止むを得ざる所なり茲に於てが輸出貿易の超過は最も尊ひ喜ぶ可き現象なりと雖も又一方に於て海外貿易上に一大注意を拂はざる可からざる所なりとす輸出貿易旺盛にして輸出超過額大なれば一時國力増大したるが如き觀を呈すと雖も物資の輸出せし對價として必須

物を得るにあらざれば徒に海外正貨を蓄積して何等運用の途を講せず國內は只準不換紙幣のみ増加して物價著しく騰貴し國民の多數は嘆聲を發するに至ることあり斯の如くなれば一方に於て紙幣の増發あると同時に他方に於ては金紙の差を生じ徒らに紙幣の價值下落して物價騰貴するに至ればなり現今物價騰貴の原因たる種々ありと雖も亦紙幣の増發と金紙の差在るに由る故に輸出貿易の超過に對しては寔に喜ぶ可き現象なりと雖も又一方に於て大に注意を要す可きものあるなり。

#### 第一節 國債の發行

外國爲替の片爲替たる情況は物資を海外に輸出せらるゝや該物資に對し輸出商人は米國又は倫敦へ向けの爲替を銀行に賣り資金の調達を爲し夫より更に第二の輸出物資に對し外國宛爲替を銀行に賣り第三の活躍を爲さんとするに在り斯の如くにして銀行は輸出品に對し絶えず爲替を買ひ買爲替は積り積りて増加し來り爲めに爲替銀行は資金調達に窮するに到るなり故に政府は一方國內に散せる資金を吸集して物價の調節を爲し他方に於ては該資金を以て在外正貨を資金化し爲替銀行に活路を與ふるに在るるべし政府所有在外正貨の増加するは蓋し之に由るなる可く爲替銀行は是に由りて活動資金の供給を得るに在り。

想ふに民間銀行に在りては外國爲替資金に對し日本銀行より其の融通を得んと欲するも日本銀行は既に正金銀行に對し多額の融通を爲し更に民間銀行に至るまで融通を爲さんと欲せば兌換券の増發

を爲し之を以て資金の融通を爲さざる可からず既に物價騰貴せる秋に際し更に兌換券を増發せしめて物價騰貴を誘致せしむるは政府に於ても亦日本銀行に於ても好む所に非ざるべし然りと雖も輸出超過に超過を重ねるに於ては何れかの方面に於てか金融の途を講せざるべからず是國債證券を發行して物價を高めずして爲替資金の融通を企てしものにして當然のこと、謂ふ可し然りと雖も政府に於ける國債の發行額は年度間に或限度ありて限度以上の國債は之を發行すべからざるなり果して然らば國債の發行は限り在りて夫の限り無き輸出超過に對しては尙他方面に於て更に策を運さざるべからず勿論大正七年度は既に經過し議會の開會に際し年度内に於て八億圓の發行を成し得るに至りたりと雖も要するに遣り繰的政策たるを喪はず然らば又國債の發行は物價騰貴に影響を及ぼすことなきやと謂ふに必ずしも然らず國內に散布せられたる資金を一時政府之を吸收し得可しと雖も更に之を擔保となして日本銀行より資金の供給を得るを以て日本銀行は兌換券を發行するに到るなり直接的なると間接的との差あるに過ぎず去れど或程度までは必ずや效力あるべし果して然らば國債の發行は物價騰貴の爲にも又爲替調節の爲めにも有利なる方法と謂はざる可からず只國債政策は一時的金融政策にして根本的のものにあらず去れば吾人は根本的解決策を講ずると共に日本銀行をして積極的に活動せしむることを希望せざるを得ず何ぞや資本金を増加し一般爲替資金の供給を爲し以て内にしては商業資金を供給し外に在つては爲替資金を供給して我國民をして經濟的通商的使命を

果さしむるに在り。

## 第二節 國際投資政策

輸出貿易旺盛にして海外資金の蓄積大なりとせば此蓄積せる資金の調節を爲さざる可からず吾人は彼我相互間に於て順當なる貿易に由り相互間決済を希望するものなりと雖も各國間生産消費情態の各異なる所あれば斯の如きは期待すべからざるものあり。

殊に今回の如き非常なる場合に於ては海外貿易に於て順當なる貿易決済法に由りて決済し得るものに非ず必ずや異狀なる手段と方法とを講せざる可からず是國際投資政策を樹立するの止むを得ざる所なりとす國際投資政策とは何ぞや茲に所謂國際投資政策とは第一に消極的投資政策と第二に積極的投資政策是なり第一消極的投資政策とは從來自國に於て債務を負へる國債及社債を購入して消却するの謂にして第二積極的投資政策とは進んで外國の國債に應じ又は社債に應じ或は海外事業資金に投資を爲すの謂ひなり要するに其の目的とする所は在外資金をして消化せしむるに在り故に之を稱して在外資金消化作用とも謂ふ可し。

### 第一 消極的國際投資政策

消極的國際投資政策とは從來我國が海外に對し國債を有し又は社債或は株式をして外人の所有に係りしものを在海外資金を以て或は購入し或は償還し以て在外正貨の減少を企て進て輸出超過となる

可き或金額を見込み之に對し右の方法を採り更に輸出をして容易ならしむるに在り是實に一策にして國際貿易上に於て國民が國債經濟金融政策に最も容易にして且簡明なる方策なりとす。

大正八年帝國議會に於て政府が明治四十四年度以降大正七年度に至る八箇年度間に於ける外國債の買入償却高に就き衆議院に質問起り大藏當局者の答辯せる中四分利英貨公債の買入償却を報せるあり是其の實例にして今其の額を見るに左の如し。

明治四十四年度	額	面	額	買入償却額
大正元年度	九、七六四、〇〇〇	同	九、六四八、〇〇〇	
同 二年度	九、七六三、〇〇〇	同	九、三五七、〇〇〇	
同 三年度	九、七六三、〇〇〇	同	九、〇五一、〇〇〇	
同 四年度	四、八八四、〇〇〇	同	四、四六九、〇〇〇	
同 五年度	三、九四〇、〇〇〇	同	二九、三四一、〇〇〇	
同 六年度	五、七三三、〇〇〇	同	四八、八五四、〇〇〇	
同 七年度	五、二六三、〇〇〇	同	四九、五五一、〇〇〇	
同 七年度	五、四五七、〇〇〇	同	五、一一一、〇〇〇	
合 計	一七四、五六七、〇〇〇		一六五、五八二、〇〇〇	

備考 右表は大正八年二月八日中外商業新報による

而して佛國國庫證券及英國鐵道債券の償却せられしものは大正四、五兩年度内に於ては

佛國國庫債券	額	面	額	買入償却金
英國鐵道證券	三九、四六七、〇〇〇	同	三六、七八三、〇〇〇	
	二九、二八九、〇〇〇		二九、〇五九、〇〇〇	

右の如くにして大正七年末までに買入償却せしものは金二億三千百四十二萬四千圓に上れりと謂ふ。

然り而して斯る買入償却は急速の場合に於ける最も適當なる消化作用にして又最も容易なるものなり若し單に海外爲替決済のみの手段とし又目的としたらんには實に斯る簡明にして容易なる方法あらす雖も若し國際間に於ける經濟政策としては蓋し是一時的消化作用にして永續的資金運用法にあらず何とすれば輸出貿易なるものは單に一時的現象なるものにあらず必ずや絶えず自國に餘裕ある生産品は輸出せらるべきものなればなり又輸出貿易なるものは又絶えず餘りある物資を輸出して海外の需用に應じ同時に自國に必要な物資は之を海外より輸入せざる可からず換言せば彼に必要なる富を輸出して我に必要な富を輸入せざる可からざるなり去れば單に打切的決済政策は眞の國際經濟政策の本旨に非ざるは謂ふまでもなきなり。

又假に債權其の物に於ても一時的決済は好ましきものにあらず永續的債權を以て最も好ましきものとなさざる可からず勿論債務國の如何によりて大に考慮を要す可きものなりと雖も十分信用を置く可き國家なりとせば斯る買入償却方法のみに由るに非ず寧ろ進んで有利なる事業に投するを以て得策なりと信す。

以上は前者は輸出貿易繼續上より之を觀察し後者は資金の運用上より觀察したるものなりとす勿論

國際間に於ては國內に於て論するが如く又國內に於ける事物の如く容易なるものに非ざれば利害得失を顧み克く是に策應するの策を研究し且樹立せざる可からず從來我國の國際經濟思想に乏しき且經驗なき者よりせば勿論多く期待す可きにあらざると雖も今回の經驗より今後は大に焉に鑑みざる可からず。

### 第二 積極的國際投資政策

積極的國際投資政策とは或國に於て資金の缺乏せるときに方り其の國家が國債を起債する場合と又會社其の他に於て資金を募集する場合とに方り是に應じて我在外資金を振換投資するに在り假令は英佛諸國が國庫證券を發行し之に應募するが如く又或有力なる國家の外債の下落せるに際し是を買入れ所有するが如く又は外國に於て戰時農工業の荒廢せしより之が生産を助長する爲め海外投資を仰くに方り之に投資するに在り尙一步進んで外國に於て事業を經營するに在り蓋し我邦の在外正貨蓄積額にして僅少なる場合は勿論之に應ずるの資格なしと雖も在外正貨の蓄積増大なるときは其の利用の方法を講せざる可からず今大藏省の調査に係る大正七年十二月二十六日現在正貨保有額は十五億九千八百萬圓にして去十二月十五日現在高に比し四百萬圓を増加せり即ち。

政府所有高 八五六、〇〇〇、〇〇〇<sup>円</sup>  
日本銀行所有高 七四二、〇〇〇、〇〇〇

(大正七年十二月二十九日中外商業新報)

合計	一、五九八、〇〇〇、〇〇〇
内地現在高	四五三、〇〇〇、〇〇〇
海外現在高	一、一四五、〇〇〇、〇〇〇
合計	一、五九八、〇〇〇、〇〇〇

今之を大正三年以降に於ける年々正貨蓄積高を示せば

大正三年	三三一、一九〇、〇〇〇	對前年増加高	三五、三七三、〇〇〇
同四年	五一六、〇八二、〇〇〇		一七四、九六三、〇〇〇
同五年	七一四、四四四、〇〇〇		一九八、三七二、〇〇〇
同六年	一、一〇四、八三七、〇〇〇		三九〇、三九三、〇〇〇
同七年	一、五九八、〇〇〇、〇〇〇		四九三、一六三、〇〇〇

備考 大正三年分は前年に比し減少せり。

右の如く正貨の蓄積額逐年増加して大正七年には四億九千三百萬圓増加し従つて在外正貨は十一億圓に達せり又大なりと謂ふ可し故に斯る巨額の正貨をして徒に海外に遊置せしむるは國家財政觀よりするも得策なるものにあらず又民間資金が徒に海外に放置せしものとせば尙至大なる損失たるを喪はず須く之が運用法を講し資金をして活用するの途を講せざる可からず否此資金をして永續的に積極的に之が運用を講せざる可からざるなり。

### 第二編 世界各國の生産品額及消費

我國の生産事業を完成し以て輸出入貿易をして旺盛ならしめんと欲せば我國の産業情態を研究し以て將來に於ける方策を研鑽せざる可からず更に進んで世界各國に於ける原料生産品の場合を觀察し以て彼我の間に於ける貿易政策に考慮せざる可からず何となれば假に墨國に於て銀の産出世界に冠たり而して其の輸入品は綿製品及絹製品にして今回の如き米國が金禁輸を爲すに方りては直に墨國へ我製品を輸出して東洋に必要な銀の輸入を企畫すべきは順序なる可し夫の羊毛の如き濠洲及南阿聯邦に於て制限するに於ては南阿米利加に於けるアルゼンチン共和國より輸入し以て夫の缺を補ふことを得可し故に我國の輸出入貿易を研究し且海外貿易を研究するに方りて世界に於ける重要な原料の生産情態に付き研究するは順序のこと、謂ふ可し。

#### 第一章 農産物

吾人の經濟生活に於て最も最初の慾求は食に在り吾人の生る、や直に食慾を附與せられ以て克く生存し得るなり而して此食慾を満足せしむるものは實に農産物に在り現今工業經濟の進歩に伴隨し農産品の産出は殆ど閑却せられたる感を呈したりしが今回の世界大戦争に於て必需品の度を重ねたる

觀あり左に少しく之が研究を爲さんと欲す。

#### 第一節 米 穀

米穀は東洋人の常食にして殊に我邦人の一日も無かる可からざる食糧品なり而して世界に於ける米穀の産出を見るにウエツプス氏新統計字典によれば。

	一九〇二年	一九〇三年	一九〇四年	一九〇五年	一九〇六年
北亞米利加	四〇一六	六五二〇	六九〇八	四八二八	六〇〇八
南亞米利加	八五六	八七五	九五一	九七五	一一〇五
歐羅巴	一〇六三	一一八五	一一七五	一一六五	一一三〇
亞細亞	一〇七〇〇〇	一〇七〇〇〇	一〇七〇〇〇	一〇七〇〇〇	一〇七〇〇〇
阿弗利加	三三〇〇〇	三三〇〇〇	三三〇〇〇	三三〇〇〇	三三〇〇〇
太平洋島	三三	三〇	三〇	三三	三三
合計	一〇七、〇〇〇	一〇七、〇〇〇	一〇七、〇〇〇	一〇七、〇〇〇	一〇七、〇〇〇

備考 單位は千封度なり。

是によりて之を觀るに世界に於ける米穀の産出は殆ど東洋に極限せられ之を以て世界的商品と見る可からず從て之が消費も極限せられ我邦の豊年の際他國へ輸出することを得ざるときは爲に米價著しく下落し我邦の不作に際して米穀を輸入し得ざるときは米價著しく騰貴す殊に東洋各國は已に生産地に於て需用し又各國通商貿易上に關稅制あり其の他主權を異にするより輸出上に障害を生ずる

あり爲めに世界的商品たるを缺如せり今ウエツプス氏統計字典により亞細亞洲に於ける産出高を見るに。

	一九〇二年	一九〇三年	一九〇四年	一九〇五年	一九〇六年
支那	五五〇〇〇	五五〇〇〇	五五〇〇〇	五五〇〇〇	五五〇〇〇
英領印度	七二六八〇	六八八〇〇	七二五六一〇	六七九一六〇	六七四六四〇
其他印度	七九〇	八三〇	七六四〇	六四〇〇	六八七〇
日本及臺灣	一三二九五三	一六八〇九〇	一八六五八七	一四六三〇	一七一八五九
聖倫	五五〇	五五八	五五八五	五五七七	四九八
佛領印度支那	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇
爪哇及マテユラ	五三七七〇	六二九九〇	六四三二〇	六二六三〇	六九五三〇
朝鮮	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
暹羅	三三〇〇	二二〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
合計	一六〇〇〇〇	一六〇〇〇〇	一六五〇〇〇	一五七〇〇〇	一六〇〇〇〇

備考 單位は千封度なり。

右の如くにして英領印度の産出最も多く次は支那次は我日本國なり而して人口は年々増殖著しく而も佛領印度の如き及支那國の如き輸出上に於て容易に行はるべきに非ず近時漸く佛領印度も輸出を解禁し支那國とは協定なれりと報せりと雖も決して安んず可きに非ず蓋し貿易上より之を見るに已に極限的にして爲替其の物も十分なる世界的作用を有せざるなり然れども我邦人の日常食糧品にし

て一日も缺く可からざるものなれば爰に之を掲げ以て貿易決済上に資せんと欲す。

第二節 小 麥 Barley

今世界に於ける小麥の産出高を見るにウエツプス氏新統計字典によれば。

	一九〇三年	一九〇四年	一九〇五年	一九〇六年	一九〇七年
北亞米利加	一六〇〇〇〇〇〇	一六〇〇〇〇〇〇	一六〇〇〇〇〇〇	一六〇〇〇〇〇〇	一六〇〇〇〇〇〇
合衆國	一三〇〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇〇
加那	九〇〇〇〇〇〇	八〇〇〇〇〇〇	八〇〇〇〇〇〇	八〇〇〇〇〇〇	八〇〇〇〇〇〇
歐洲	三〇〇〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇〇〇
露亞	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇
白耳曼亞	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇
佛蘭西	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇
英吉利	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇
亞細亞	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇
日本	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇
阿弗利加	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇
アルゼンチン	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇
南美洲	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇〇〇
總計	一三〇〇〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇〇〇

備考 澳洲國はホスニヤ、ヘルチエロピナを包含す。

右表によれば歐洲は世界に於て最も多額に産出するも亦人口稠密にして其の消費額大にして従つて小麥の輸入尠らざるなり今一九〇一年より一九〇五年に至る消費額百に對し自國生産高の割合を見るに其の比例は左の如し。

國名	生産額	輸入額	消費額
英國	五五	四五	一〇〇
白耳	六九	三一	一〇〇
白耳	二六	七四	一〇〇
和義	二九	七一	一〇〇
諸國	三六	六四	一〇〇
佛蘭	九八	一〇	一〇〇
瑞西	九〇	一〇	一〇〇
丁抹	一八	八二	一〇〇
葡牙	九一	九	一〇〇
西牙	九八	二	一〇〇
伊太	九七	三	一〇〇
希臘	九四	六	一〇〇

是によりて之を觀るに是等各國は自國食用品を外國に仰かざる可からず歐洲に於ては東方に於ける露國に仰き米國に在りては加奈陀北米合衆國及び南米地方に要めざる可からず是によりて穀物に對し歐米との爲替關係を生ずるなり。

吾人は成る可く多くの材料により研究せんと欲するも時日と參考書に乏しき寔に遺憾の至なりとす去れば假に世界強國に於ける人口一人に對する食料品の消費割合を示し以て其の概要を補足せんと欲す幸に現在各國の人口に對し其の率を乗せば消費す可き額を得生産額を控除せば輸入額を窺ふことを得可し即ち。

國名	穀物	麥	小麥及麥合計	砂糖	茶	咖啡
英吉利	計産 三五〇	計産 六	計産 三五六	計産 六七	計産 六二〇〇	計産 〇八〇
露國	一四五	三〇〇	四四五	九六	〇九〇〇	〇一四
米合衆國	二七四	一〇	二九四	六八七	一、〇〇	一〇六〇
澳國	二三四	一四一	三七五	一六九	〇〇五〇	一、二
佛蘭西	四七五	七七	三五〇	二六八	〇〇五〇	四八〇
伊太利	二八三	七	二九〇	六八	〇〇〇一	一、一
日耳曼	二〇〇	三五	五二五	二七一	〇一三〇	六六〇
白耳	四一八	一六六	五八四	一九一	〇〇一〇	一〇五五

既に述べたる如く南北南米國は小麥の産出地なれば左に之を掲げん

亞米利加諸國の小麥産出高

一九一六年及一九一七年即ち大正五年及同六年に於ける亞米利加諸邦に於ける小麥の産出高を見るに。大正六年四月二十日東京銀行通信録

合衆國	一九一六—一九一七年	一九一五—一九一六年
加奈陀	八〇,〇〇〇,〇〇〇	一二六,三七五,〇〇〇
亞爾然丁	二五,〇〇〇,〇〇〇	四七,〇三八,〇〇〇
ウルクエー	九,六〇〇,〇〇〇	二一,〇〇〇,〇〇〇
智利	六〇〇,〇〇〇	一,三七五,〇〇〇
墨西哥	二,五〇〇,〇〇〇	二,六五〇,〇〇〇
計	一一八,七〇〇,〇〇〇	一九九,四三八,〇〇〇

第三節 畜畜

一九〇七年に於ける南米家畜の數を見るにワエツプス氏新統計字典によれば。

年次	馬匹	牛畜	羊類	豚	山羊
智利	一九〇六年 六九八,〇〇〇	二,四七〇,一〇〇	一,四〇六,〇〇〇	二六七,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇
メキシコ	一九〇二年 八五九,一〇〇	五,一四一,五〇〇	三,四四〇,〇〇〇	六二六,一〇〇	四,一〇〇,〇〇〇
ウラゲ	一九〇三年 四四〇,一〇〇	六,〇一六,〇〇〇	一,三九一,六〇〇	三五五,〇〇〇	一〇,〇〇〇
グエネジュラ	一九〇九年 一九二,一〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一,七〇,〇〇〇	一六二,一〇〇	一,六六七,〇〇〇
アルセンチン	一九〇七年 五四六,一〇〇	二,五八四,〇〇〇	七,七五八,一〇〇	二八四,一〇〇	二,七四八,九〇〇
英吉利	一九〇七年 二〇八,〇〇〇	一,一六三,〇一〇	三,〇〇二,六〇〇	三九六,七二〇	一,四六九,九〇〇
佛蘭西	一九〇六年 三二六,〇〇〇	一,三九六,八〇〇	一,七四二,一〇〇	七,〇四九,〇〇〇	一,四六九,九〇〇
佛太利	一九〇五年 八〇四,九〇〇	五,六七一,〇〇〇	六,九〇〇,〇〇〇	二,三三三,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇
北米合衆國	一九〇七年 一九七,四六六	七,二二五,〇〇〇	五,三三三,〇〇〇	五,四七九,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇
日本	一九〇〇年 一四六,四五〇	一,一九〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	二六七,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇

一八八七年に於ける世界の肉類の生産及消費に就きマルホール統計字典によれば。(二八四頁)

生産地	生産		消費	
	肉	羊	肉	豚
歐洲	四,五七五,〇〇〇	一,八四五,〇〇〇	二,一四〇,〇〇〇	八,六三三,〇〇〇
北米合衆國	一,一四〇,〇〇〇	三九〇,〇〇〇	一,一四〇,〇〇〇	四,七五七,〇〇〇
加奈陀	一六六,〇〇〇	一四二,〇〇〇	六〇,〇〇〇	一,六三〇,〇〇〇
アルセンチン	一四〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇
合衆計	一,四〇〇,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇

右によりて歐洲に於ては肉類の消費は生産に超過すること六十六萬四千噸なり故に濠洲及アルペンチン共和國の如きは是等の肉類を氷詰となし以て歐洲に輸送す之を要するに新開國は肉類の生産超過を示し舊世界は肉類の不足を感じり恰も現今我國が米穀の生産其の消費に及ばざるが如し爰に於てか食物供給問題に達著し且又我國銀行家の南米に活躍して新舊諸國間の爲替を取扱ふ強ち不會の事業に非ず何となれば今や北米合衆國は全力を擧げて是に従事しつゝありや知るべしと雖も戰時中に歐洲人は兵事に壯丁を徵發せられ南亞米利加及南阿各方面に於て銀行業の運轉に窮するものあるべく或は一時休止せるものあるべし北米合衆國に於ても已に全國皆兵主義により壯丁を徵發し自國及外國に對し畜養の勢を以て運轉するものなるべしと雖も必ずや多少缺如するものある可し況や米



國は已に中米及南米等に對しモンロー主義を標榜せるより他の窺ふものなしと多少の缺如あるべし此間に我國が中南米諸國に銀行支店を開設したりとするも領土上に野心を有するにあらざればモンロー主義に背反することなし此機を利用し我物資人才及資本を注入する何等異議あるものにあらず是大に世人の注意を拂はざるべからざるなり。

尙ウエツプス氏統計字典により一九〇七年及一九〇八年世界に於ける家畜の肉類市場を見るにミスター、アール、エツチ、フリーカー所説としてゼ、ロイヤル、スタテイスティカルソサイチー誌に載する所を見るに。

單位百萬數

歐羅巴	牛	羊	豚	牛畜の總計
英吉利	一一七	三二五	四二	四七四
佛蘭西	一七〇	一七九	七二	四二一
アルゼリヤ	一一二	八八	〇二	二一〇
白耳義	一八	〇一	一三	三二
ルクセンブルク	〇一	一	〇一	二
和蘭	一八	〇五	〇九	三二
丁抹	二〇	〇七	一七	四四
合計	二二七	五九一	一七二	九九〇

諸國	牛	羊	豚	牛畜の總計
瑞典	一〇	〇九	〇三	二二
露西亞	二六	一〇	〇九	四五
露西亞	三六六	四六六	一一四	九四六
フィンランド	一五	〇九	〇三	二七
露領亞細亞	五七	一一九	〇九	一七五
日耳曼	二〇六	七二	三二	三一〇
澳西利	一〇〇	七〇	九〇	二六〇
匈牙利	七五	七〇	五四	一九九
ルメニヤ	二六	六〇	二〇	一〇六
ブルガリヤ	二二	七〇	九〇	一八二
セルビヤ	〇九	七〇	〇九	一八八
瑞太西	一五	〇一	〇六	二二
伊太利	六二	一一二	二五	二〇九
西班牙	二四	一三七	一〇	一七二
葡萄牙	〇七	三〇	一〇	四七
合計	一三四五	一八一四	七二七	三九〇六
北亞米利加	七〇	二一八	—	二八八
英領北美	七二	—	—	七二
北米合衆國	七二	—	—	七二
黑其哥	五二	—	—	五二
合計	八四二	六〇九	六〇一	一〇五二

南米其他	濠洲	ニュージーランド	ケイプコロニー及 ナタール	ウラゲ	アルゼリヤ	智利	合計	總計
1	97	18	28	65	292	88	507	269
875	232	158	140	140	672	208	2089	452
7	22	5	5	14	14	29	101	137
257	59	59	62	89	424	12	903	592

肉類は白哲人の常食として無かる可からざるものにして歐洲に於ては其の需用に漸く缺乏を告げ濠洲及南亞米利加に仰ける事實あるは明なり牛畜に於ても羊肉に於ても共に是等市場の取引甚大なるものあるは前表を視て推知するに難からず尙各國の事情に就き精細に之を觀察せば思半に過ぐるものある可し現に濠洲及南米地方より肉類を氷詰となし歐洲市場に運出するもの大なるものあるなり

第四節 馬鈴薯 Potato

馬鈴薯は歐洲人の常食にして恰も我邦人が米麥を食するが如し従て其の産額の如何は各種の食糧品に向つて需用を喚起し來るなり今又ウヱツプス氏新統計字典により世界各國に於ける馬鈴薯の産額豫想額を見るに左の如し。

北西亞米利加 合衆國	南亞米利加(智利)	歐羅巴	露(キーランド共)	日耳曼	澳匈國	佛蘭西	英吉利	亞細亞(日本及露領)	阿弗利加	濠洲
9000000	300000	116000000	16000000	23000000	12000000	11000000	2000000	200000	100000	500000
8000000	300000	102000000	12000000	21000000	12000000	11000000	2000000	200000	100000	200000
10200000	140000	102000000	12000000	21000000	12000000	11000000	2000000	200000	110000	200000
9000000	120000	130000000	16000000	22000000	12000000	11000000	2000000	200000	110000	200000
10000000	200000	112000000	15000000	21000000	12000000	10000000	2000000	200000	110000	200000

馬鈴薯は世界的商品に非ずして多くは各國其の物の生産品にして且消費品なり然れども恰も我國の米穀の如く一般人民の常食品にして一日も之無かる可からず而して其の生産の大なるは日耳曼國にして自給自足經濟主義によれるより蓋し今回の如き大戦を敢てしたるものなる可し英國は商業を主とし獨逸は商工業に更に農業に主きを置きたるを窺知し得可し果して然りとせば獨逸が工業品に全力を注ぎ以て通商貿易上に一頭地を抜かんとしたることも亦窺ふことを得可きなり更に商業政策よ

り世界の爲替銀行政策に思を及ぼし獨亞銀行の設立せられたる豈故なきに非ざらんや今や北米合衆國は債務國を脱して一大債權國となり世界の貿易市場に一大雄飛を試みんとす今後世界の商業戰及資本戰將又工業戰場に於て主たるものは實に英國にあらずして北米合衆國なりと謂ふ可し何となれば内に食糧品充分在りて國土廣く且資本充實して餘あればなり之を要するに工業原料に十分にして且學識經驗ある者多く加ふるに資本十分なれば以て世界に雄飛す可く米國は實に此三者を具有せるものと謂ふ可し。

第五節 世界各國食物消費高

一八八七に於ける世界の食物消費高を見るに。(マルホール氏統計字典二八五頁)單位千噸

國名	穀物	肉類	バター	砂糖	ポテト	珈琲及茶
英國	六、四〇〇	一、七六三	三、三六	一、三〇〇	六、三〇〇	三、二
佛國	九、一〇〇	一、三二〇	一、五	二〇〇	一〇、〇〇〇	七〇
日耳曼國	一一、〇〇〇	一、三六五	一、八五	二一〇	一三、〇〇〇	一一〇
露國	二二、〇〇〇	一、八五四	二、二〇	四、二	六、七〇〇	一、五
澳國	八、四〇〇	一、〇五〇	一、三〇	三〇五	一〇、〇〇〇	一、三
伊太利	五、三〇〇	三、〇〇	六〇	九八	六、〇〇	一、六
西班牙	三、八〇〇	五、二五	三〇	五三	一、〇〇	七

國名	穀物	肉類	バター	砂糖	ポテト	珈琲及茶
葡國	九〇〇	九四	七	一、二	一〇〇	三
瑞典	一、〇〇〇	一、〇四	一、五	四	一、一〇〇	一、五
諾威	五〇〇	七三	一、三	一一	五〇	七
丁抹蘭	五〇〇	五七	一〇	一一	五〇	九
和義	一、一〇〇	一〇五	三〇	六三	一、二〇〇	二、二
白耳西	一、二〇〇	一、六	四〇	七〇	一、三〇〇	二、四
瑞耳	六〇〇	八三	一、五	三二	一〇〇	九
セルマニア	八〇〇	一一〇	一〇	一〇	五〇〇	一
セルビヤ	九〇〇	七五	一〇	五	一〇〇	一
歐羅巴	七、五〇〇	九、一八〇	一、一三八	三、一三三	二〇、〇〇〇	四、三
北米合衆國	一〇、〇〇〇	一、一〇〇	五、五〇	一、二五〇	一、六〇〇	二、六〇
加奈	九〇〇	一〇〇	五〇	一〇〇	一、三〇〇	一、〇
加洲	七〇〇	二〇〇	三六	一一〇	五〇〇	一、五
計	六、二〇〇	一、三二〇	一、九一五	四、九一一	六、六〇〇	七、四

斯の如くにして歐洲諸國に於ける食物消費は尠からざる額に達し是等食料品は勿論自國に於て生産しつゝ、ありと雖も文明國は原料品又は食物等粗產品の産出にあらずして多く工業生産品なり是によりてか是等原料品及び食料品は多く人口稀薄なる阿弗利加又は南亞米利加諸國に仰けるもの大なり殊に歐洲大戰以來歐洲に於ける食料品の供給自給自足は得て望むべからざるのみならず人口の減少に伴隨し傍ら船腹問題よりして北米合衆國に仰くに到たり而して歐洲人が最も嚮望せる北米合衆國

は歐洲大戰に参加し國民に徴兵法を施行し従つて労働者の不足を感し歐洲に要する食料品は自然南米地方に仰かざるべからざる順序となりたり是我國貿易決濟策として南米に意を注ぎ北米と南米との貿易に對する爲替作用を利用する又決して不可なるものに非ざるなり。

### 第二章 鑛產物

産業の興隆と共に其の應用上必要なるは鑛產物なる可し夫の最も悞る可くして最も國防に必要な兵器と謂ひ軍艦と謂ひ或は船舶と謂ひ海底電信と謂ひ陸上電信電話線等世界の文明を導くべき物は實に鑛產品なり鑛產品の豊富なると否とは實に國運の消長に關す英國の造船事業の進歩したるは鐵と石炭の產出豊富なりしに在るにあり又米國か造船事業及鐵道事業に於て優勢の位置に至りしは又實に鐵と石炭及石油銅金銀の產出大なるもの存るに因れり我國の鐵の產出見る可きものなく僅に石炭の產出ありて今日の發達を來したりと雖も其の產額無限のものに非ず従つて世界各國に於ける鑛產物の研究を爲し一方我產業界に資すると共に他方に於て爲替調節に資するの途を講せざる可からず。

#### 第一節 鐵及銅

鐵の產出の大なると否とは實に工業界の發達と否とに在り我邦は從來山陰地方に於て僅に產出した

りと雖も地方的產品にして國家的生産品に非ず況や世界的商品に非ざるなり獨逸か軍備上兵器及軍艦の完成を致せしは勿論化學工藝の進歩せしに在りと雖もアルサスローレンスに於ける鐵の產出額大なるものあるに在り而かも其の附近に於て石炭の產出せらるゝ寔に甚大なる原因を爲せり今世界に於ける鐵及鋼鐵の產出に就きウエツプス氏新統計字典によれば。

國名	鐵 (Dig. Ton)		鋼 (Steel)		鑛		鐵	
	一九〇八年	一九〇九年	一九〇八年	一九〇九年	一九〇八年	一九〇九年	一九〇八年	一九〇九年
澳 國	一九五八	一九四三	一九五八	一九〇九				
白 耳 義	一、二五〇	一、五九〇	一、二五〇	一、六〇六				
加 奈 陀	五、六三	六、七〇	五、六三	六、八五				
佛 蘭 西	三、三三六	三、五七四	三、三三六	三、〇一〇				
日 曼	一、一六五	一、一四一	一、一六五	一、一八五				
露 國	二、七四六	二、八一七	二、七四六	二、八五六				
西 牙	三、七九	四、三三	三、七九	三、〇一				
瑞 典	五、五九	四、三八	五、五九	三、〇八				
英 國	九、〇五七	九、五三三	九、〇五七	六、六一〇				
北 米 合 衆 國	一、五九三六	二、五七九五	一、四〇一	二、三九五				

該表によりて之を観るに鐵の產出の大なるは北米合衆國にして次は獨逸次は英國なり而して鐵類は日用必需品より軌條機械船舶兵器等に至るまで最も必需品たるは吾人の喋々を要せざる所にして我

國か造船上に於て最も苦心する所たり殊に一大經驗をして米國より教訓せられ今後我國産業方針として米國のみに信賴するべからざるものあるを知らしめたり果して然らば我邦は何れの地方より之を得べきか言ふまでもなく我邦の最も距離に於て近く且安全なる支那國よりすべし支那に於ける鑛鐵の産出は未だ遠く米國に及ばずと雖も其の含有鐵量に至りては或は世界に冠たるものあるべし。

今参考の爲め大正五年九月二十二日大阪朝日新聞紙に漢冶萍煤鐵公司財務顧問笠原實太郎氏の談中左の句あり。

新應の位置は現大冶鐵山石灰窯の所在地袁家湖の下流約一哩より西塞山に及總面積四千五百畝(約九十萬坪)

新廠區域内には莫大の鐵鑛石産出さるゝのみならず鐵鑛事業に要するドルマイト、石灰、白雲石等の副産物尠からず新廠事業愈開始の曉に於ては漢冶萍全體を通ずる銑鐵の産額は一箇年約四十萬噸に達すべき見込なり昨年の産額は十三萬六千噸にして其半額以上は日本に供給され居たり又昨年中の鑛石産出高は約四十萬噸にして是又銑鐵と同様日本の供給高は同公司の使用高と相半し居り我枝光製鐵所及び室蘭製鋼所は今後或久敷契約年間其の原料を得るに窮せざるべし。

大正五年十一月十六日大阪朝日新聞紙上押川長官視察談によれば大冶鐵山の内本溪湖製鐵所は已に

昨年中四萬噸の製鐵を産出し漢陽製鐵所は既設一基の熔鑛爐を使用して年額十三萬噸を産出し更に其の規模を擴張するの一步として二基の舊熔爐を大冶鐵山に新設すべく決定し著手中なりと而して我製鐵所は大冶鐵山より供給を受けつゝなる鐵鑛は本年度使用額のみにも六十萬噸を越へべく實に同鐵山の産額は豊富にして無盡藏ならざるも猶採掘上十分なる餘裕あり若し又供給の力忽ち盡くるの時來らんか之に對して今より豫め候補鑛山の準備あり。

大正六年二月二十八日大阪朝日新聞紙によれば濟華鐵鑛公司計畫と題し左の記事あり。

彭芝橋の鐵鑛湖北大冶縣内彭芝橋に大冶鐵山に劣らざる一大鐵脈あることは久しく傳へられし所にして漢冶萍公司にても已に之を調査せしことありしか此程前商工總長張賽は歐洲戰亂と共に製鐵業の頗る有利なるを認めつゝある折柄該鐵鑛の大に有望なるを聞込みしを以て直に其部下蕭繼煦をして外國技師と共に之が調査に赴かしめたるに其鑛區の廣大なる鑛質の善良なる製鐵業を企つるに十分なるものあるを確め得たるを以て蕭をして更に同地の地主黃某等五名と交渉して同區域一帯を買收せしめ製鐵事業を計畫するに至りしなり。

云々とあり元來支那の鑛鐵は我砂鐵とは異なり多く岩鐵なれば其の含鐵分量頗る豊富なり況や地域廣大にして尙未發見のもの多々あるへし唯我商人の不謹慎なる往々自國人同士にして競争を事とするもの多し斯の却きは蝸蚌の争は漁夫の利を逞ふせしむるのみにして真に我邦の利とならざるなり。

主要各國銑鐵及鋼產額

世界に於ける主要各國に於ける銑鐵及鋼產出額に付き大正七年十二月九日付倫敦山崎領事の報告によれば銑鐵の產額左の如し。

英 本 國	加 州	濠 洲	印 度	自 義	佛 西	伊 太	日 本	露 亞	合 衆	獨 逸	奧 國	瑞 典
一九一三年	10,120,315	1,015,118	4,563	2,484,690	3,207,197	4,267,555	5,576,5	4,557,040	3,096,152	1,929,120	2,380,664	4,247,74
一九一四年	8,933,733	1,015,118	4,563	△ 1,333,110	3,107,197	4,267,555	7,281	4,557,040	3,333,110	1,439,161	1,988,000	3,820,44
一九一五年	8,793,659	8,253,010	7,631,8	2,200,17	3,775,10	6,395,4	3,690,300	2,996,123	2,996,123	1,279,931	1,999,84	4,998,35
一九一六年	9,047,983	1,099,541	1,265,91	2,465,53	4,673,93	7,605,8	3,737,593	3,993,477	3,333,110	1,319,000	2,418,311	4,977,36
一九一七年	9,810,154	1,099,541	1,265,91	2,516,48	4,673,93	7,605,8	3,864,397	3,333,110	3,333,110	1,319,000	2,418,311	4,977,36

又同領事の報告により鋼の各國產出額を見るに。

英 本 國	加 州	濠 洲	印 度	自 義	佛 西	伊 太	日 本	露 亞	合 衆	獨 逸	奧 國	瑞 典
一九一三年	7,633,876	1,015,118	4,563	2,484,690	3,207,197	4,267,555	5,576,5	4,557,040	3,096,152	1,929,120	2,380,664	4,247,74
一九一四年	7,851,133	1,015,118	4,563	△ 1,333,110	3,107,197	4,267,555	7,281	4,557,040	3,333,110	1,439,161	1,988,000	3,820,44
一九一五年	8,550,015	9,127,55	6,155,1	1,015,118	3,775,10	6,395,4	3,690,300	2,996,123	2,996,123	1,279,931	1,999,84	4,998,35
一九一六年	9,196,457	1,265,91	1,015,118	2,465,53	4,673,93	7,605,8	3,737,593	3,993,477	3,333,110	1,319,000	2,418,311	4,977,36
一九一七年	9,810,154	1,265,91	1,015,118	2,516,48	4,673,93	7,605,8	3,864,397	3,333,110	3,333,110	1,319,000	2,418,311	4,977,36

備考 △印は一九一四年前半季のみ×印は推定によれり。

以上未報告の分あれば正確なる比較を見るに難しと雖も概要を推知するに難からず想ふに鐵の產出の有無は近世機械造船鐵道兵器等に大關係を有し其の之を產出する國家は榮へ然らざる國家は進歩に程度あるなり獨逸に於けるアルサスロートリンゲン地方の鐵の產出大にして船艦造船の進歩大なり

る且世界工業機械及レールの供給地として世人を驚かしめたる尙耳朶に存する所而して米國の近時最も旺盛を極むるに至りたる又茲に歸因するもの大なるものあり古くは英國工業の進歩せし全く爰にあり果して然りとせば我國の如き鐵類産出の貧弱なる國家に在りては前途實に寒心すべきものあり歐洲大戰に膺り自給自足主義を唱導し戦後大に此原則に異なる所在りて鐵類の暴落驚く可きものありと雖も是等は蓋し一時的にして世界の進歩と供給力の減少するに従ひ再び禁輸の手段を施さざるなきに非ず爰に於てか再び自給自足を唱導し富有なる殖民地を領有するもの勝利を占むることなきに非ず吾人は今後に於て大に考慮を運らし施設せざる可からず。

英領緬甸礦物の産出

一九一七年に於ける英領緬甸礦物の産出は之を前年に比するときは一割六分五厘の増收にして錫鐵タングステン鐵は著しく増加したるに礦物中の大宗たる石油は却て四分四厘の減收を示せり。

品名	一九一六年	一九一七年	増減
石油	一六、五一三、五一四	一五、七七九、九二八	減
石	七、二四二、〇七五	九、一七〇、九四五	増
タングステン	四、八三〇、六二一	五、九六二、一七二	増
鉛	一、三二八、二七〇	三、五五六、二五三	増
銀	九八四、九五九	一、〇七一、四八八	増
建築及道路用礦材	六七八、三二二	一、〇〇二、七〇五	増
錫	五三七、七一一	六五三、六二二	増
青	二一、六三三	一一〇、二五五	増
ス	三、三四五	三、五九〇	増
錫	二九七、〇二四	四一九、四三三	増
錫	一三九、七二二	四三三、九六八	増
錫	一一五、六三八	六三、七一八	減
錫	八七、三六九	一八、九五八	減
錫	六四、三二四	二、二八七	減
錫	七、五〇〇	一〇、二六〇	増
錫	二、三六〇	一一、四五二	増
錫	一、三三三	一、二三〇	減
錫	九、七五〇	二、八七	減
錫	七九四	二、四五	減
錫	三二、八六六、二三七	三八、二六六、〇九二	増

品名	一九一七年	一九一八年	増減
錫	五三七、七一一	六五三、六二二	増
錫	二一、六三三	一一〇、二五五	増
錫	三、三四五	三、五九〇	増
錫	二九七、〇二四	四一九、四三三	増
錫	一三九、七二二	四三三、九六八	増
錫	一一五、六三八	六三、七一八	減
錫	八七、三六九	一八、九五八	減
錫	六四、三二四	二、二八七	減
錫	七、五〇〇	一〇、二六〇	増
錫	二、三六〇	一一、四五二	増
錫	一、三三三	一、二三〇	減
錫	九、七五〇	二、八七	減
錫	七九四	二、四五	減
錫	三二、八六六、二三七	三八、二六六、〇九二	増

千九一七年に於ける特徴ボードウィン Bowdwin 銀鐵の産額引續き増加し前年の約三倍の産出を見たるはタングステン及錫鐵の産出著しく増加したること、最近ヤメライン Yamethin district 縣の境に近く頗る有望なるタングステンのウォルフラム鐵區を發見したるは實に鐵産額の増額を來せしものなり只石油は頗る減少を呈したりしはイエナンゴーング油田の減收預りて力あり。

大正五年世界銅産出高

大正六年一月二十日アラッドストリート紙の載する所によれば大正五年即一九一六年中に於ける世界銅の産出高は左の如し。(大正六年三月二十日東京銀行通信録)

	一九一六年	一九一五年	一九一四年	一九一三年
北米合衆國	八八〇、七五〇	六四六、二二六	二五五、五九〇	五五五、九九〇
墨西哥	五五、二六〇	三〇、六九六	三六、三三七	六八、三二五
加奈陀	五三、三三三	三、七〇一	三、七〇一	三、八八〇
澳洲	九、三一一	八、八三三	六、二五二	三、八八一
秘露洲	三、五〇〇	三、一五二	三、七五九	四、七三二
智利	四、一三五	三、一五〇	三、三六七	二、四八〇
ボリヂア	四、〇〇〇	三、〇〇〇	四、〇八六	三、九四三
日本	九〇、〇〇〇	七、五〇〇	一、三〇六	三、六九八
日西	一六、〇〇〇	一、六〇〇	七、九三六	七、一五二
獨逸	三、五〇〇	三、五〇〇	三、一九八	三、三二二
亞弗利加	三、五〇〇	三、五〇〇	三、〇八〇	二、三〇八
西班牙	五〇、〇〇〇	三、五〇〇	二、四一五	二、二八七
葡萄牙	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、七〇九	三、四九六
其他諸國	二五、〇〇〇	三、五〇〇	二、一七六	二、七二五
總計	一、一九六、〇〇〇	一、〇六一、三三五	九、七三三	一、〇〇五、九七八

第二節 鹽

鹽は吾人日用食料品より化學工業の原料として最も重要なものなり故に其の産出分量の多額なると生産費の少きは化學工業上に於て優勢の置位を占むることを得可し我國は四境海を環らし海水より之を製するの便ありと雖も之を獨逸の山鹽に比すれば純分及生産費の點に於て遙に劣れりと謂ふ可し近時我臺灣に於て天日製鹽を爲し頗る純分に富めるものを産し本島は勿論對岸に輸出すと雖も廣く内地の需用に應ずる能はざるか如し蓋し内地に於ける食鹽の價高くして百斤六十三錢臺灣に於ては其の價值安くして百斤に付二十錢なりと云ふ若し大蔵省と臺灣總督府との間に於て相互意思疏通せられなば一層内地の化學工業をして旺盛ならしむる難事に非ざるべし今大正六年二月一日木曜會晚餐會に於て臺灣總督府技師片山徹吉氏の講演を左に録し以て参考に資せんと欲す。

鹽に就ては打狗に於て曹達製造の事業を計畫せり元來曹達事業たる化學工業上に至大の關係を有するものにて化學工業の基を形成するのを見て可なるべし我國に於て曹達は關東酸曹會社及び小野田舍密會社等にて製造せらるゝも全國需用額の四分の一を産出するに過ぎず他は悉く外國の輸入に係れり歐洲戰爭の始まりしより我農商務省は化學工藝調査會なるものを組織し知名の學者先生によりて研究を開始し是等委員は各部門を分ち調査に著手し其の内曹達と色素とは最も重きを置かれ二者何れを先にすべきか否の問題となり終に色素の方を先にすること、なれり蓋し曹達は經費の關係上後廻となりたるなり從來本邦に於て曹達工業の旺盛ならざりし一原因は曹達の原





世界に於て資本的優越権を得んとし英佛に對して好餌を與へ殊に墨國の銀鑛區は資本的關係を以て墨人の賣買自由ならざるものあり終に金禁輸に成功したりしなり。

#### 第四節 原油

歐洲開戦以來石油の需用増加せしのみならず燃料として石炭に代ふるものあるに至る油田の存在せると否とは今後産業の開發と否との問題たる可し。

大正六年度に於ては世界を通じ新油田開發に努力し従つて原油産額は實に著しきものあり最近の調査によれば同年中原油の産額は大要左の如し。(單位バレルバレルは特約八升四合)

米 國	三、四一、八〇〇、〇〇〇	秘 露	二、七〇〇、〇〇〇
露 國	七〇、〇〇〇、〇〇〇	トリニダツト	一、六〇〇、〇〇〇
墨 西 哥	六〇、〇〇〇、〇〇〇	獨 逸	一、〇〇〇、〇〇〇
蘭 領 印 度	一四、〇〇〇、〇〇〇	亞 爾 然 丁	九〇〇、〇〇〇
羅 馬 尼 亞	一、〇〇〇、〇〇〇	埃 及	五〇〇、〇〇〇
印 度	八、五〇〇、〇〇〇	加 奈 陀	二〇〇、〇〇〇
希 臘	五、〇〇〇、〇〇〇	伊 太 利	四四、〇〇〇
日 本	三、二五〇、〇〇〇	其 他	三〇、〇〇〇

該表によれば米國最も多量産出し次は露國次は墨西哥次は蘭領印度なり我國の如きは世界の第八位に位し而も希臘國に及ばざるなり。

### 第三章 工業原料品

世界に於ける工業の進歩は自國に於て原料を供給するあるか又は植民地に於て産出するものあるに在り英國が紡績事業の旺盛を來せしは當時の植民地たる北亞米利加に棉花の産出在るにありし然るに米國は一朝獨立して英國の羈絆を離れたるより其の原料を印度埃及等に轉するに至りしは歴史の示す所なり我國の紡績事業たる幸に現下旺盛を極めりと雖も自國及び自國植民地に仰くにあらずして印度及北米合衆國に其の供給を仰けり今後如何に變遷す可きかは大に注目し價ひす可く現に最近英米二國に在りては自國産業保護の目的を以て大に綿製品を製出し以て東洋市場に競争せんと傳ふるものあり我商工業者たるもの及金融業者たるものは注意せざる可からず。

#### 第一節 棉花

紡績事業は世界に於て英國のリヴァプール及マンチエスターに於て最も發達せり當時亞米利加の發見せられ次て英領となりて棉花の栽培を奨勵し英國は棉花を輸入し之を紡績し又は製品とし米國其の他に輸出し爲めにリヴァプール及びマンチエスターの名世界に知らるゝに至れり故に我國に於ては皆之を英國に仰きたりしが明治維新の當初島津公は鹿兒島に之が事業を計畫し夫より關西地方に於て紡績事業を營み現今の如く繁盛に赴き東洋諸國に供給するに至りしものなりと謂ふ。

大正五年一月以降十一月までに於ける我國が輸入せる棉花輸入額及國別事情を見るに左の如し。

印 度	米 那	支 那	埃 及	其 他	計
四、八二八、〇六七	一、九七九、〇〇四	四九四、〇九三	一四一、八二三	二二三、八二九	七、六七六、八一六
一五四、九四四、五六九	六九、六二一、一一二	一三、九八四、二四三	七、九八六、二七二	四、五一九、三三五	二五一、〇五五、五三一
數	價	額			

是によりて之を見るに此の原料を印度に仰く大なるものあり従つて棉花原産地の生産及財政金融の事情は一に其の影響を蒙るものあるを知るべし故に一方の原産地に於ける或事情の存するときは又他に需むるの研究を爲さざるべからず故に今世界に於ける棉花の産出を見るに。

(ハウェツプス氏新統計辭典)

北米多ク、合衆國)	南米(多ク、ブラジル)	希 臘	土 耳 其	印 度
一九〇二年 一〇、六三三、〇〇〇	一九〇二年 三、〇〇〇、〇〇〇	一九〇二年 一、〇〇〇、〇〇〇	一九〇二年 八、〇〇〇、〇〇〇	一九〇二年 五、〇〇〇、〇〇〇
一九〇三年 九、八二五、〇〇〇	一九〇三年 三、〇〇〇、〇〇〇	一九〇三年 一、〇〇〇、〇〇〇	一九〇三年 五、〇〇〇、〇〇〇	一九〇三年 五、〇〇〇、〇〇〇
一九〇四年 一三、五八六、〇〇〇	一九〇四年 三、〇〇〇、〇〇〇	一九〇四年 一、〇〇〇、〇〇〇	一九〇四年 五、〇〇〇、〇〇〇	一九〇四年 五、〇〇〇、〇〇〇
一九〇五年 一〇、七五七、〇〇〇	一九〇五年 三、〇〇〇、〇〇〇	一九〇五年 一、〇〇〇、〇〇〇	一九〇五年 五、〇〇〇、〇〇〇	一九〇五年 五、〇〇〇、〇〇〇
一九〇六年 一三、一七二、〇〇〇	一九〇六年 三、〇〇〇、〇〇〇	一九〇六年 一、〇〇〇、〇〇〇	一九〇六年 五、〇〇〇、〇〇〇	一九〇六年 五、〇〇〇、〇〇〇

右によりて之を見るに最も多く産出するものは北米合衆國にして次は印度次は埃及支那及ブラジルの順位なり米國は最も多く産出すると同時に品質良く細絲紡績に適す然れども價值高くして東洋向として不向なり印度棉は太絲に適し爲めに我紡績界は多く印度棉に仰き米絲を混して之を紡績して調節を保てり。

大正五年十二月英國に於ける印度事務省は從來爲替資金の都合に依り發行し來りたる印度證券の發行を制限したるより爲めに我紡績業者の一大問題となり大正六年一月十三日紡績聯合委員會は大阪ホテルに開會し救濟方法に就て協議する所ありたり其の協議事項は左の如し。

- 一、今後の運動方針は日本棉花同業會商會議所其の他の團體と協力して運動する事
- 二、資本の調節としては對印輸出を奨励すべく政府に建議すること而して其の具體的方法は慎重研究の上追て決定する事。
- 三、應急策としては神戸港に目下停滞せる印度行輸出貨物三萬噸を一掃すること其の方法としては各汽船會社に交渉して船舶の供給運賃率の低減を圖る事

等の諸件を決議し前年度對印輸出は金六千餘萬圓にして本邦棉花買入れ資金は約一億圓なれば其の差額金一千二百餘萬圓は正貨を輸出して以て貸借を決済せんとする方法に出る爾來米國より金の輸

入を仰き之を印度に廻送したりしと雖も米國の禁金輸によりて一頓挫を來すに至れり即ち米國に於ける金塊は中立國を經過し即當初西班牙和蘭等を経て敵國に流るゝもの多きより之を禁せんとして大正六年八月二十七日其の令を發布したりしが其の後(一)自由公債の募集を完ふするため(二)金準備擁護(三)銀行家の投機防壓(三)資本戦争の爲め等により我邦に對する金の輸出を制限したるのみならず終に輸出を禁するに至れり斯の如くにして日印間貿易及び爲替調節に就ては政府銀行家等及當局者を初め上下共に苦心せる所にして當時新聞紙の傳ふる所によれば大約其の方法左の如し。

一、印度に對する輸出貿易を奨励すること

二、印度に正貨を輸出して調節すること

三、米綿を輸入して混入すること

四、印度より棉花資金を借入ること

等なり右第二の正貨輸出調節は目下米國に於て金の輸出を緩和するに非ざれば望を屬すべきものに非ず少く共戦争の持續中は困難なる問題なるのみならず夫の正貨問題は米國に於て金準備殊に倫敦に代りて世界の爲替調節をなし世界金融中心市場を擁護する爲め當時金の輸出を自由にせざるのみならず前通商局長プラット博士は「亞米利加第一」「黄金外交」即ち「資本戦争」主義者にして今回の金禁輸は政府之を襲踏したるものなりとせば容易に正貨調節は困難とすべく第四の印度より借入金爲すは戦時中必要のことにして印度政府及當局者に於て之を許容せば一時の方便とすべし然れども

印度政府は兌換準備薄弱にしてカウンスル、ビルを制限したる之に基くものありとせば多少疑問たるなり我邦の如く海外正貨を以て直に兌換準備に編入せば我棉花負債を假に正貨と見做し兌換準備金に編入し借入金と調節し得ざるにあらずと雖も是印度政府の採用するや否やは吾人の知らざる所なり第三の米棉輸入は唯品質の良好なるより綿布高値となり需用者を減するとの杞憂に因すと雖も從來も已に混入せる所にして尙多少多く米棉輸入は困難に非ざるべし況や需用者たる支那國は銀爲替騰貴のため輸入品は頗る安値に需用せられつゝ、あるなり銀爲替相場たる休戦と共に下落に傾くものあるべしと雖も戦時中は一昂一低にして繼續すべく爲替相場にして高ければ多少高値なる綿布の需用減退すべきにあらず要するに尙多少米綿を混して價値高まるも値段によりては格別のことなかるべし唯要は米綿を輸入すとせば何等かの方法により生産費を減少する方法を講すべきなり即ち海上運賃及汽車賃其他製造費を省略することを計畫するにあり。

今我國の紡績事業たる今後尙印度證券の發行せらる事情の影響大なることを思ひ印度證券に就き左に少しく其の事情を記し参考に供せんとす。

#### 印度證券

印度證券(Council Bill)なるものは如何なるものなりや横濱正金銀行の調査發表したる所により其の概要を擧ぐれば。

印度政府は政府勘定として倫敦に於て支拂ふべき巨額の資金を要するなり其の支拂ふ可き資金の種類は印度政府及公共團體に屬する英貨公債の償還利拂及官吏恩給其の他政府事業に要する材料の買入資金等にして毎年巨額に達す故に印度省は倫敦に於てカルカッタ、孟買、及マドラスに於て支拂はる可き印度政府宛普通電信爲替又はデフアード、チー、チー又はビルを倫敦にて賣出すなり換言せば印度證券は印度政府が印度より倫敦向回金の爲め倫敦に於て印度證券を賣出さるゝものたり而して證券の賣出は毎週水曜日倫敦に於て競賣に附するものなりと雖も需用あれば爲替相場を引上げて賣出に應せるなり之をエキストラ、カウンスルビル Extra council Bill と謂ふ

以上の如く印度證券の賣出は専ら英印間に於ける資金の振換のみならず印度輸出貿易金融の爲めに設けられたるものなり故に印度政府の國庫保有金にして之が支拂ひに不足を來すときは倫敦に於ける印度證券賣上代金を國庫勘定より紙幣發行準備に繰入れ其の代り印度に於ては之を引當に紙幣を發行して國庫に組入れ印度證券支拂資金に供す。

第二節 羊毛 Wool

羊毛の消費者は從來歐米人のみなりしに世界各國民の服裝の變化に伴ひ毛製品の需用大なりしのみならず其の他各種の服裝に於て需用せらるゝに至れり而して羊毛の生産地は英國領地にして次は南米アルゼンチン共和國なり故に英國に於て世界の羊毛時價を左右せんと欲せば容易に行はるゝ、嫌あ

り。

一八〇六年に於ける羊毛の輸出入を見るにウエツプス氏新統計字典によれば額は左の如し。

(六三四頁)單價百萬封度

洲	輸 入		輸 出	
	額	年	額	年
瀛洲	四八〇三	一八〇六	四八〇三	一八〇六
アルゼンチン	三三六七	一八〇六	三三六七	一八〇六
ニューシラランド	一五九八	一八〇六	一五九八	一八〇六
ブリチツシサウス	八八八	一八〇六	八八八	一八〇六
アメリカ	五七七八	一八〇六	五七七八	一八〇六
佛蘭	九〇六	一八〇六	九〇六	一八〇六
ウラゲ	二二七	一八〇六	二二七	一八〇六
英領印度	一三四九	一八〇六	一三四九	一八〇六
白耳義	四〇一	一八〇六	四〇一	一八〇六
露西亞	四二八	一八〇六	四二八	一八〇六
英蘭	二九八	一八〇六	二九八	一八〇六
和蘭	二八二	一八〇六	二八二	一八〇六
日曼	四九〇	一八〇六	四九〇	一八〇六
米耳	二〇三八	一八〇六	二〇三八	一八〇六
澳西利	五二九	一八〇六	五二九	一八〇六

南阿羊毛

大正七年五月三日附在ケープタウン外務書記生清水八百二氏の報告によれば十月より十二月末まで

にしてダーバン、ポルトエリザベス、イーストロンドン等にては十月より二月末まで長毛賣買多く二月より五月までは短毛の取引期なり今一九一七年八月一日より一九一八年三月一日に至る期間に自由市場に於て取引せられ海外に輸出羊毛の數量及價額を見るに。

輸出先		純數量	價額	羊毛一封度に対する平均直段
英吉利	七三三、九四三	四六、三四三	一四・三七	一八・五六
佛蘭西	五九、八〇〇	四、六二五	一〇、二七七	一四・三七
加奈陀	一七一、六七二	二、三三四、八七二	二、五二二	一六・一七
北米合衆國	三四、六六四、〇九三	二、五二二	二、五二二	一九・八七
日本	三〇、三七四、六一九	四、九一〇、九九二	一、四〇一、九七〇	一七・八九
計	六六、〇四四、一二七			
精製	英吉利	一八、〇一七	二、五二二	三三・六〇
洗毛	加奈陀	二二、三九、〇二〇	二八、一八六	二八・三〇
毛	北米合衆國	七、一八五、三二二	一、二〇三、一七九	四〇・一九
計	日本	九八六、七三五	一六八、〇八三	四〇・八八
		八、四二九、〇九四	一、四〇一、九七〇	三九・九三

第三節 生絲

生絲は素と東洋の特産品にして我邦に於ては業已に二千年以前之を産出し歐洲に於ては東羅馬帝國ヂヤスチニアン帝の時蠶種を支那より宣教師の手を経て持歸りバルカン半島に飼育せられ夫より伊

太利に傳はり佛蘭西に及び今日に及べり。

生絲は織物又は裝飾用品に使用せられ光澤優美なるより歐米人は好んで之を使用す故に東洋地方より歐米に輸出する額尠からず歐米に於ては更に之を織物又は裝飾品として精製し更に東洋地方に輸出し來るなり今世界に於ける生絲の産出を見るに。(ウエツナス氏新統計字典)

生産額 (千封度)

國名	一九〇四年	一九〇五年	一九〇六年	一九〇七年	一九〇八年
伊太利	10,800	9,768	10,821	10,210	9,890
佛蘭西	11,373	12,281	12,331	12,220	12,222
澳匈國	6,911	7,211	7,541	7,941	7,211
西班牙	1,710	1,311	1,121	1,121	1,121
波蘭	9,229	1,012	1,382	1,342	1,002
トリス	1,096	1,212	1,111	1,342	1,002
アラ	1,036	1,020	1,032	1,172	1,122
シナ	1,024	1,020	1,002	1,020	1,020
高麗	1,024	1,191	1,120	1,290	1,290
支那	1,398	1,310	1,311	1,310	1,310
日本	11,846	10,183	11,111	14,000	16,689
英領印度	3,791	6,171	7,171	7,171	7,171

是によりて之を見るに世界中支那日本を以て最高とし歐米に於ける精製品の原料は勢ひ東洋に仰かざるべからず即ち東洋は養蠶國にして其の紀元又古代に在るに拘らず進歩の程度に到りては遙に歐洲に及ばざるのみならず蠶病中最も悞るべきピリユール病の如き佛人によりて發見せられ諸機械の如き之を歐洲に仰ぎたるか如き常に歐洲人の跡を慕ふか如き有様なり想ふに維新前學術の進歩せざるより爰に到りしならんと雖も現今大日本蠶絲會あり西ヶ原試驗場あり其の他學術の進歩著しきものあれば益々歐米人の智能に依頼せず進んで種々なる研究を爲し原料の豊富と品質とを期待し生産費省略をして一層研究を爲し且其の需用地方を擴大することに注意せざるべからず。

第四節 護 謨

世界に於ける護謨の需用額は年一年増加し運輸交通事業より各種の製品に産出せられ工業用原料として缺く可からざるものとなれり而して世界中に於て其の原料の産出は東洋及南米にして東洋に於ける産出地は英領植民地にして即ち新嘉坡附近に在り又一は蘭領印度なり獨領印度ありと雖も世界に於ける東洋地圖變遷は益々英領をして大ならしむる傾向あり斯の如くにして世界に於ける工業原料品が英國の獨占に傾きづ、あるは其の他諸國の工業進歩上に一大影響を及ぼさざる無きに非ず何となれば自由貿易の祖先たる英國は已に保護貿易國となりたればなり況や嘗てチェンバーレン氏の主唱に係る植民地關稅同盟にして成立するあれば益々此現象をして濃厚ならしむるものたり今世界

に於ける護謨の産出高を見るに。

英國倫敦ゴウスタントン會社の世界護謨産出高調査によれば左の如し。

(大正六年三月二十日東京銀行通信録)

年	東洋	伯刺西爾	其他諸國	計
一九〇六年	五三三	三六〇〇〇	一七五〇〇	六六〇三三
一九〇七年	一三三三	三六〇〇〇	四〇〇〇〇	六九三三三
一九〇八年	一〇一〇	三九〇〇〇	一七五〇〇	六六五〇〇
一九〇九年	三九九七	四一〇〇〇	一七〇〇〇	六九七九七
一九一〇年	七五二二	四〇〇〇〇	一七五〇〇	六九八二二
一九一一年	一三九七三	三七五〇〇	一七〇〇〇	七四六〇三
一九一二年	二六五二八	四一五〇〇	一六〇〇〇	九八〇二八
一九一三年	四七三〇三	四一五〇〇	一七五〇〇	一〇六一五三
一九一四年	七一九九九	三七〇〇〇	一七〇〇〇	一〇九九九九
一九一五年	一〇五二〇五	三六三〇〇	一七〇〇〇	一二五五〇五
一九一六年	一五〇〇〇〇	三三〇〇〇	一七〇〇〇	一九八〇〇〇

備考 一九一六年中の産出額は十一月三十日迄に至る統計なり。

第三編 世界各國の貿易

業已に我國の輸出入貿易を研究し又世界各國に於ける生産品的情況を觀察し我國の産業政策及貿易

政策に資する所ありたり更に進んで世界各國に於ける貿易の状況を研究し以て我帝國が果して如何に國際貿易と國際爲替に傾當す可きがを論せんと欲す何となれば從來の輸出入貿易は二三外國に限られたるより従つて世界の影響少かりしと雖も現今我國の修好條約國は歐洲各國より北南米諸國に及び實に新舊世界の兩球に亘れり世界に於ける事々物々の變遷は時々刻々に迫り來り其の最も速度の速なる通信國が勝利を占むるに到るなり英國が商業世界に於て最も優秀なる位置に在るは實に海底電信線の賜と謂ふを得べく又戰時策戰計畫をして最も敏速に時宜を誤まらざりしも海底電信に在り我國が今俄に英國に習ひ幾億の費用を投じて海底電線を布設し得可からずと雖も少く其無線電信を擴張し以て時宜を誤まらずして且敏速に商機を逸せざることに注意せざる可からず是等の點よりして世界各國に於ける貿易の消長を研究し以て我對國際貿易と國際金融と國際政策に資せざる可からず。

### 第一章 歐洲市場

吾人は歐洲市場は世界の文明に於て最も近世史上進歩せるものなるを以て第一に茲に之が研究を爲さんと欲す勿論我邦家の立場よりせば東洋市場を第一に研究せざる可からずと雖も世界に於ける商業史上に於ても亦金融史上に於ても歐洲は實に近世史に於ける文明史上一步を進めたるものたり故

に吾國との關係如何を問はず近世文明上の發達の順序として茲に之が研究を爲さんとす勿論之が研究たるや唯歐洲商業史を研究せんとするに非ず吾國の立場よりして我邦との關係に於て立論せんと欲す我國と歐洲との外國貿易は大正三年に在りては輸出超過一億三百七十七萬一千圓にして大正五年には尙増加して一億四千七百十九萬六千圓となり蓋し斯の如きは歐洲大戰の影響にして常に輸入超過に苦しむたるに戰爭の結果幸に輸出超過となれり然れども斯の如き現象は一時的にして永續的のものにあらず果して然りとせば現今歐洲に對し輸出貿易増加して正金の輸入すべき高倍蓰せりとて決して樂觀す可きに非ず試に歐洲市場に於る貿易の事情を觀るに。

國名	輸 出						輸 入					
	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	大正一年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年	大正一年
英 吉 利	101,666,000	101,666,000	6,499,000	3,500,000	3,286,000	6,330,000	8,173,000	5,808,000	9,233,000	11,276,000	11,276,000	11,276,000
佛 蘭 西	97,810,000	6,600,000	4,193,000	3,110,000	6,012,000	4,364,000	4,047,000	3,890,000	4,337,000	4,337,000	5,868,000	5,868,000
獨 逸	1,795,000	3,872,000	5,011,000	11,006,000	2,942,000	4,335,000	7,011,000	2,999,000	6,455,000	9,448,000	9,448,000	9,448,000
伊 太 利	1,400,000	3,900,000	4,000,000	5,900,000	3,311,000	3,086,000	1,830,000	1,512,000	1,547,000	1,749,000	1,749,000	1,749,000
瑞 士	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
瑞 典	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
和 國	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
瑞 典	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000



諸國	1914	1915	1916	1917	1918	1919	1920
瑞典	11014	10041	11134	11917	12947	11068	11115
露西	13714	13511	12134	11917	10897	11068	11115
西班牙	524	1498	349	343	185	154	194
丁抹	59	409	452	369	335	111	165
土耳其	1	19	2	194	183	8	18
葡萄牙	33	17	13	18	15	8	18
其他諸國	16	54	3	1	2	10	11
計	35122	22648	22666	9171	14715	8176	10041

是によりて之を観るに戦前に於ては獨澳兩國の貿易は密接の關係を有し殊に獨逸國に在りては最も密接なる關係を有したりしに戦後に在りては敵國との貿易斷絶し英佛の貿易著しく増加したり而して瑞典國の如きは戦後却つて増加し中立國とは謂へ頗る奇觀を呈せりと謂ふ可し蓋し以上の現象は一時的影響の然らしむる所にして永續のものにあらずと雖も今後に於ても或期間は繼續し得るものと見做す可く只英佛に於ける輸出貿易は必ず永續すべしとは斷言すべからざるのみならず労働者の復歸婦人労働者の増加機械工場之の進歩等に連れ輸入は變じて輸出貿易旺盛となるやも測る可からず果して然りとせば現今我輸出貿易の好況により倫敦に於ける正貨保有は忽にして減少し終には戦前に於ける状態に復歸し在外公債政策を再びするの不幸あるや測り知る可からざるもの存り果して然りとせば我輸出貿易の旺盛なるは實に權花一朝の夢にして再び海外爲替に於て他動的消極的に苦

みたるものも變じて自動的積極的に苦しまざる可からざるに至らん是吾人が現在の情況に於て貿易の事情によりて爲替取組の決済を考究し從來反對なる傾向の來るあるときに方りて克く之に策應するの考慮を運さる可からざる所以なりとす。

以上我邦と歐洲に於ける對外貿易及其の情況に就て大に現下の情況により更に將來の趨勢を察みざる可からざるを示したれば之より進んで歐洲各國に於ける國家の事情其の物より研究し以て世界貿易の現状を闡明せざる可からず何とければ我邦と歐洲に於ける貿易の状況を觀察し又歐洲其の物の相互間に於ける情況を觀考し間接貿易を利用し間接爲替の決済上に資する最も肝要のことなればなり故に左に歐洲強國に於ける貿易の事情を窺はんと欲す。

第一節 英國の外國貿易

英國に於ける一九一六年及一九一七年に於ける貿易を觀るに左の如し。

輸出入	一九一六年	一九一七年	前年に比し増減
輸出入	948,564,922	1,065,256,407	△ 116,791,485
再輸出	506,257,007	525,089,911	△ 19,022,844
輸入超過	442,307,915	540,166,496	△ 97,858,581

備考 一、△は増●は減印なり。

二、一九一七年下半年に於ける六箇月間の數字中には一九一六年に包含せざる政府の輸入額を含む。

一九一七年度に於ける英國の輸入超過は右表によれば四億七千餘萬磅にして我邦貨に換算せば四十億八千餘萬圓なり又前年に比較せば一億二千五百餘萬磅の増加なり蓋し該増加たるや前年に含まざる政府輸入品を含みしと物價の騰貴せし一原因なりと雖も要するに斯の如く多額の輸入超過を爲す資源は從來外國に放資せし資金と更に外國に於て公債を募集せし額あるに由れり從來英國の外國爲替の權威は蓋し外國公債に對しての應募大なるに在る最も有力なるものたる可し況や世界に於ける金融市場をして英京倫敦に於て決済せしめ世界の資金市場の中心たればなり今重要品の輸出入を見るに。

重要品輸出入額

輸 入 品 目	一 九 一 六 年	一 九 一 七 年	前 年 に 比 し 増
食料、飲料、煙草	四一九、一六六、六二四	四五五、三一、九六三	三六、一四五、三三九
原料品未製品	三三六、七九一、七四〇	三八五、三七四、〇一九	四八、五八二、二七九
製 品 類	一八九、一九四、三一八	二一八、四八四、五一四	二九、二八、一九六
雜 品 類	三、三三三、七八〇	六、〇八五、九一一	二、七五二、一三一
合 計	九四八、五〇六、四九二	一、〇六五、二五六、四〇七	一一六、七四九、九一五

輸 出 品 目	一 九 一 六 年	一 九 一 七 年	前 年 に 比 し 増
食料飲料煙草	二九、四九五、一六八	一六、三二七、〇五五	一三、一一八、一一三
原料品未製品	六四、三四五、〇九八	六七、三六七、四三〇	三、〇二二、三三二
製 品 類	三九三、三九七、七五一	四二一、五九六、四〇〇	二八、一九八、六四九
雜 品 類	一九、〇四一、六九〇	一九、九六八、〇六六	九二六、三七六
合 計	五〇六、二七九、七〇七	五三五、三〇八、九六一	一九、〇二九、二八四

備考 ●印は減なり。

右表によりて之を観るに輸出入品共に増加せしも偏り輸出中食料飲料煙草等の部に於て減少せり是戰時中食料品保護上に於て斯る傾向を示せるものなる可し輸入品中増加の顯著なるものは穀類及製粉にして四千百五十萬磅を棉花は二千五百萬磅を種油、脂肪、及羊毛は各千二百萬磅を増加し輸出にありては綿製品二千七百萬磅を雜製品二千萬磅を毛製品五百萬磅を増加し食糧品は千三百萬磅を鐵及鋼粒に同製品は百萬磅を減少せりと謂ふ然れども是戰時中の現象にして戦後に於ては又戦前と等しく工業品を専とし原料を海外より輸入して之を精製し更に海外に其の需用を需むるものあるや必せり現に英國首相ロイドジョージ氏は今回の國際聯盟に於てウキルソシ大統領提議に係る海洋の自由に反對し而して陸軍に於ける徵兵制度に反對するものある此間の消息を漏すに十分なり我國の世界的に一視同仁なる可き人種問題の如き英米二國は敢て耳を傾むるものなきのみならず米のロツ

ジ氏濠洲首相ヒューズ氏の如き絶對的反對を試みたり斯の如くなれば英領と英本國との聯領は今後益々鞏固を加ふ可く東洋人類は世界各國に閉鎖せられ世界的勞働の神聖と自由とは認められず從つて貿易上に於ても常に優秀なる權利を得ることなく常に白人二三強國の鼻息を窺ふより外無かる可し斯の如きは實は本論の問題外なりと雖も蓋我邦の貿易及爲替決濟上に於て否東洋人の世界通商貿易上に於て一大障害となる可きは火を賭るより明晰の理なり茲に於てか我邦人たるものは歐米の文明國より以外に於て發展の素地を造り之に漸進せざる可からず吾人は此歐米文明以外に於て東洋文明を作り之を世界に擴張するの心掛なかる可からず想ふに東洋人たる者は各自自ら反省し世界人道の爲めに一見識を建て佛陀の光明無邊なるの境遇に介在し且之を闡明し堂々の陣を張らざる可からざるなり一視同仁と謂ひ公明正大と謂ひ民族自決主義と謂ひテモクラシーと謂ひモンロー主義と謂ひ軍備制限と謂ひ種々なる名目を以てするも自我を離れれば何等の價値なく國際聯盟を説くも世界平和の公平なる見地よりして國際的均等の一隻眼を以て差別主義を撤去し而も此差別主義撤去か平等觀中に在りて差別を離れず佛者の所謂差別則平等平等則差別の觀に在りて公平無私ならざる可からず純理上人類に黃白の差なく世界に人種的偏見ある可きに非ず世界の建造は豈只白人の貢獻のみにあらず東洋人の文明に貢獻したるは已に二千年以前に在り或殖民地最近發達史の建設の如きは世界文明史の一部分を建設したるに過ぎず之を以て豈夫れ東洋文明人を無視す可きものならんや

若し夫れ一部殖民地の發達は白人の建設に在りとするも之を以て絶對的のものに非ず若し一部殖民地人か其の功驗により東洋人を排斥するものなりとせば東洋文明國に對し容喙するの權利なかる可し若又東洋人に於て自國保存と保護上よりして假に白人を排斥するも何等言句ある可きに非ず。

英國對日本貿易

一九一七年即ち大正六年に於ける英國對日本との貿易に關し大正七年十二月二十七日倫敦駐在山崎領事の報告により輸出入の狀況を見るに左の如し。

年	日本より輸入	日本へ輸出	輸入超過	輸出超過
一九一三年	四三、七六〇、六	一四八、七二七、〇		一〇四、九六六、四
一九一四年	同 三、三	八五、〇七五、五		四四、五五九、二
一九一五年	同 四、四	五二、九四二、四	五、一〇〇、〇〇〇	
一九一六年	同 五、五	七九、五八一、九	四五、四〇八、八	
一九一七年	同 七、七	五八、四四六、二	九、四三二、六	

右の表によりて之を觀るに歐洲大戰爭の影響の大なるを見る即ち歐洲大戰爭は大正三年の秋にして其の以前に在りては英國より我國に對する輸出超過實に大なりしも大正四年以降は却て我國より輸入超過を見るに至り而も其の金額四百萬磅以上にして大正六年には九百萬弗以上となり邦貨に換算せは實に九千萬圓以上なり英國か戦後大に活躍せんと欲し對外貿易進展策を講しつゝあるは止むを

得ざることなりと雖も我國に於て利せしより尙十倍以上の米國對策に至りては敢て講ずることなき  
 觀あるのみならず濠洲人と共にアリアン人か人種的差別及内政干渉と稱する偏見に走しるには非ざ  
 るなきやを思はしむるは理由の存在に苦しまざるを得ず吾人は國際聯盟問題及内政干渉上に就て一  
 言なき能はずと雖も茲に之を論せんとするものに非ず只英國貿易の趨勢を研究し一層世界の貿易上  
 に就て歩を進めざる可からず豈他あらんや。

第二節 佛國の外國貿易

大正七年一月在里昂帝國領事木島孝藏氏の報告に係る西歷一九一四年に於ける佛國外國貿易額は總  
 輸出入合計百四十四億法にして之を我邦の通貨に換算せば約五十五億七千二百八十萬圓に相當し同  
 年本邦貿易額十一億八千七百八十四萬圓に比し約五倍弱なり今一九一〇年以降五箇年間に於ける貿  
 易情況を見るに。(單位百萬法)

年	總輸入額	總輸出額	輸入超過	純輸入額	純輸出額	輸入超過
一九一〇年	九一〇三	八一〇五	九九八	七七三	六二三四	九四〇
一九一一年	九八一〇	八〇二二	一七九八	八〇六六	六〇七七	一九八九
一九一二年	一〇一五九	八八四四	一四一〇	八二二二	六七三三	一五二八
一九一三年	一〇七三四	九二六〇	一四七四	八四二二	六八〇〇	一五四一
一九一四年	七八九五	六五〇五	一三九〇	六四〇〇	四八六九	一五三三
五年平均	九五六五	八一四二	一四二四	七六九	六二一五	一五〇四

一九一三年まで逐年活況を呈したる外國貿易は一九一四年に以て一大頓挫を現したるは畢竟八月以  
 降戦争の大影響を蒙りたるに基因す。

一九一四年對諸外國輸出入額別表

國名	輸 入		輸 出		前年に比し減	
	百萬法	單位	百萬法	單位	百萬法	單位
英 國	八五二	一〇三	一一六	二二九	二九九	二九一
獨 逸	六二四	一〇三	二二九	一〇三	四五四	二九一
露 西	三一九	二六	二六	二六	一〇九	九〇
白 耳	三二八	二六	二六	二六	二二九	五〇七
西 牙	一九三	二六	二六	二六	八九	九〇
伊 太	一七四	二六	二六	二六	六七	九〇
瑞 尼	一〇一	二六	二六	二六	三三	一〇一
羅 馬	九五	二六	二六	二六	△七	九
和 國	八一	二六	二六	二六	三三	九
土 其	七九	二六	二六	二六	三三	九
埃 國	六二	二六	二六	二六	三三	九
瑞 典	六一	二六	二六	二六	三三	九
丁 抹	二四	二六	二六	二六	三三	九
諾 威	一九	二六	二六	二六	三三	九
希 臘	一九	二六	二六	二六	三三	九

加	グ	ウ	智	伯	亞	墨	北	亞	英	モ	埃	阿	濠	蘭	英	支	日	亞	葡
奈	エ	ル	利	刺	爾	西	米	米	領	ロ	弗	弗	洲	東	領	領	本	細	牙
陀	ラ	グ	イ	西	然	然	合	合	弗	ッ	利	加	洲	印	印	那	洲	洲	洲
三	二	四	一	一	二	一	七	七	四	一	六	二	二	三	三	一	九	一	二
七	四	九	三	五	三	八	九	九	二	七	七	二	四	五	二	七	三	一	二
三	三	三	二	二	三	九	一	一	三	一	二	三	二	四	三	二	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
九	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

備考 輸出入額五千萬法以下のものには概ね省略せり。  
表中減の部△は増加を示す。

對佛領植民地純輸出入額地方別表

亞	印	西	マ	サ	ロ	佛	マ	レ	グ	佛	コ
爾	度	部	ダ	ン	ン	領	ル	ユ	ラ	領	ト
然	支	亞	カ	ヒ	ク	印	チ	ニ	ド	太	ア
丁	那	利	ス	ミ	ラ	度	ニ	ツ	ル	洋	ソ
		加	ガ	ク	バ				プ	諸	マ
										島	リ
百	百										
三	三										
二	二										
一	一										
〇	〇										
△	△										
〇	〇										
一	一										
二	二										
三	三										
四	四										
五	五										
六	六										
七	七										
八	八										
九	九										
十	十										

佛國に於ける貿易の種類別によるときは食料品の輸入に於てはアルゼリア第一に位し佛國輸入食糧品總額の十八億千四百萬法の一割四分三厘を占め北米合衆國第二位に位せり想ふにアルゼリアは一帯帯水にして佛國の南に位し地中海を隔て、直に輸送し得るなり故にアルゼリアが第一位を占むる

勿論のどにして何人が是を視るも食糧品問題に就て國策の樹立上に於て當然のこと、謂ふ可く實に地の利によりて好植民地を有するものと謂ふ可し然るに北米合衆國の第二位に位せる如何に米國が聯合國に盡瘁せしことを好感を以て歓迎せしやを推知し得へ可しつ従て米國が歐洲の中原に於て如何に從來の發言權上に優勢を期待せんと期しつ、あるを窺ふに足る可し。

食料品の輸出總額は六億四千六百萬法にして英吉利は其の首位を占め二割八分九厘を示せり夫よりアルゼリア第二位に位し瑞西瑞典之に亞く蓋し英國は面積狭少にして農産物の産出十分ならず地中海方面に於て輸入せし物品は獨逸潛航艇の難を避け鐵道便により更にドーバー海峽を経て輸出せられしものあるべし。

工業原料品の輸入に於ては北米合衆國主位を占め佛國輸入原料總額三十五億八百法の約一割四分七厘に當り英國亦之に伯仲し約一割四分五厘を示し輸出に於ては白耳義を第一位とし輸出總額十二億九千九百萬法の二割一分七厘を占めり獨逸は一割七分五厘英國は一割六分二厘なり。

製造品の輸入は佛國製造品輸入總額十億八千萬法の約三割一分八厘は獨逸にして英國は二割六分八厘白耳義及北米合衆國が之に亞く製造品の輸出に於ては英國第一位に位し輸出總額二十九億二千四百萬法の約三割九分九厘に相當し白耳義は二割九厘にして之に亞き獨逸アルゼリア、北米合衆國瑞西澳洪國之に次けり。

英佛の二國は自國貿易の伸張を専とし人類の發展を基礎として世界の到所に侵入せり實に白人は前世紀に於て世界文明史に於て又世界侵略上一の先見を有し新世界に及へり故に貿易上に於て其の貿易の決済上に於て優越權を有し東洋人は何等一指を染むる餘地なきなり然りと雖も吾人は正當なる我權利を主張し白人を害せず吾人を害せず互に相寄り相扶け以て相互の福利を増進するに力めざる可からず是只吾人の希望なるのみならず理論上に於て然らざる可からざる可し。

## 第二章 北亞米利加市場

我國の貿易上に於て從來及將來に於て最も研究を要す可きは北米合衆國市場なる可し嘉永安政の頃米國はペルリ提督をして艦隊を引率し相州浦賀に來り開港を迫りしより通商貿易史上に修好の端を拓き今日に及へり當時米國は好意を表するか如くにして實は帝國を窺ひしものなりしと謂ふ然れども此機會に於て我幕府は修好條約を結ひ國際貿易上に一大新紀元を畫したりしは争ふ可からず夫より彼我輸出入貿易上共に一年進歩發達し我文明開發上に於て努力を分ちたるものあり而して今後に於ては殊に米國が國土廣潤にして物産に豊富なる天恵に富み人智の進歩著しきものあり殊に歐洲大戰以來資本充實し終に前通商局長ブラット博士をして「亞米利加第一」「黄金外交」「資本戦争」を絶叫せしめ終に著々此方針に進み世界の金融中心市場たらんとせる秋なれば我邦人の注意を拂ふ可き

は勿論のことたり。

第二節 北米合衆國の外國貿易

北米合衆國に於ける外國貿易を見るに輸出入共に年一年増加し來り輸出超過は又年々増進し只一九一八年度に於て多少減少せしと雖も其の割合たる少額に過ぎず而も一九一八年度に於て斯の如く多少の減退を見しは物價騰貴の度著しきものあるに由れり。

終る會計年度	輸 入		輸 出		輸 出 超 過
	百萬元	千噸	百萬元	千噸	
一九〇九年	1,122	1,122	1,663	2,985	1,863
一九一〇年	1,597	1,597	1,745	3,303	1,706
一九一一年	1,527	1,527	1,109	3,576	2,049
一九一二年	1,653	1,653	1,101	3,857	2,204
一九一三年	1,813	1,813	2,265	4,278	2,465
一九一四年	1,894	1,894	2,364	4,258	2,364
一九一五年	1,674	1,674	2,768	4,442	2,768
一九一六年	2,298	2,298	4,333	6,531	4,233
一九一七年	2,659	2,659	6,210	8,869	6,210
一九一八年	2,946	2,946	5,928	8,874	5,928

備考 米國貿易の會計年度は七月一日に始り六月三十日に終る本表には外國にある米國軍隊への供給及外國政府の爲めに米國造船所に於て建造したる船舶等を加へず若し之を輸出貿易中に加算せば前年度に比し却て増額せし、こゝを示す可し

右の如く北米合衆國は輸出超過は戦前に於ても頗る多額に上り戦後尙此傾向繼續するのみならず近來米人の歐洲亞細亞及東洋市場に活躍頗る機敏を極め各種の手段方法を講しつゝ、あれば益々輸出超過を重ね且將來尙此情況持續す可し殊に米人の理想として商權を獲得し且世界の金融市場をオール街に集中せんとしつゝ、あれば今後大に注目し價す可く世界の市場は終に或は英米兩國の競争となるや必せり次に北米合衆國より輸出入額を大陸別に之を示すときは。

洲	輸 入		輸 出		輸 入 超 過
	一九一五年	一九一六年	一九一五年	一九一六年	
歐洲	5,435,523	5,813,621	2,573,408	2,180,305	2,832,115
北 米	5,949,586	9,246,533	5,968,033	2,661,996	2,661,996
南 米	3,117,812	2,102,288	1,471,218	1,043,311	1,043,311
亞 細 亞	3,057,444	3,633,101	1,497,076	1,535,033	1,535,033
オセアニア	60,342	105,586	91,479	119,216	119,216
亞弗利加	3,463,333	3,463,333	3,463,333	3,463,333	0
計	23,916,544	27,881,422	17,874,670	20,997,679	7,088,743

備考 X印は輸入超過を示せり。

大正五年中の米國外國貿易

大正五年即一九一七年中に於ける北米合衆國の外國貿易の總額は七十八億七千三百七萬七千九百二

十四弗に達したるが今同國商務省の發表に係る統計により主要國別に之を表示するときは左の如し

(大正六年四月二十日東京銀行通信録)單位千弗

協商國	輸 出 額		輸 入 額		一九一六年 輸出超過
	一九一六年	一九一五年	一九一六年	一九一五年	
英 吉 利	一八八、三二四	一二九、八四〇	三〇五、四八六	二五八、二九五	一九一六年
加 奈 陀	六〇、三三六	三四、五〇四	二七、七三六	一七、七九四	一九一六年
英領東印度	三〇、七五一	二〇、八五八	二〇、二九〇	二九、三九七	一九一六年
濠洲及新西蘭	八、二九二	六、四〇七	五、八二六	三、五〇四	一九一六年
英領亞弗利加	三、二四九	二、四六五	二、九七三	二、九七三	一九一六年
埃 及	三、一八一	二、三三五	一、四七九	二、六二六	一九一六年
白 耳 義	八〇〇、八三九	五〇〇、七九二	一〇八、八九三	七、七二八	一九一六年
佛 蘭 西	三〇、五三三	二六、九七三	六〇、三三三	五、一五九	一九一六年
伊 太 利	一〇八、七五五	四、七七一	一八、二九〇	一〇、八三三	一九一六年
日 本	三〇、九四五〇	二、五七九	四、四七六	二、四三三	一九一六年
歐 露	一、九三六	四、四一九	—	—	一九一六年
亞 露	—	—	—	—	一九一六年
同 盟	—	—	—	—	一九一六年
澳 國	—	—	—	—	一九一六年
獨 逸	二、一七〇	一、〇四	六、三二	四、四九三	一九一六年

中 立 國	輸 出		輸 入		一九一六年 輸出超過
	一九一六年	一九一五年	一九一六年	一九一五年	
亞 然 爾 丁	七、七八四	五、二八四	一、六二九	九、四六七	一九一六年
伯 刺 西 爾	四、七六九	三、九三二	一、三〇六	一、〇九九	一九一六年
中 央 美 利 加	四、六〇七	六、七〇〇	—	—	一九一六年
智 利	三、三三三	一、七八一	八、二二三	三、二八四	一九一六年
支 那	三、一五四	一、九七四	八、二二六	五、一五五	一九一六年
玖 瑪 那	一、六六二	九、五七五	二、四三三	一、九七五	一九一六年
丁 抹 那	五、三三三	七、五〇六	—	—	一九一六年
希 臘	三、三六七	二、七五四	—	—	一九一六年
和 蘭	一、三七一	一、四二七	四、三六〇	二、八四三	一九一六年
諾 威	六、二〇七	四、三三二	六、四三〇	六、九八二	一九一六年
墨 西 哥	五、二八七	一、〇六六	一〇、五〇五	八、三九五	一九一六年
西 班 牙	二、二八〇	二、三三六	三、四二二	三、八五九	一九一六年
瑞 典	六、三五〇	四、五九七	三、二五七	一、八六九	一九一六年
瑞 士	四、八三三	八、五三二	一、八八五	一、一三三	一九一六年

右により米國貿易の有様を見るに輸出超過に在りては文明國に多く輸入超過に在りては劣等國に在るが如し即ち原料を農業國に仰き製品を文明國に供給せりと謂ふ可きなり然りと雖も大正四年即一九一六年は戦時中なるを以て南米諸國に穀物を仰き之を歐洲に輸出したる最も顯著なる事實なれば



南米に輸入超過となり歐洲に輸出超過となりたるなり然りと雖も斯る傾向は將來も繼續し得るのみならず米國が手足を世界に伸張して海運業の旺盛を圖り製造工業事業を奨励し國際金融をして聯合準備銀行制の如くせんとし海洋の自由を唱導せる等有ゆる手段と方法を講しつ、あれば米國の商業貿易の進歩將來必ずや著しきものあるや必せり我國の如き後進國たる者は一層の努力奮闘を要す可し須く米人に學ぶものある可きなり。

第二節 加奈陀

加奈陀は農業國にして小麦の産出及海産物並に木材の産出尠からず殊に近時人口益々増加し開拓に歩を進めつ、あるが如し今ウエツプス氏新統計字典によれば。

年次	所有土地面積
一八七一年	三六、〇四六、四〇〇
一八八一年	四五、三五八、一〇〇
一八九一年	六〇、二八七、七〇〇
一九〇一年	六三、三三四、八〇〇

而して一九〇五年より一九〇七年に於け毎年平均農産物の推定額を見るに。

マニトバ	小麦	大麦	燕麥	馬鈴薯
六五,三三〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	五,五〇〇,〇〇〇	四八,五〇〇,〇〇〇	四八,五〇〇,〇〇〇

プリンズ、エドワード、アイランド、ニューブランズウィック	クノグアスコシア	オンタリオ	アルバータ	サスカチエワン	クワイベック
七二八,〇〇〇	五,〇〇〇	四,五六〇	二,五〇〇,〇〇〇	三,七五〇,〇〇〇	二,七五〇,〇〇〇
一一,〇〇〇	三,五〇〇	二,九〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一四八,〇〇〇	三六〇,〇〇〇
七九〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	一,一三〇,〇〇〇	一,二八〇,〇〇〇	二,七〇〇,〇〇〇	五,一六〇,〇〇〇
五,〇〇〇,〇〇〇	八二九,〇〇〇	一,六七五,〇〇〇	一,二七五,〇〇〇	二,七〇〇,〇〇〇	二,九一〇,〇〇〇

マルホー氏統計字典によつて加奈陀の貿易を観るに。

年次	輸入	輸出	人口一人に付貿易總額
一八七〇年	一六、一〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇	八、一〇・一
一八八〇年	一九、四〇〇、〇〇〇	一九、一〇〇、〇〇〇	八、一〇・〇
一八八七年	二四、〇〇〇、〇〇〇	一九、六〇〇、〇〇〇	八、一八・二
一八八八年	二三、〇〇〇、〇〇〇	一八、七〇〇、〇〇〇	八、一〇・〇

輸入に於ける主なるものは織物鐵類砂糖石炭及雜貨等にして輸出の重なるものは穀物肉類チーズ材木魚類雜貨等なり即ち一八〇八年に於ける是等重なる物の輸出入を見るに。

織物類

輸入 三、八〇〇、〇〇〇  
輸出 二、二〇〇、〇〇〇

砂糖	1,200,000
石炭	1,900,000
雑貨	1,390,000
計	23,000,000
穀類	3,200,000
肉類	2,200,000
チヌ	1,900,000
木材	4,500,000
魚類	1,700,000
雑貨	5,200,000
計	18,700,000

等なり以上は其の調査年月古くして現今の事情に適合す可きに非ずと雖も亦以て其の一半を窺ふことを得可し今又大正七年十二月附在晚香坡帝國領事浮田郷次氏の加奈陀に於ける我帝國と最も關係深きマニトバ州サスカチエワン州及アルバータ州に於ける事情の概要を見るに。

	面積		積	人口		増	口加
	陸地	水面		一九〇一年	一九一一年		
マニトバ	231,926	19,906	251,832	255,111	452,614		100,000
サスカチエワン	243,382	8,310	251,700	91,277	242,111		101,100
アルバータ	252,925	2,360	255,285	73,011	274,663		110,000

之によりて見るに人口は年々増加せるものと知る可く殊に未開墾地多々あれば今後亦増加の餘地ある可し尙同領事の報告により一九一八年に於ける農産品の産額を見るに。

	マニトバ	サスカチエワン	アルバータ
小麦	55,947,900	106,366,500	23,862,100
燕麥	63,451,000	134,689,500	62,974,300
大麻	31,986,000	14,160,700	8,461,200
亞麻	1,484,500	5,406,200	480,000
馬	384,772	990,000	791,246
乳牛	225,659	359,989	328,702
其他の牛	621,240	926,342	1,362,880
羊	136,782	134,177	332,179
豚	284,596	521,240	601,534

商業の集散市場はアルバータ州に在りてはカルガリー及エドモントンの二市サスカチエワン州に在りてはリチャイナ及サスカーツンの二市マニトバ州に在りてはウイニベツグ市にして何れも農産品の中心市場たり。

我國より輸出して大に見込あるものはバインダー、トワインと稱する麻絲なり蓋しバインダーマシンを以て大農式に麥類を刈取り此刈取を爲す際麻絲は自働的に結束して地上に置くこと、なるものなりと謂ふ其の需用は實に莫大なる額にして其の大部分は米國より輸入せり即ち。

麻糸輸出高

年次	數量	價額
一九一三年	二九、七五二、一二三	二、三二〇、三五二
一九一七年	六五、九一九、六三一	六、八九〇、二六九

なり故に今後マニラ麻を原料として輸入するに至れば見込なきに非ず中米地方よりサイザル麻ニュージーランドよりはニュージーランド麻比律賓群島よりはマニラ麻又印度方面より原料を取寄せ上至便なるに拘らず是等は東部工場に輸送せられ製品として平原州及是等の三州に供給せりと謂ふ。

第三節 墨西哥國の外國貿易

北米合衆國新聞紙は嘗て我海軍に於て墨西哥の沿岸の土地を購入せりとこの虚説を流布し中外朝野の人士をして尠からず驚愕せしめたる再三のことあり米國人か如何に我國と墨國との關係を悞る、ものあるを知る可し是に反し我國民は西隣の密接なる國家に對し門戸開放を主張せり其の差又大なるものあるを知るべし而して我國と墨國との貿易を見るに實に寥々たるものあり即ち。

年次	輸出入	輸出入
大正五年	五七九、八八三	七、一七七
同四年	一八、四五八	六、八六四
同三年	二八〇、九一八	一四九、〇八四
同二年	五二五、二九六	五、九五七
同元年	五二七、〇七三	一、一九五

斯の如く彼我の間に於ける貿易は我貿易の大勢上よりして取るに足らざる觀あり然りと雖も吾人は墨國の將來に於て我國とは密接の關係を有すべきものにして輕々に觀過す可からざるものと思惟す貿易上に於て是を觀るも又政治上に於て是を觀るも或は國際上に於て之を觀るも重要な地方なりと信ず吾人は政治上及國際上のことは暫く之を措き貿易上に於て之を見るに墨西哥に於ける一九〇二年及一九〇六年間に於ける平均輸出入貿易の重なるものを見るにウエツプス氏新統計字典によれば。

品名	輸入	輸出
棉絲、生絲、羊毛製品 (棉製品は六割なり)	一、六四〇、〇〇〇	
機械	一、六六〇、〇〇〇	
紙及紙製品	四四〇、〇〇〇	
化學及藥劑品	六四〇、〇〇〇	
鐵類	六二〇、〇〇〇	九三〇、〇〇〇
珈琲		三、〇四〇、〇〇〇
ヘネグエン Heneguan		二、三七〇、〇〇〇
銅		一、四八〇、〇〇〇
金		六、〇七〇、〇〇〇
銀		

而して同年間に於ける對外國との貿易情況を見るに。

北米合衆國	英 國	佛 國	日 本	西 班 牙	其 他	合 計
九、七四〇、〇〇〇	一、九七〇、〇〇〇	一、四八〇、〇〇〇	一、八三〇、〇〇〇	六八〇、〇〇〇	一、六七八、〇〇〇	一六、七六〇、〇〇〇
一四、七四〇、〇〇〇	二、四一〇、〇〇〇	五二〇、〇〇〇	一、二三〇、〇〇〇		二七〇、〇〇〇	一九、一七〇、〇〇〇

斯の如くにして輸入の最も多きは綿絲生絲羊毛製品にして我國に於て製造し得るものあり即ち綿製品の如き生絲製品の如き是なり是等は多く合衆國より輸入に係れりと雖も我製品の割込上に於て悲觀すべきものにあらず而して輸出品たる産額最も多き世界に冠たる銀に在りては是亦殆ど合衆國に輸出せり是吾人が著目せざるべからざるものたり我國と墨國との貿易にして増進するに至れば是に對し銀塊の輸出を企て之を印度及支那に輸送して爲替の調節を爲し得ん唯恐むらくは墨國に於ける鑛業の株主は殆ど米國人にして即ち北米人の經營に係るものなれば採掘したる鑛物は直に國境を越へて米國に輸出すされは斯る調節は容易の業に非ず現在の調節策に間に合はずとも永遠の計畫として此策を研究するも強ち無益のことに非ざる可し殊に墨國は政治上に於て國際上に於て趣味津津たるものあり此趣味をして能く攝取するものは功を奏す可く否ざるものは國際政策上に於て不幸にして落第せざる可からず東洋の平和を保ち世界の平和を保たんとするものは須く此呼吸正健と鎖

とを掌にせざる可からざるなり。

### 第三章 南亞米利加市場

南亞米利加は未開の地多く且人口稠密ならざれば開發の餘地多々あるのみならず北米合衆國との貿易最も密接なる關係を有するを以て南北亞米利加に於ける爲替調節上に於て最も有望なるものたり又日本と南米との直接貿易を増進するに於て有望なるのみならず移民政策上に於ても未來の絶好地とせざる可からず幸ひ我國と南米諸國とは大正七年末及び大正八年の始に於て確然たる協定條約を締結し移民の自由と權利と義務とを明確にするあり是吾人が大正六年九月移民政策と資本及外交と題せる一小冊子に於て主張したることありし加之南米と歐米各國との貿易を利用し間接爲替の調節を爲すの要あり勿論世界金融の中心市場は當分倫敦と紐育とに分たる可く其の間に在りて準間接貿易及純間接貿易を利用し爲替決済の妙用を運用せざる可からず故に南米に於ける實際に亘りて之が研究を爲す杜撰のことにあらず。

#### 第一節 伯刺亞爾共和國の外國貿易

我國と伯刺西爾共和國間に於ける貿易を見るに大正五年大藏省編纂に係る外國貿易年表によれば大正四年までは輸出輸入共なかりし若し之ありとせば第三國を介し中繼貿易によりたるものなる可し

大正五年に在りては。

輸 入	一〇〇、七一四 <sup>円</sup>
輸 出	三九、八〇四

是尚に寥々たるものと謂ふ可し我國か海運業に於て太平洋上に誇とせるも一步之を其の以外に踏出せば寂寥の觀無くんはあらず今ブラジル國に於ける輸出入貿易を見るにマルホール氏統計字典によれば。(二四九頁)

年 次	平均 輸 入	平均 輸 出	合 計
一八三六—四一年	五、二〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	四、七〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	九、九〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>
一八五二—六一年	一、二〇〇、〇〇〇	一〇、八〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇、〇〇〇
一八六二—七四年	一五、五〇〇、〇〇〇	一八、三〇〇、〇〇〇	三三、八〇〇、〇〇〇
一八八二—八八年	一七、二〇〇、〇〇〇	一八、〇〇〇、〇〇〇	三五、二〇〇、〇〇〇

今又一八八八年中に於ける輸出品の重なる物及輸出國の重なるものを見るに。

輸 出 品	價 額	輸 出 國	價 額
珈 琲	一五、一〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	北米合衆國	一一、〇〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>
砂 糖	一、三〇〇、〇〇〇	英 國	五、二〇〇、〇〇〇
綿 織 貨	一、二〇〇、〇〇〇	佛 國	二、八〇〇、〇〇〇
計	三、六〇〇、〇〇〇	其他 諸 國	二、二〇〇、〇〇〇
	二一、二〇〇、〇〇〇	計	二一、二〇〇、〇〇〇

尙又一八八〇年より一八八四年に至る輸出額の平均を観るに。

珈 琲	二二〇、〇〇〇噸
砂 糖	二一七、〇〇〇噸
煙 草	二二、〇〇〇噸
印 度 ゴ ム	七、一〇〇噸

該表によりて之を見るに輸出品は農産物にして殊に珈琲最も大なり而して其の輸出先國は北米合衆國最も多額に上り次は英國亞は佛國なり是我金融業者の注目し價すべき所と謂ふ可し何ぞや英佛二國は戦時交戦國として農産品の需用大なりしなり船服問題よりして戦前の如きこと能はざりしと雖も米國を介し是等南米地方に食糧品の輸入に力めたりしなり合衆國と南米とは戦前より一層密接の關係を保有し従つて合衆國と南米に於ける爲替作用は一層重大となりしなり換言せば米國は農産品輸入の爲めに戦前より以上南米に負ふ所大なる可し果して然りとせば合衆國と南米との爲替決済は戦前と今日と自ら異ならざるを得ず従つて合衆國は種々なる方策を運らして金融政策を採れること推測に難からざるなり。

大正七年サンパウロ帝國領事松村貞雄氏伯刺西爾外國貿易概況により一九一七年に於ける一九一三年以降輸出入比較を見るに左の如し。

年	輸 出		輸 入		輸 超	
	出	入	出	入	出	入
一九一三年	九七,七三三	一〇〇,七四九	一八,〇一七	三,四七四		
一九一四年	七五,〇九八	五六,二八三	一八,八一四			
一九一五年	一〇二,六三四	五八,九九六	四三,六三八			
一九一六年	一一〇,七五八	八〇,七五九	二九,九九九			
一九一七年	一一三,六四五	八三,七三六	二九,九一五			

一九一四年以降は歐洲戰時の影響を受け輸入は非常に減少し夫より年々輸出超過となれり尙同國輸出重要物産中鞣皮は一九一三年以降漸次輸出額を増加し一九一七年には二倍強に達せりと毛皮も同一情態を示し棉花は之に反し二分一弱に減少し護謨は殆んど差なくカ・オは二倍以上の増加を示したりと雖も珈琲は三分一方減少し煙草とマテ茶は稍減少したりと謂ふ。

今一九一七年に於ける同國の最も重なる物産の輸出額を示せば左の如し。

物産	一九一三年	一九一七年
卸物及其生産物	四九,九七二	一七四,五七四
滿 金	二,七二一	五七,二八四
砂 糖	五,五一二	八,九三四
護 謨	九七二	六八,七七一
カ	一五五,六三一	一三四,九九九
オ	二二,九〇四	四八,〇八四

珈 啡	六一一,六七〇	四四〇,二一〇
大 豆	一	四〇,五八二
煙 草	二四,五七〇	二二,四三八
マ テ 茶	三五,四五六	三一,五四六

大正七年九月二日通商公報により松村領事より護謨事業に關する公報によれば伯刺西爾護謨事業は多く獨逸人の經營する所なりしか戰亂勃發殊に參戰以來此等獨逸人は本國との關係を絶たれたるのみならず英國政府の定めたる黒表ブラックリストの施行は甚しき打撃を與へ爾來輸出業は全然停止の情態となり他方船腹の不足は多量の護謨をマアゾン河岸の輸出港マナオ及ベレムに堆積せしむるの悲境を出現したりと然るに此危機は全く地方的にして世界の護謨市場は依然伯刺西爾護謨の價格低落することなく農業會議所の調査によれば本年三月中紐育市場に於ける護謨の價格は東洋護謨一封度米貨五十五仙五厘なるに伯國パラ護謨は五十七仙即一基瓦伯貨五ミルレースの高値を保ちたりと謂ふ。

尙商業會議所は該調査書中救濟建白書の理由大要左の通り附言せり。

- 一、英國政府は本年の初に於て船腹の不足に鑑み東洋殖民地に向つて今年は前年に比し二割分少き量を輸送すべき命令を發せり
- 二、伯刺西爾パラより世界の護謨市場に至る距離は錫蘭よりの距離に比し三分一に過ぎず是船腹不足の甚しき今日大に考慮に價する重要事項なりとす。
- 三、北米合衆國は客年中東洋南洋領殖民地より護謨五千九百萬封度伯國より五千六百萬封度を輸入せり然れども和蘭船の大部分が米國の軍用船となりたる今日關領護謨は是までの如く多量に輸出せらるゝに至らざるべきは之を豫見するに難からざるなり。
- 四、然らば其補缺は必ずパラ産の護謨に待たざるべからず。

斯の如くにして合衆國と密接の關係を有するのみならず東洋に於ける護謨の供給減して伯國産に待つに至るや必ずしも不會の説にあらず何となれば距離と謂ひ品質と謂ひ然るあるを豫見し得べし殊に各種工業及事業の旺盛に赴くに從ひ護謨の需用は一層増加するは難からず。

伯國に於ける滿俺は全然之を米國に輸出せり即ち米國は刺西爾より毎月六百萬噸の供給を爲す約束をなしたるも實際輸出に當りて常に該約束に達せざりし右は全く時局の影響に由り石炭の輸入杜絶したるに因すと今一九一六年に於ける米國輸出高を示せば左の如し。

數 量		數 量	
一 月	四四、二九七	六 月	五〇、二三六
二 月	三〇、五五六	七 月	四〇、五六九
三 月	三六、七五〇	八 月	五七、二九八
四 月	四六、七九九	九 月	四二、四四八
五 月	三九、七三二	十 月	五九、八一七

尙米圖にして石炭の供給をして十分ならしめは其の輸出高を増加する難きに非ずと。

之を要するに從來南米の輸出入貿易は歐洲と合衆國と南米との三角貿易を爲し從て爲替作用も此三角作用を形成したりしなり然るに今や歐洲貿易は大に衰退し専ら合衆國と二角貿易二角爲替作用となりたるものなるべく此間に在りて我國も之に参加し三角形貿易と三角形爲替作用を形成し尙進んで四角形貿易及四角形爲替作用を形成すべきなり換言せば南北米に我國も参加し且歐洲との連鎖を

なすべきなり。

伯刺西爾に於ける雲母産出

伯刺西爾に於ける雲母産出狀況に就き臨時代理公使野田良治氏の報告によれば雲母は絶縁體若くは吸收劑としてダイナモ製造に重要な其良鑛脈は伯刺西爾諸州に存在し而かも實質に於ては純良のものたり只輸出上に於て悪聲を蒙りつゝあるは是選鑛上の缺點に基くものにして割隙、斑點等に満ちたる不完全なるもの、ま、薄板を輸出するかためなり。

伯刺西爾雲母の輸出高は開戦以來大に増加し近來特に其の傾向顯著なるものあり今千九百十三年より千九百十六年に到る同鑛の輸出統計を示せば左の如し。

年	數 量	價 額
一九一三年	九	千九百九十五
一九一四年	一五	三八
一九一五年	五〇	一四二
一九一六年	五三	二二三

輸出港はサンパウロ、バイーア、ゴヤス、ミナスの諸州を以て最とし就中重要な鑛脈をゴヤス及ミナス州のものどす前者に屬する最も著明なるはメイアボンテ Meia Ponte 郡に在る鑛脈にして後者に於てはサンタ、ルイザ、デ、カランゴラ Santa Luiza de Calangola 町附近及エンセイソン郡なる

サン、ドミンゴ、ド、リオ、ペーシユ S. Domingo Do Rio Peixe 等最も著し。

第二節 アルゼンチン共和國の外國貿易

アルゼンチンに於ける輸出入貿易を見るにマルホール氏統計字典によれば左の如し。(二四九頁)

年次	輸入	輸出	合計
一七九五年	五、一〇、〇〇〇	九、二〇、〇〇〇	一、四三〇、〇〇〇
一八六五年	五、四〇〇、〇〇〇	四、四〇〇、〇〇〇	九、八〇〇、〇〇〇
一八七〇年	九、五〇〇、〇〇〇	五、八〇〇、〇〇〇	一五、三〇〇、〇〇〇
一八八〇年	八、八〇〇、〇〇〇	一一、三〇〇、〇〇〇	二〇、一〇〇、〇〇〇
一八八九年	一四、三〇〇、〇〇〇	一一、五〇〇、〇〇〇	二六、八〇〇、〇〇〇

斯の如く年々貿易は著しく進歩發達し來れり蓋し同國は土地廣大にして且地質肥沃なるより農業の進歩すべき餘地多々あり従つて人類の繁殖すべき餘裕著しきものありて存す。

然らば如何なる國か該輸出入に關し最も關係深き國なるや是現在に於て大に注意すべきことなり即ち。(單位は百萬磅)

國名	輸入	輸出	割合	合計
英國	三三八	一一一	一一	二二・八
佛國	二	三二	三二	二四・一
白耳義	七	二七	二七	一三・七
日耳曼	八	七	七	六・八
北米合衆國	八	六	六	六・四

其	ウラゲ	其他	合計
六	二八	一一七	一〇六
四	二四	一〇六	一〇〇・〇
四・四	二三・五	一〇〇・〇	

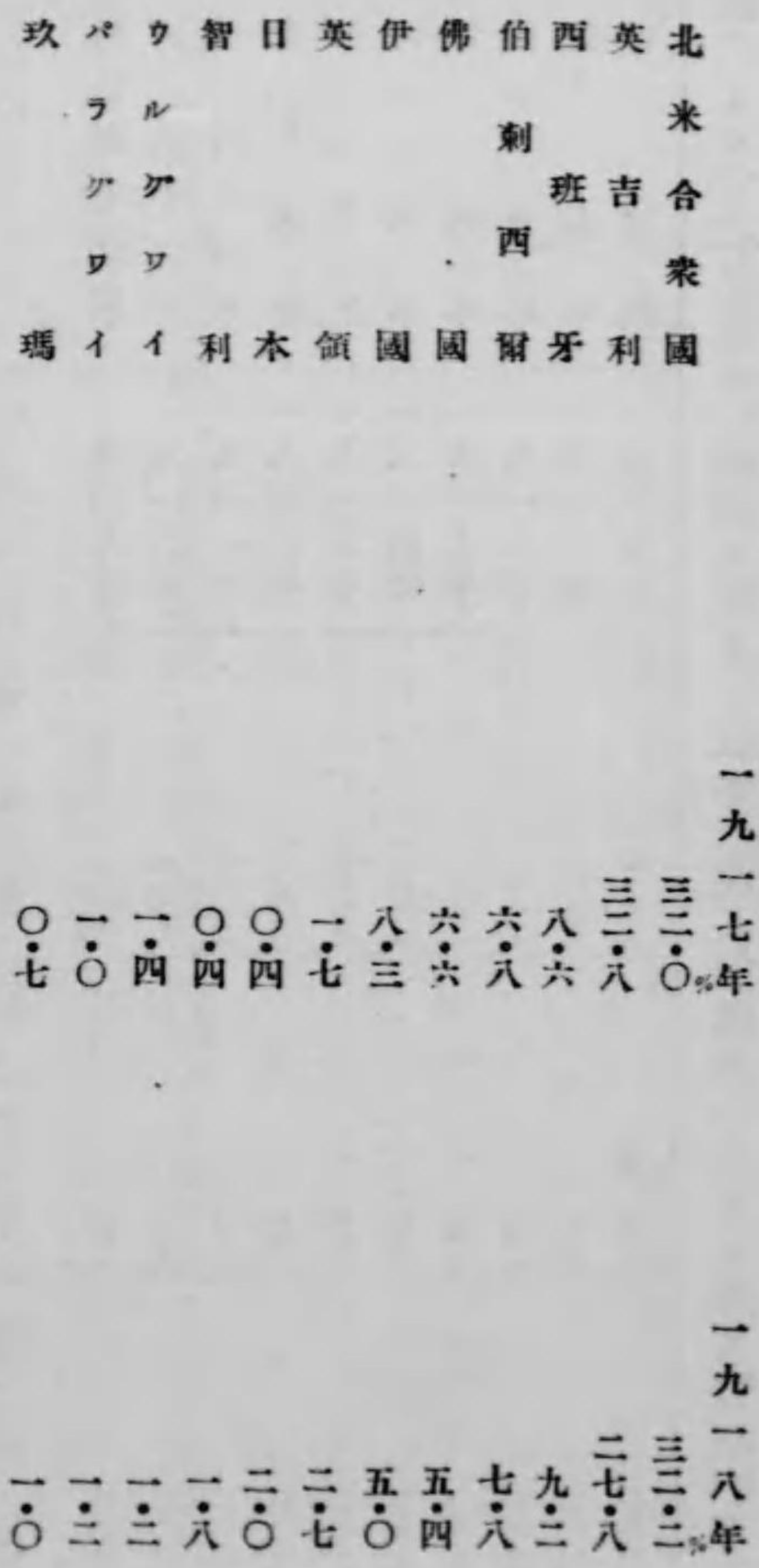
是によりて之を觀るに輸入に於ては英國最多にして佛國之に次ぎ輸出は佛國最多にして白耳義之に次けり一九一八年一月より三月に至る亞爾然丁共和國の貿易狀況に就き山崎領事の報告により最近十箇年間に於ける同期間の貿易及び其の百分率を見るに左の如し。

年次	輸入額	百分率	輸出額	百分率
明治四十二年	七、七〇、八	二四・一	一、七〇、三	三三・九
同四十四年	九、五八、〇	二五・三	一、〇、三	三〇・九
同四十四年	一〇、五八、元	二六・一	一、〇、九	三二・四
大正元年	一〇、七八、七	二四・二	一、〇、六	二〇・一
同二年	一七、九、九	二五・八	一、六、三	三三・〇
同三年	二二、九、四	三三・〇	一、四、七	三三・九
同四年	二六、三、七	二七	一、六、三	二八・二
同五年	二八、三、九	二四・二	一、七、一	二二・二
同六年	二八、四、三	二二・八	一、五、九	二八・九
同七年	二九、二、一	二四・七	一、五、九	二九・三

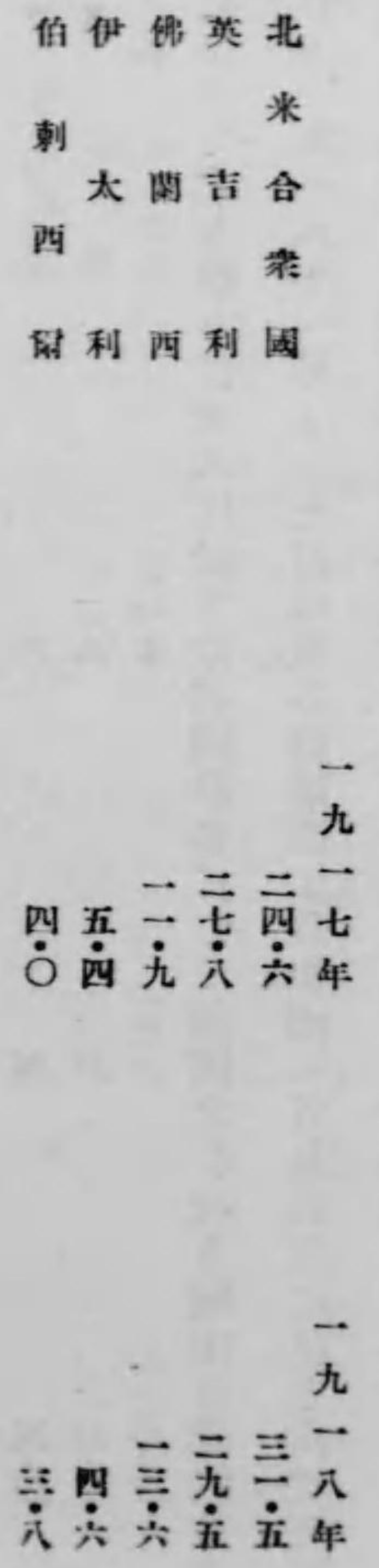
右表によりて之を見るに歐洲大戰までは年々輸入額増加したりと雖も戰時中以降は著しく減少し輸出額も亦此傾向ありと雖も歐洲食料品の缺乏により其の後漸次増加せるを見る。



今世界各国に於ける輸入額の百分率比較表を見るに。



尙輸出總額に對する百分比例を見るに。



是によりて之を觀るに前掲マルホー氏調査に係る一八八九年と一九一八年とを比較し之を見るに當ては佛國第一位に居り英國之に亞けりしに今は否すして米國第一に位し英國は尙第二位の位地を維持せり其の差以て知る可し而して我國の亞爾然丁貿易に在りては實に幼稚なるを免れすと雖も今後大に努力して開發する所なかる可からず。

亞爾然丁共和國は農業國にして農作物肉類及羊毛等最も重要な貿易品なり今左の主要農産品の輸出額を見るに。(單位千噸)

年次	玉蜀黍	亞麻	小麥	燕麥	小麥粉	凍藏牛肉	冷藏牛肉	凍藏肉	織詰	鹽肉	羊毛	羊皮	牛皮	馬皮	山羊皮
一九一三年	四八〇六	一〇二六	二八二二	八八九	三三四	三三三	三四	四五	二二	三	二〇	一九	八六	一	一
一九一四年	三三三二	八四二	九八〇	三五三	六七	三三八	四〇	五八	一三	二	二七	二二	七六	一	一
一九一五年	四三三〇	九八一	二五二	五九二	一一六	二五二	二二	三五	三一	一	二七	二〇	八九	二	一
一九一六年	二八三三	六三九	二二九四	八〇四	一四四	四二	一六	五二	四四	一	二七	二四	九九	三	一
一九一七年	八九三	一四二	九三五	二七二	一一二	三五五	三八	三九	一〇〇	一	二七	二二	九五	三	一
一九一八年	一三九	一三三	四二七	二〇	二四	九六	一	一	三七	一	三五	一	一三	一	一

今又最近總輸出入額を見るに。

年	輸 入	輸 出	總 計	輸 出 超 過
一九一三年	四九六、二七〇	五二九、一五六	一、〇二五、三二六	三二九、二八〇
一九一四年	三二二、五二九	四〇三、一三一	七二五、六四〇	八〇、六〇一
一九一五年	三〇五、四八八	五八二、二七九	八八七、七六七	二七六、六九一
一九一六年	三六六、二〇〇	五七二、九九九	九三九、一九〇	二〇六、八八八
一九一七年	三八〇、三二二	五五〇、一七〇	九三〇、四九二	一六九、八四八
一九一八年	九二、三〇二	一五九、五〇七	二五一、八一〇	六七、二〇五
(自一月至三月)				

右によりて之を觀るに年々輸出超過にして一九一五年以來二億萬ペソの輸出超過なり若夫れ我邦との關係上より南米貿易を利用し爲替上の決済を爲す亦難きに非ざる可し即ち南米諸國は歐米資本を利用すること大なり其の資本的債務に對し輸出超過額と決済せるものある可し故に英米に蓄積せる正貨を以て是等南米の國債を購入し一は在外正貨の處分を爲し一は南米との貿易を密接ならしむることに力めなは今後我貿易か南米に發展するものある期して待つ可きなり只爰に注意を要す可きは亞爾然丁に於ける生産品か我邦に必要なものなりや否やに在り假令は冷蔵肉の如き凍肉の如き我國民の消費品としては不向のものにして是等商品は勢ひ英佛伊米に供給せざる可からず果して然られば亞爾然丁と我國の貿易上何等得る所なきが如しと雖も幸に小麥の産出あり羊毛牛皮等の産出

あり是等の世界的商品を輸入して歐米に對する爲替を決済するを得る敢て難事にあらざる可し世界に於ける羊毛の産出地は亞爾然丁濠洲南阿等にして羊毛の需用者は世界人類の殆んど全部之が需用を爲せり此間に於て我國民が南亞と通商貿易を爲す不利にあらざるなり。而して大正六年一月より三月に至る亞爾然丁共和國に於ける外國貿易に付き在智帝國臨時代理公使飯島龜太郎氏の報告によれば。

國名	輸 出	輸 入	輸 超 過	輸 入 超 過
英 吉 利	四四、〇〇六、三三三	一一、四一三、八八八	三二、五九二、四四五	
北 米 合 衆 國	三九、二四八、八四三	一五、〇二六、八八五	二四、二二一、九五八	
佛 蘭 西	一八、八六九、九一七	三、〇七〇、一〇六	一五、七九八、八一一	
伊 太 利	八、五七八、六五二		八、五七八、六五二	
伯 刺 西 爾	六、三三五、六〇一	三、一九六、三六八	三、一三九、二三三	
佛 領 地	四、〇三九、九二二	二、九六八、八三三	一、〇七一、〇八九	
諾 威	三、〇八四、二六三	三、六〇六、六五〇		五二二、三八七
和 蘭	三、〇三七、二六八	三、六〇六、六五〇		五二二、三八七
攻 瑪 蘭	二、九三六、五八六	三、〇六五、七〇〇		一三〇、一一四
丁 抹 瑪	二、六七五、八五六	四、二三一、一六五		一、五三五、二八九
瑞 典	二、六七五、八五六	四、二三一、一六五		一、五三五、二八九
ウ ル グ ア イ	二、〇七三、二四九	六、六八三、四四六		四、六一〇、一九七

品名	英國		伊國		佛國		和蘭		丁抹		北米合衆國		西班牙		日本		合計	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
冷藏肉	六九九〇				四九〇二												八七三一	
冷藏羊	九七三九				三二二五												一〇九九	
羊皮	八五三〇				六一〇九八												五九七六	
羊皮	三七五四				五四八												六八五三	
乾藏牛																	六〇八八	

紙用品類  
電氣材料  
諸金屬類  
煙草類  
蔬菜類  
食品類(卸物性)  
食料品類  
諸金屬類  
諸藥品類  
葡萄酒類  
畜產物  
農産物  
林産物

主要輸出品

二、五三四、二〇六  
一、九九六、七〇一  
一、七四七、八〇〇  
一、五四二、八八九  
一、四八七、七一  
一、三六九、〇三五  
一、三四六、六六五  
一、一九四、一七六  
一、〇〇七、二四六  
九三、九八〇、三七一  
五七、七七八、二九七  
四、五〇九、七二八

綿織品類  
核子類  
土、石、硝子類  
鋼鐵製材類  
藥物原料類  
羊毛製成品類  
食料品類  
製織品類  
織物類  
鐵礦油類  
木材料類

主要輸入品

一三、四〇五、七六四  
六、一八五、三三一  
六、三二二、〇九八  
五、八二五、八八三  
四、五〇三、五四四  
四、四九三、二三一  
四、二七八、六八四  
三、七七六、一八一  
三、二五九、五九六  
二、八五四、九六九  
二、六七三、一〇二

我日本との關係は輸出に在りては十六位に在り輸入に至りても亦十六位に在り。

合計	其他	墨西哥	日本	英領地	智利	巴拉圭	西班牙	四班牙
一八六、一五三、四四五	一八六、一五三、四四五	一五九、二二五、一〇	四、九七二、九七二	九四、四〇〇、〇〇	八六、八三二、二	八五、九三六、	七九、〇二六、一	三、八八九、五五
二、七九、〇二七	一、八六、八八八	八〇、〇二二	八、九〇三、六	二〇、三八二、	七九、一五八、	一七、三二七	四六、九七二、八	二、一〇、二七
一、二、一四六、二	二、七、九四、七	一、二、一四六、二	四、七、二〇、七	六、四、四四、九	六、三、三九、八	六、一、七〇、四	一、一、二、一四六、二	一、一、二、一四六、二
一、一、二、一四六、二	一、一、二、一四六、二	一、一、二、一四六、二	一、一、二、一四六、二	一、一、二、一四六、二	一、一、二、一四六、二	一、一、二、一四六、二	一、一、二、一四六、二	一、一、二、一四六、二



九千百三十八萬八千弗に達し前年に比し七割弱に達せり。(大正七年二月十八日通商公報)

種類	數量	價額
金	一、四六一、九一〇	一、六九一、六一六
銀	四七、四四〇、〇三〇	二、二二一、〇二六
銅	七二、二八八、五四〇	八九、七三七、八四四
鐵	五六、一六六	一、二九一、八一八
アルミニウム	八、〇〇〇	三、二〇〇
ホ	九三四	五、一六二
モリブデン	一、六五二	一六、五二〇
タンクステン	二、三三二	六、九四〇
標本	三三七	二六〇
金屬礦物	一、四一八、一一九	九四、九七四、三八九
石炭	二、九一二、八九三	三八、三八九、二一三
燃燒礦物	一、二二〇、五四九	三三〇、八七五、五一五
硝石	一八九、一四九	一九、九五一、〇九四
沃度	一二、五六五	九七、四三八
加鹽	二、三九〇	一、八八四、七五〇
硼酸	三〇、七八五	二、四三〇
ホツタシニウム	一四、八七九	一、〇七七、四七五
鹽類礦物		三五三、八八八、七〇二
硫黃		二、〇八三、〇六〇

種類	數量	價額
粘土	一三、四五七	一三四、五七〇
石灰	七六、八六〇	一、一五二、九〇〇
石膏	二、〇〇〇	六〇、〇〇〇
石炭	一七、九二二	七一八、八八〇
鳥糞	二〇〇	七、〇〇〇
カオリ		四、一五六、四一〇
非金屬礦物		四九一、三〇八、七二四
總計		

智利銅の產出額

銅は智利礦產物の重要なものなり今左に其の生額を示せば。(マルホール四〇七頁)

年	噸	價額
一八五二—一六〇〇年	一九〇、〇〇〇	一五、二〇〇、〇〇〇
一八六一—一七〇〇年	二七〇、〇〇〇	二〇、五〇〇、〇〇〇
一八七一—一八〇〇年	三三〇、〇〇〇	二〇、三〇〇、〇〇〇
一八八一—一八八〇年	三〇〇、〇〇〇	一八、〇〇〇、〇〇〇
三十八年間	一、〇九〇、〇〇〇	七四、〇〇〇、〇〇〇

硝石 Nitrate or Chile Nitre.

硝石智利に産出する重要物産にして北部智利の降雨少き地方に多量に産す而して輸出貿易品として總輸出の三分の二を占めりと云ふ「フイリップス、チェンパー、オプ、アトラス」により智利の輸出貿易額は左の如し。

總輸入	一九、九六五、六四〇	英國との貿易
總輸出	七、五一〇、七〇二	
計	二一、八一三、二九五	
	一〇、八五八、五四八	
	四一、七七八、九三五	
	一八、三七九、〇五〇	

輸出貿易は二千一百八十一萬三千二百九十五磅なりとし其の三分の二を占めたりとせば一千四百五十萬磅の輸出にして而も英國の貿易は總輸出の二分の一を占めるを以て硝石亦二分の一は英國に輸出せるものと観測して可なる可し。

硝石産額消長 (單位一千噸)

年次	生産額	輸出品量	世界消費量	保存高
一九〇七年	一四六	一六五	一七三	一三六
一九〇八年	一九七	二〇五	一八三	一五〇
一九〇九年	二二〇	二二四	二〇四	一五四
一九一〇年	二二〇	二二五	二〇四	一五四
一九一一年	二二二	二四九	二〇〇	一六九
一九一二年	二五八	二四九	二二九	一六一
一九一三年	二七三	二七六	二五五	一七四
一九一四年	二四六	一八四	二七〇	一八九
一九一五年	一七五	二〇三	二七〇	一八九
一九一六年	二九二	二九〇		

第四節 ウラゲー共和国の外國貿易

ウラゲーは南米の南方大西洋岸に位し我國との關係頗尠き感を呈すと雖も決して忽諸に附すべきものに非ず今同國に於ける輸出入貿易を見るにマルホール氏統計字典によれば左の如し。(二四九頁)

年次	平均輸入	平均輸出	合計	人口一人に付
一八七一年	五、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一、二〇〇
一八八一年	四、五〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、二〇〇
一八八八年	六、三〇〇、〇〇〇	六、一〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇

而して輸出入品重なるものを見るのに。

酒類	粗製品	織物	乾貨	雜貨	合計	輸入	輸出
七〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	五、二〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
七〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	五、二〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
七〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	五、二〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
七〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	五、二〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
七〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	五、二〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
七〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	五、二〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇

第五節 ボリビア共和国の生産及貿易

ボリビア國は南米に在りて四面皆他國を以て國境とし太洋に面せずと雖も鑛産國として有名なるものなりし今一千八百八十三年に於ける銀の産出高を見るに。(マルホール四〇三頁)

	Ore	Value, \$
ハウンチヤカ	Huanacaca	5,600,000
ポトシ	Potosi	1,200,000
オリロ	Oruro	1,200,000
アウラガス	Aullagas	3,200,000
グアプルーブ等	Guadelupe	4,800,000
Total		16,000,000

ウエツプス氏新統計字典によればボリビヤに於ける一八九七年以降に於ける銀の産出高は左の如し

一八九七年	八,二〇〇,〇〇〇 <sup>ポソ</sup>	一九〇三年	六,〇八〇,〇〇〇 <sup>ポソ</sup>
一八九八年	一一,〇〇〇,〇〇〇	一九〇四年	三,七五〇,〇〇〇
一八九九年	一〇,八四〇,〇〇〇	一九〇五年	三,一〇〇,〇〇〇
一九〇〇年	一〇,九七〇,〇〇〇	一九〇六年	
一九〇一年	一二,九九〇,〇〇〇	一九〇七年	
一九〇二年	八,九七〇,〇〇〇		

右の如くにして年々銀の産出高減少せるが如し。

ボリビヤ國は高原地にして夫のポトシー高原とは有名なるものなり氣候爲めに棲息に適しペルー及智利と氣脈を辿して交通貿易を爲すに至れば我邦人の移住敢て困難を感せざる可し。

第六節 エクワドル共和国の外國貿易

エクワドル共和国に於ける大正七年三月六日國里馬齋藤領事の報告により一九一六年に於ける外國貿易の情況を見るに。

年	輸出	輸入	合計	輸出超過
一八九七年	三三六,一五〇	二〇三,〇九〇	四三九,二四〇	一三三,〇六〇
一八九八年	三〇八,八九四	一〇二,五五五	四一〇,四四九	一〇五,九四〇
一八九九年	二四八,七七八	一八七,〇四〇	四三五,八一八	六一,七三八
一九一〇年	二八〇,六三三	一六,四七七	四四七,一一〇	二六四,一三六
一九一一年	二六二,一六	二二,三四〇	四八四,五〇六	二四〇,一六六
一九一二年	二八二,六八	二二,三〇六	四九四,九八四	二六〇,三七八
一九一三年	三二四,八八	一八,一八八	五〇三,〇六八	二八六,六八〇
一九一四年	二六八,七六	一七,二九〇	四八六,〇五六	二五一,四六六
一九一五年	二六五,三三	一七,三二〇	四八二,六五三	二四八,〇三三
一九一六年	三六一,五二	一九,一九八	五五三,七一〇	三三二,五二二

輸出國別四箇年比較表

北米合衆國	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年
英	七九〇,五〇	七三三,六〇	一一七,〇〇	一七六,六〇
吉	三,四〇〇	二五二,八〇	五五〇,四〇	七三三,五〇
利				

佛蘭西	一一〇九八	九〇七四	二四二五	四四九九
獨逸	五四一七	一七五九	八七	
其他諸國	四七九	六二七八	六八八	六六三五
計	三二四八	二六八七六	二六五三	三六一五

輸入國別四箇年比較表

北米合衆國	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年
英吉利	五七六一	五六九二	六五四一	一一〇一七
佛蘭西	五三三三	五〇〇〇	六八八九	四九一五
獨逸	一七〇〇	六六八	五〇九	八〇四
其他諸國	二六八	二四六一	一〇五	一
計	一八二八八	一七二九〇	一七三二〇	一九一九八

エクワドルに於ける貿易品の主なるものを見るに。  
 一、輸入品は毛織物食料品、金屬、衣類、調劑、機械、靴、石炭、文具及薰香類等なり、  
 一、輸出品に在りてはカカオを大宗とし皮革、羊毛、樹皮、核果、珈琲、染料、果實、小麥、米、  
 護謨、葉煙草、バナマ帽の如き是なり。

第七節 秘露共和國の外國貿易

一九一六年に於ける秘露共和國對日本帝國との貿易に就き在里馬帝國領事齋藤和氏の報告によりて之を観るに最も叮嚀にして其の消長を窺ふに足るもの有り想ふに外國貿易の消長に關しては勿論其の國に於ける事情を窺むるの必要なるは多言を要せずと雖も亦我國として世界各國との間に於ける消長を察知するは一層緊要事と謂はざる可からず齋藤領事の焉に意を用ゐられ吾人の如き後進者が得る所決して尠からざるものあるを感ず今最近十年間秘露對日本貿易の輸出入額を見るに。

年次	輸 入	輸 出	輸 入 超 過	輸 出 超 過
一九〇七年	八三三	二〇五九		一二二六
一九〇八年	一〇一〇	二〇〇八		九八六
一九〇九年	八五四	八六〇		七七八
一九一〇年	一四九五	二一		
一九一一年	三、五九六	四三三		
一九一二年	二、一七八	四三		
一九一三年	二、九三六	一、三七四		
一九一四年	二、四三三	一一		
一九一五年	一、八三三	九七六		
一九一六年	八五四九	一、三三四		

右によりて之を見るに當初は我國に對する輸出額頗る超過したるに一九一〇年以降は我國よりの輸入超過し帝國の爲めに喜しき現象を呈するに致れり殊に一九一六年に至りては著しく増加したるを



見る是畢竟歐洲戰爭の結果歐洲品の供給十分ならざるより我國に對し需要を喚起したるにあり。今繁を避けず齋藤領事の報告により輸入品に對し各國別となし以て參考に資せんとす。

綿製品

英	米	伊	西	日	其
國	國	國	國	班	計
他	本	牙	國	國	國
四三五、七八一・九	三五二、四三八・五	八八、五二四・六	七〇、九一・五	二九、六八五・〇	五二、一六二・五
一、〇二九、五〇四・〇					

羊毛同製品

英	米	伊	西	日	其
國	國	國	國	班	計
他	本	牙	國	國	國
一四五、四三三・三	三九、六四七・三	二二、七六二・二	一七、七三一・二	一、〇二九・八	一三、二〇二・九
二二九、八〇六・七					

絹及同製品

米	佛	日	其
國	本	他	計
一四、九九九・六	一四、一四六・一	一一、九八六・三	二六、一三四・六
六七、一六六・六			

綿麻其他織物

英	英	智	西	伊	日	其
領	印	班	計	他	本	國
二二六、六八三・九	九七、四六九・五	五〇、四六七・二	七、五七三・〇	五、三九一・六	一、六六六・九	二七、六四七・三
四一六、九三二・四						

金屬及同製品

米	英	白	佛	伊	ホ
國	國	耳	リ	ビ	ヤ
一、五二八、四二九・九	一〇四、七二五・九	七、八九八・六	一二、〇九八・二	四、六〇九・二	二、九一六・〇

其日  
計  
他本

皮革及同製品

米 英 佛 西 日 其  
國 國 國 牙 本 他  
計

家具類

米 英 佛 伊 日 其  
國 國 國 國 本 他  
計

石、土及消費製品

四二五・九  
五〇、三三九・四  
一、七一一、四五三・一

九四、五一二・五  
一一、三七七・四  
五、六七六・三  
一、七二六・七  
二九〇・一  
二、六三三・九  
一一六、二一六・九

二二、五四五・八  
六、〇一五・〇  
一、八五五・九  
七〇八・九  
五三五・一  
二、六二一・六  
三四、二八二・三

米 英 丁 日 其  
國 國 抹 本 他  
計

木材及同製品

米 西 日 其  
國 牙 本 他  
計

染料ワニス、靴墨、護謨

米 英 智 佛 日 其  
國 國 利 國 本 他  
計

三七三、三八八・一  
一八九、九八八・九  
三六、八九一・九  
一〇、五五〇・五  
七七、八八〇・四  
六八八、六九九・八

三二三、九四三・二  
二七、三五二・一  
一〇、九七〇・〇  
四、八五四・九  
三六、二七一・九  
二九三、三九一・一

三五三、八二五・一  
五七、〇四一・三  
一〇、一四二・二  
四、五一〇・六  
二、七六九・六  
三六九・三  
二二、一八八・九

文房具及紙類

米 西 英 佛 日 其

計

國 牙 國 本 他

四五一、八四七〇

一五五、七六四・八

二一、三三四・八

二六、二六五・九

一五、四〇七・三

一、六二〇・二

四九、三九〇・三

二六九、七八三・三

鑄製、船具、機械車

米 英 佛 瑞 和 日 其

計

國 國 西 國 本 他

六〇八、〇七二・二

一八六、五〇一・六

七、三二四・二

五、〇八一・四

四、四六七・一

二八五・一

八、九三八・二

八二〇、七六九・八

樂器

米

計

國

二二三、九〇一・二

佛 西 英 日 其

班

國 牙 國 本 他

二、三五〇・〇

一、四五八・六

一、一三九・六

三、一四二・二

一、六四三・五

三〇、八〇六・一

武器及彈藥

米 英 香 日 其

計

國 國 港 本 他

二〇一、三七八・九

七、四三四・二

七、一一四・五

一八八・二

三、六〇〇・一

二一九、七一五・九

雜品

米 英 智 佛 日 其

計

國 國 利 國 本 他

一六二、一五二・六

五三、六三一・一

三三、九四八・一

二七、一〇九・五

九、八七三・六

四一、〇五一・九

三二七、七六六・八

飲料品

佛	三三、三九六・二
英	二九、九八九・七
伊	一八、三八一・二
西	一一、七三四・五
米	七、六七三・三
日	六二・六
其	一〇、八二六・一
計	一一二、〇六三・六

藥品及醫科機械

米	二〇三、四五六・七
英	四三、五二一・四
佛	二〇、九三七・二
伊	六、八三六・七
香	五、〇六七・二
日	二、一一七・五
其	六、六四七・三
計	二八八、五八四・〇

食料品及香料

米	六〇三、四二〇・四
---	-----------

香港	二六〇、七三四・四
濠洲	二二五、〇三五・二
智利	一〇八、一三二・四
日本	九、四九八・四
其他	二一〇、一七〇・〇
計	一、四一六、九九〇・八

右の統計は實に我國と世界主要國との對比に於て一見其の消長を認められ調査の親切なるを感せずんばならず該表によれば各主要品共米英其他諸國よりの輸入頗る大にして我國は寔に寥にたる感なくんばならず殊に我國は生絲國にして而も其の製品の輸入は米國第一位に居り次に佛國にして我國は第三位に在り絹織物工業の不振なる驚くの外なきなり我工業家たるもの須く世界各國に於ける需用の趨勢を觀察して其の嗜好に投ず可きなり徒に美術的製品のみに没頭し大勢に策應するにあらざれば我工業は骨董品向きたるに過ぎざらん況や我國の大なる貿易の調節及世界金融の調節上よりして一考を煩はざる可からざるなり。

第四章 東洋及南洋市場

我國の世界に於ける地球上よりせば東洋即ちOrientalに屬し従て朝鮮支那等とは二千年以前より通商貿易を爲し文物の移入最も密接の關係を有したり從來我邦人の世界的智識を以てせば支那天竺よ

り外に知らざりしなり斯の如くにして東洋貿易上に於て支那を尊敬し長崎地方人の如きは稱して南  
 京様と曰へり嘗ては支那北洋艦隊提督鄭汝祥氏は東洋艦隊を引卒し鎮遠に坐垂し來りて長崎に遊び  
 清國の大國たると水師の雄大なるを示し泰然として豪語したることは明治の二十年代のことたりし  
 實に我國と支那國とは古來密接なる關係を有し從て亦複雑なる關係を有せり人情の常として兄弟橋  
 に闘けとも外侮を防ぐとの金言確保せらるゝものとせば我日本と支那國とは唇齒輔車に非ずして同  
 一體たる可しと雖も交り深ければ却て怨嗟を増すこと大なるが如く兄弟の争は却て他人より甚しき  
 が如し政争上に於て尙今後の紛争は幾多氷解す可からざるものあり恐くは白人來りて其の蹂躪に任  
 せ然る後始めて悟了することあるも未だ知る可からず若し果して斯の如き運命に逢著するものなり  
 とせば事已に遅れ東洋の同一人種にして殊に二千年來の修好ある國民として豈坐視す可きものなら  
 んや此點よりせば東洋貿易の事情を最先に研究し以て我國と支那國とをして益々密接なる關係を保  
 有せしめざる可からず若夫れ支那國情に就き論じて研究することあらんか一朝一夕にして觀過す可  
 きにあらずと雖も吾人は寧ろ世界の大勢を研究して東洋の事情に及ばし來るは却て研究の順序とし  
 て興味あること、信す已に我國世界に介在し且又東洋に存在するものとせば我國の事情として東洋  
 的に將又世界的に研究の歩を進めざる可からず希くは讀者委曲諒察し以て一層の研鑽を遂げられん  
 ことを。

第一節 中華民國の外國貿易

大正六年に於ける中華民國に於ける外國貿易に就き外務省通商局の發表せし所により之を觀るに輸  
 出四億六千二百九十三萬兩輸入五億四千九百五十一萬兩にして歐洲開戦前の大正二年の貿易額に比  
 すれば輸出に於て五千九百六十二萬兩の増加を示し輸入に於て二千六十四萬兩の減少を示せり今世  
 界各國に對し輸出額を戦前に比し其の狀況を示せば。

支那輸出額

(甲) 英國及其領土

	大正二年	大正六年	増	減
英 本 國	一六三、四六三	二六〇、八九七	九七、四三四	一、二六九
香 港	一一七、二八六	一一五、八四二	—	一、四四四
印 度	六、一九〇、三〇七	六、九五〇、三八七	三、〇六〇、〇八〇	—
海峽殖民地	七、五五二、七〇〇	六、六〇七、四八三	—	八、七七八
加 拿 大	六、五二二、三〇〇	二、六六六、五三三	—	—
南洋羣島	五、三六三、四三三	一、〇三三、八四〇	—	—
南亞弗利加	六、二七三、五	四、一八九、一	—	—
計	一、四八四、九五九	一、五八三、三七七	九八、四一八	—

(乙) 歐米諸國 (英國領土を除く)

歐露諸港	四九七七三	四七七八三		四九〇九二
同及亞露(陸路)	三〇九五八二	一三〇四三六		一〇七五二八
亞露(黑龍江諸港)	七九六九〇	七〇八八六		八八三〇一
亞露(太平洋諸港)	二八八八八	二八七四八		一〇七五二
獨逸	一七〇五三	三〇		一七〇五二
佛蘭西	四〇七四九	二五五三〇		一五〇一七
白耳義	六五四三九	二五五三〇		六五四三九
和蘭	八六九二四	二六五九六		八六九二四
埃洪國	一五九〇七			一五九〇七
伊太利	八三二八〇	三九〇五八		四四二二七
丁抹威	二八九四九	一六七八三		一三〇九二
諸威	二七〇六	九八二三		七二六
瑞典	二二八五五	一六八〇		二二八五五
西班	三八〇九二	一九二七九		三八〇九二
葡牙	一八四四九			一八四四九
瑞其	四七六九九	三六九五		四七六九九
土耳其	三六六八八	一五五五〇		三六六八八
亞米	三七六〇二	九四七六三		三七六〇二
北米	五九〇九八	五二七八		五九〇九八
墨西哥	六六二二	四四三二		六六二二
南亞				
亞米利加				

(丙) 東洋諸國

日本	六五五四二八	一〇五七三八一	四〇二九六三	二二〇九
朝鮮	六八二九六八	八二八九三三	一七〇五九六	一五〇八八
日鮮	七六二六四三	一五六二八五	七九六四二	二二〇九
門島	四九五三七八	四九三九四九		二六〇八九
支那	一八七〇七三	一六二二九八		二六〇八九
印度	二六〇五〇六	一七三三七八		八九二二八
東印度	二六〇五〇六	一七三三七八		八九二二八
暹羅	二六〇五〇六	一七三三七八		八九二二八
總計	四〇三〇五八七	四六二九三三〇	五九六二〇八四	

支那輸入額 (甲) 英國及其領土

英國	九六九一〇	五二九九一		四四九二八
香港	一七二六三六	一五八六〇		一三〇〇〇
印度	四八二九二	二六九九一		一〇七六二
海峽殖民地	八九五四一	六八七七九		一〇七六二
加奈陀	一八六五七	九〇九四三		一八六五七
大正二年			增	
大正六年			減	

瀛洲及ニューシ ランド	七〇,101.七	五八五,100.五	一五八,300	一,168.10
南亞弗利加	九	一五八,300	一五八,300	一,168.10
計	三二八,三二四.一〇	二,五四一,五三九.八〇	一五八,300	七,四一八,四四〇.〇〇

(乙) 歐米諸國 (英國領土を除く)

歐露諸港	二九三,五九六	三五六,七九	二,七九.一七
同及亞露(陸路)	一一五,八一八〇	二九三,五二五	九,三二四,六六九
亞露(黑龍江諸港)	五,一五〇,三〇〇	一五四,一九三	三,六〇八,七二七
同(太平洋諸港)	九〇,八六〇,八二	八〇,四三三,四八	二,九一七,三三四
獨逸	二八,三〇二,四〇三	一〇,三三〇	二,八三〇,二四〇
佛蘭西	五,九九,五二七	二,三〇九,一六〇	二,九九〇,三三七
白耳義	一五,八三〇,八三八	七,九九七	一,五八三,二四一
和蘭	一四,二三八,六四	三,三六二,五	一,五九〇,三三九
伊太利	四,二二,九一三	一〇,三三	四,二〇八,七二八
丁抹	六,六三六,五二	四,六七九,九九	一,九三六,六三二
瑞威	一〇〇,八五	六,七四二,四	三,四二七
瑞典	三,四七,九二	二,四七,五三九	八〇,九九
西牙	一,五〇,九八九	三,四〇,一五	一,二〇〇,八七六
葡牙	三,三六六	二,一三〇	一,二五六
瑞西	一,一七三	六六二	一,一七三
計	五八〇,三三四	六六二	五,七三二

(丙) 東洋諸國

土耳其波斯	一四〇,一八六	一三〇,七七	一	九,四六九
埃及亞丁等	五,五四七,一九八	六〇,九六〇,七七	二五,五三三,五九九	一,一六二
北米合衆國	七	三八六,八二	三八六,八二	一,一六二
墨西哥及中米	一七三	一一	一一	一,一六二
南亞米利加	一七三	一一	一一	一,一六二
日本	一一九,三三六,六三二	二二一,六六六,八九二	一〇,四三〇,四三九	一,一六二
朝鮮	三,五三六,八八一	一一八,四三三,〇〇六	八,三六二,二五	一,一六二
比律賓群島	一,三九七,六一九	一,七〇六,九九	三,一〇,〇〇〇	一,一六二
澳門	六,五九六,一四八	四,六五四,〇三二	一,九四二,〇五二	一,一六二
佛領印度支那	四,七八二,〇一一	二,四六一,九九六	二,三三〇,〇八七	一,一六二
蘭領東印度	六,八三六,七九二	四,五一五,六四四	二,三二二,一五二	一,一六二
暹羅	五,一四七	五,五三六,八五	五,一〇一,〇五	一,一六二
總計	五八六,元〇,四三一	五,七七三,八一,三三九	五,一〇一,〇五	八,九九〇,九九二

以上の表示によりて之を見るに。

(甲) 表中英國及其の領土に對する支那國よりの輸出額は一千五百二十一萬三千二十二兩戰前より増加せり而して是等地方よりの輸入を見るに七千四百十八萬八千四百二十兩の減少を示せり。

(乙) 表中歐羅巴諸國を觀るに輸出の増加せし國は露西亞國にして其の陸路貿易にありては一億三百

萬兩以上増加せり諾威國に於て百萬兩の増加を見るは異數の如し輸出の最も減少せしは佛蘭西白耳義等にして共に一千五百萬兩以上の減少を見る北米合衆國に對しては五千七百萬兩の増加を示せり。

輸入の方面より觀察するに露西亞陸路貿易は九百萬兩以上減少し獨逸の如きは全然輸入なく爲めに二千八百三十萬兩以上の差を顯せり其の他最も多きは白耳義にして千五百八十萬兩以上の減少を示せり其の他皆減少を示せるに獨り北米合衆國に對しては二千五百五十三萬三千五百七十九兩の輸入増加を示せり。

(丙) 東洋諸國に於ける輸出入貿易の狀況を見るに日本に對する輸出は實に四千萬圓の増加にして輸入は一億二百萬圓以上の増加せるを見る輸出入共に減少せしは澳門佛領印度支那蘭領東印度等なり而して支那全體に於て大正六年の輸出は戰前即大正二年に比較し五千九百萬兩の増加を示し輸入に在りては八百九十萬兩の減少を示せり今以上表示の事情により研究するに殊に支那國は世界各國人の注目する所なるにより少しく岐路に互る所ありと雖も貿易上の結果を判斷するに左の如き面白き事情の潜在するものあるを見る即ち。

(一) 陸路貿易は海路貿易より安全なりしこと勿論此見解は支那國より觀察したることなれば露國過激派の西比利亞進入により影響なきに非ざる可しと雖も接壤の地は交通貿易をして容易ならしむ

るに在り。

(二) 海路貿易の危險なりしことは又大に注目し價す可し夫の青島より獨艦エムデン其の他大洋に出て各方面に於て砲火を切りたるは世人の知る所にして當時太平洋及南洋航海の危險計る可からざるものありし又地中海及大西洋に在りては獨艇の災に罹るもの多く爲めに貿易上に至大の影響を與へたり我日本帝國は英國と同盟國たるより直に參戰し日本艦隊各方面に出動し東洋及南洋方面より獨艦を驅逐し其の横暴を停止せしめ安全なる航海を爲し得るに至りたるは全く日本艦隊の威力と功勞に在り北米合衆國に對する輸出入の著しく増加を見たるは全く航海の安全なるに在りて此安全に至らしめたるは一に我日本帝國艦隊の功と謂ふも不可なきなり何となれば勿論英米の艦隊在りしと雖も我海軍艦隊は其の大部分を形成せしものなれはなり我海軍の功績最近の過去に於て實に世界各國に對し甚大なるものありしと雖も其の功績に對し我邦人は克く之を認知せりや否や將又是に關聯して世界の白人か如何に憂悞の念を抱くに到りたりしや否やを知れるや事實に於て支那貿易上の計數に顯然たる所を見れば明晰に之を知悉し得るのみならず國際聯盟會議を俟たずして強國自強主義を墨守せるを見れば實に慨嘆に勝へざるものあり吾人は是等の生ける教訓を子々孫々に傳達し之を服膺し國民の自發的奮闘心を希望すると共に吾邦人は世界何れの國民と雖も克く親善するの心掛を要し殊に隣邦支那を扶掖誘導して獨立國たる尊嚴を維持せしめ且一朝有



事の日に國家の爲めに盡瘁せざる可からず否平常に斯る心掛を以て勇往邁進し一は無形的に  
 一は有形的に換言せば精神的と資財力と二ながら全ふせざる可からざるなり。  
 今又大正六年中支那國に於ける輸出入貿易の比較を見るに。

輸出入	輸		入	
	出	入	出	入
英 本 國	二六〇八九七九	五二九八九二	二五八八九二	二五八八九二
香 港	一一八四二九四	一五八六〇二四	一一八四二九四	一五八六〇二四
印 度	六九五〇三八七	二六九八九二八	六八七七七二	二〇〇三八七九
海峽殖民地	六六七四八五三	六八七七七二	九〇九四三四七	二〇二九三九
加 奈 陀	二六八六五三	五八五二〇四	一四四二六六	六四〇七八二
濠洲ニューシラ	一〇七三三七〇	一五八三九	二六〇五	六四〇七八二
南亞弗利加	四一八九一	一五八三九	二六〇五	六四〇七八二
計	一五九三三三七	二五四一五三九	二五四一五三九	九四八四〇三三
歐 露 諸 港	四七七一三	三五六九	四四二三四	七二六九
露 國 (陸 路)	一三四八二七四	二九三三二五	一〇五四七九	一〇三三
亞露 (黑龍江諸港)	七〇八八六二	一五四一九三	六五三一六九	二二七七二
亞露 (太平洋諸港)	二八七八五五七	八〇九四三四八	二〇六五四〇九	三三三三六九
獨 逸	三〇	八〇九四三四八	三〇	七九九七
佛 蘭 西	二五五三〇七九	二二〇九一六〇	二二〇九一六〇	七九九七
白 耳 義	三〇	七九九七	三〇	七九九七

輸出入	輸		入	
	出	入	出	入
和 國	二六三五六	三三六二五	二六三五六	三三六二五
奧 國	三九〇五八二四	一〇三三	三九〇五八二四	一〇三三
伊 太 利	一六七八八二二	四六七九九	一六七八八二二	四六七九九
丁 威 抹	九八二二	二四七五三九	九八二二	二四七五三九
瑞 典	一六八〇	三三〇一	一六八〇	三三〇一
瑞 士	一九二七九	二二〇	一九二七九	二二〇
葡 萄 牙	三六九五	六六二	三六九五	六六二
瑞 士	一三五五〇二	一三〇七二七	一三五五〇二	一三〇七二七
土 其 其 波 斯 亞 丁	九四七六二二九	六〇九六〇七七	九四七六二二九	六〇九六〇七七
北 米 合 衆 國	五二七八	三六六八	五二七八	三六六八
墨 國 及 中 米	四四五三二	一一	四四五三二	一一
南 亞 米 利 加	一〇五七三八一	二二六六八八	一〇五七三八一	二二六六八八
日 本	八五一八九三四	一一八四三〇六	八五一八九三四	一一八四三〇六
朝 鮮	一五六三二八五	一七〇六六七九	一五六三二八五	一七〇六六七九
比 律 賓 諸 島	四九三九四六九	四六五四〇九二	四九三九四六九	四六五四〇九二
澳 門	一六二一九八四	四四六一九七六	一六二一九八四	四四六一九七六
佛 領 印 度 支 那	一七三三七八	四五一五六四一	一七三三七八	四五一五六四一
關 領 東 印 度	二二六六〇七九	五五三八五二	二二六六〇七九	五五三八五二
暹 羅	四六二九三二〇	五七七八一三三	四六二九三二〇	五七七八一三三
合 計	二六三五六	三三六二五	二六三五六	三三六二五

大正六年に於ける輸出超過の最も大なるは日本にして次は亞米利加次は佛蘭西次は亞細亞露西亞なり輸込の最も大なるは香港にして次は英本國次は印度等なり支那全體より之を見るときは輸入超過一億一千四百四十萬兩以上なり當時は恰も銀相場非常に高値にして支那國の輸入貿易に利せるもの尠少にあらざるなり。

支那に於ける輸入超過の傾向は從來よりの現象にして尙今後も持續す可しと雖も支那内地産業の開發に伴ひ原料品及粗製品の輸出大なるものある可し又是と共に入力の増加も亦著しきものある可し要するにち支那貿易の進歩は今後著しきものあるを疑ふ可からず支那貿易の向上に伴ひ爰に研究す可き問題は銀相場問題より延て爲替相場に影響すること是なり單に貿易上の差額によるのみならず支那國の借款問題は又銀爲替相場の一大問題たらざる可からず一言以て之を掩へは支那貿易の輸出多きときは金貨國に於ける銀の需用を増加し従つて銀爲替相場の強勢を意味し又支那放資に對しては金貨債權國が銀貨の需用を大ならしめ銀爲替相場の強勢を惹起するに至るなり更に平易に謂ひ換ふれば銀相場は金相場より高くなる可き傾向あるなり之に反し輸入額超過せば支那に於ける金貨の需用増加するを以て金貨相場騰貴し銀貨相場下落すべき傾向あるなり只銀貨の需用は支那一國に止まらず印度然りマニラ然り是等諸國の經濟的情況相綜合して始めて多少其機微を窺ふことを得可しと雖も要するに斯る傾向あるは我金融業者の一考を要す可き問題なる可し。

結果的の傾向

大正六年に於ける支那外國貿易額港別に就き外務省通商局の報告によれば。(單位海關兩)

愛三滿哈綏環龍安大大牛秦天龍烟膠重萬宣	州爾芬井東王	瑛姓里賓河春村東滿連莊島津口塞州慶縣昌	外國輸入品	支那品輸出	合計
四八、一六一	一二、六一〇	七三七、五四四	四八、一六一	七三七、五四四	七八五、七〇五
二、八六九、二三八	九三、四二二	九二一、五八〇	二、八六九、二三八	一一、一六九、九一一	九三四、一九〇
五、八一四、〇二二	四四七、三六一	一、六二二、九六五	五、八一四、〇二二	一七、九八二、五五〇	一四、〇三九、一四九
八一一、一七七	二八、五二〇、〇九九	四二一、二三七	八一一、一七七	四六九、九三六	一、七一六、三八七
四八二	五八、二七四、四九七	九、二五三、一〇五	四八二	二七、六五四	一、二八一、一一一
五、〇八八、五四二	一、四一五、九二〇	二七、六五四	五、〇八八、五四二	五、一五七、五四一	一〇九、八五〇、〇三八
五三、五一、五八七	八、九五〇	二、七九五、二五六	五三、五一、五八七	二、八二六、九六六	七、八八三、七九八
八、九五五、〇七七	一七、八二四、七七二	一七、三七五、九三五	八、九五五、〇七七	一〇、一一五	四、二四二、八八六
六五七、一七〇	一一、四六一	三、七六七、二七九	六五七、一七〇	一六、八九九、二〇一	七〇、八八七、五二二
二四六、二七一	二四五、五九四	一、六四〇	二四六、二七一	一一、六四〇	一九、〇六五

江	拱	同	九	廣	汕	厦	福	三	溫	寧	杭	蘇	上	鎮	南	蕪	九	漢	岳	長	沙
門	北	(	龍	州	頭	門	州	海	州	波	州	州	海	江	京	湖	江	口	州	沙	市
		鐵																			
		路																			
二八四、九七〇	一、三五七、〇二四	六、七八九	三六、七五五、二七八	二、一四四、五三一	一、二七四、五二八	一、六一六、七四一	四、八三二、六四八	二一〇、〇八五、九九〇	二四、〇一〇	一三六、五四六	二、七〇五、九二六	一、八四六	二七、五二三	四、五六二、六六七	八、〇〇三、一五五	七、八七四、四〇〇	三三、六三三、二八五	二、三八四、四三六	一〇、六九五、六四四	三、七八八、九二二	三、二三六、六一二
二四五	一、八五九	二、三、七三〇	一二、七六七、七七六	一、四五五	二七八、八六五	三、六六四、六九〇	四五、四三五	一九七、三五四、六五九	一、七〇四	二七〇	二、一八三、二一五	一、八四三、一四二	九、七二一、三六〇	四九、九九四、〇六六	一四、一七二、六九〇	一、二三九、九〇〇	五、一六八、三九七	一、四〇一、三八五			
二八五、二一五	一三五、八八二	三〇、五一九	四九、五二三、〇五四	二、一四五、〇八六	一、五五三、三九三	五、三二五、八六四	四、八六八、〇八三	四〇七、四四〇、一四九	二四、〇一〇	一三六、五四六	二、七〇七、六三〇	一一、八四六	二七、七九三	六、七四七、八八二	五、八四六、二九七	三七、五九三、七六〇	八三、六二七、三五一	一六、五五七、九二六	一一、九三五、五四四	八、九五七、三一九	四、六三七、九九七

三	梧	奉	瓊	北	龍	蒙	思	贛
水	州	寧	州	海	州	自	茅	越
九、二一三、〇一〇	一、一〇九、一三五	三、三三九、一〇一	一、六一二、一三一	五二、五五一	五二、五五一	五、九二一、三四九	二三五、三七三	二、二〇二、四一二
五七七、三八一、三三九								
七三九、八九八	四、九〇四、九〇二	二、一六二、一七一	二、三四九、一〇一	一、一一〇、三七六	四、五三〇	一一、八六五、六六八	二九、六三五	七九四、四九八
四六二、九三一、六三〇								
六、〇一四、〇三六	六、〇一四、〇三七	五、五〇一、二七二	三、九八一、二三二	一、一六二、九二六	五七、〇八一	一三、七八七、〇一七	二六五、〇〇八	二、九九六、九一〇
一、〇四〇、三一二、九六九								

以上の表によりて之を見るに上海は最も多額に上れり次は大連にして次は廣州次は天津次は漢口次は汕頭次は膠州灣九龍等なり内上海は一頭地を抜けるを見る上海が商業の中心として而も政治上に於て第二の中心たる蓋し斯の如き事情あるに由るものならんか今後支那國にして運輸交通便利となるに至れば益々諸貿易港の進歩を見る可き明晰のことたり只右諸港に於て輸出入貿易額の進歩せるは南方諸港の天然産品の豊富なる地方よりも寧ろ北方諸港の天然産品に缺乏せる地方の貿易旺盛なる觀を呈せるは一見奇象を感せずんばあらず蓋し斯の如き現象は一概に論ず可からざるものあるも南方地方は政争徒に甚じくして實業上に於て缺くるものあるに非ざるなきか夫の鐵道問題の如き或は借款問題の如き或は勢力範圍問題の如き政争多くして實力之に伴はず只長江一帯地方は天然の力

甚大なるより天然力は克く人力に勝つ原始的經濟事態の賜ならずんば非ず支那に於ける事情を闡明せんと欲せば必ずや各種の問題を解決したる後にあらずれば斷言することを得ざると共に又研究材料とし實際的材料として實に豊富にして興味ある問題と謂ふ可し殊に世界の白人が爰に留意し政治的に教育的に宗教的に且經濟的に施設し煽動を逞ふしするものあるを以て益々紛糾を重ね難治の國となり民たるなり斯の如くにして是等の研究を爲すに興味津々として一面に面白き事情在ると共に又他面に在りては難問題の伏在せるを看る可し。

支那主要外國貿易品

支那國に於ける大正六年主要なる外國貿易品を見るに大正七年八月十日付有吉上海領事の報告によれば左の如し。

支那品輸出	主なる輸出先
錫塊	香港九割以上
絹白	米國五割英國四割
絹黃	香港九割
絹及	全部日本
絹及	香港、佛國、英國、日本
絹及	大部分日本
絹及	日本八割
絹及	米國三割英國二割三分
絹及	日本、米國、加奈陀、香港
絹及	日本五割七分香港一割
絹及	米國、英國、日本、香港
絹及	露國、日本、米國、伊太利
絹及	英國、露國
絹及	香港、米國
絹及	日本八割
絹及	香港九割
絹及	露國六割
絹及	香港海峽殖民地
絹及	露國五割
絹及	香港三割五分米國二割五分印度英日之に次ぐ
絹及	米國八割日本一割七分
絹及	露國五割米、香港、印度英國之に次ぐ
絹及	米國、日本、英國
絹及	日本九割
絹及	日本七割五分米國三割
絹及	露國五割、日本二割四分英國一割
絹及	米國五割五分日本二割
絹及	七九、一四八、六〇三
絹及	二九、七一七、七三二
絹及	二九、一〇七、六八七
絹及	二七、九九七、六七二
絹及	二三、七五八、〇七五
絹及	二〇、〇三五、八六二
絹及	一九、六〇二、五四九
絹及	一二、三〇〇、四六二

外國品輸入	輸出先
錫塊	香港九割以上
絹白	米國五割英國四割
絹黃	香港九割
絹及	全部日本
絹及	香港、佛國、英國、日本
絹及	大部分日本
絹及	日本八割
絹及	米國三割英國二割三分
絹及	日本、米國、加奈陀、香港
絹及	日本五割七分香港一割
絹及	米國、英國、日本、香港
絹及	露國、日本、米國、伊太利
絹及	英國、露國
絹及	香港、米國
絹及	日本八割
絹及	香港九割
絹及	露國六割
絹及	香港海峽殖民地
絹及	露國五割
絹及	香港三割五分米國二割五分印度英日之に次ぐ
絹及	米國八割日本一割七分
絹及	露國五割米、香港、印度英國之に次ぐ
絹及	米國、日本、英國
絹及	日本九割
絹及	日本七割五分米國三割
絹及	露國五割、日本二割四分英國一割
絹及	米國五割五分日本二割
絹及	一二、二〇四、八七七
絹及	一一、九九九、六八四
絹及	一〇、九〇四、五四六
絹及	九、九四六、七五六
絹及	九、〇三二、九四九
絹及	七、三五〇、六七七
絹及	七、一六八、一九六
絹及	六、三二三、二二〇
絹及	六、二九八、八六四
絹及	六、二六七、五五九
絹及	六、一七一、六三八
絹及	五、七一〇、九二七
絹及	四、七二七、三三三
絹及	四、三九四、六六七
絹及	三、五八二、四〇九
絹及	三、三三〇、〇〇九
絹及	三、二七六、八〇五
絹及	三、二〇三、〇八二
絹及	三、〇六〇、〇五〇

外國品輸入	輸出先
絹及	日本五割五分英國三割一分香港一割一分
絹及	日本四割六分、香港三割印度一割五分

砂	石	紙	米	石	鐵	海	熱	機	櫛	藥	各	人	紙	裝	茶	木	電	煙	石	珈	靴	
	油	卷	及	及	及	產	產	械	櫛	種	種	參	寸	身	品	材	材	料	草	料	下	
四五、〇九九、〇八七	三三、四〇一、九四六	三一、二六三、〇二七	二九、五八四、〇九三	一五、〇四一、八三四	一四、六〇二、〇五八	一四、一七九、六一六	一〇、八二九、三七一	六、五四〇、一〇八	六、四〇六、二二四	五、九三七、二一一	五、七九八、六六三	五、七八五、八八七	五、七六五、五九二	五、六四八、一五六	五、〇九一、七一六	四、八三九、八八五	四、四二一、三〇七	四、三七八、三九一	三、七三五、四七九	三、七二二、九九四	三、一七八、九二九	三、〇五八、〇〇二
香港三割八分、日本三割關領印度之に次ぐ	米國六割香港二割	米國五割加奈陀一割五分	香港九割	日本七割香港二割	米國、日本、英國、香港	香港五割、日本三割	香港五割五分日本四割	英國、日本、香港、米國	日本五割印度二割	香港五割日本四割	日本四割七分、印度香港之に次ぐ	日本八割、香港一割	朝鮮五割	日本七割、香港一割五分	日本六割香港二割	印度五割、海峽殖民地二割	日本五割、香港一割	日本六割	米國四割香港二割	日本四割英國三割	日本六割米國一割五分	日本六割香港三割

而して以上支那國に於ける貿易事情を記述したれば以て其の概要を知る可しと雖も支那國は我邦と最も關係大なるものあるを以て特に重要な各都市貿易に就て記述する所あらんと欲せしも爰に之を略せり。

第二節 比律賓の外國貿易

一九一七年即ち大正七年に於ける比律賓の外國貿易を見るにマニラ帝國領事相原氏の報告によりて之を研究するに左の如し。

年次	輸 出	輸 入	超 出	輸 入
大正三年	九七、三九、二六八	九七、一七、三〇六	二〇、一九、九六二	
同 四年	一〇七、六六、〇〇八	九八、六二、四三六	九、〇〇、一六四	
同 五年	一三九、八七、四三六	九〇、九九、二七五	四八、八八、一六〇	
同 六年	一九一、一六、六三三	一三、五九、四〇六	五九、六二、四五三	
同 七年	二二二、三六、五〇七	一九七、一九、四三三	七四、一六、六四八	

輸入品の大宗は相變らず綿製品にして輸入總額の約三分の一を占め大正七年は五千八百萬餘ベソなり次は鋼鐵製品にして二千四百五十萬餘ベソ次は米穀にして千六百三十餘萬ベソ次は自動車次は小麦粉絹織物類及魚類等なり。

輸出品に在りてはマニラ麻(アバカ)最も主となり實に一億千六百三十八萬三千餘ペソにして四割強を占め次は椰子油にして六千三百三十二萬八千餘ペソなり次はゴブラ砂糖煙草等なり。今比律賓に於ける國別輸出入額を見るに。

國別	輸 入		輸 出		輸 超	
	入	出	入	出	入	出
北米合衆國	二七六四九	一七三三九	三三二	六二六〇		
布哇島	六七〇	二八八				
英 國	五五二八	五二二				
日 本	二六二〇八	一五九三六				
支那	一三二五三	六四九八				
佛領印度	一三九五六	二〇六四				
香港	一一三	一〇七六				
濠洲	七三三八	一四八九				
西班牙	九三四	六九二五				
英領東印度	三八七九	三二五一				
佛領東印度	一六一三	二四八四				
蘭領東印度	一七八四	八七八				
暹羅	二二〇	二九				
加奈陀	二二〇	二二八				
合 計	一九七九八	二七一三六	一七五	七二七		

國別	輸 入		輸 出		輸 超	
	入	出	入	出	入	出
瑞 西	九六二	二九九				
伊太利	八九	二八九				
關東州	二〇四	一六				
和蘭	九〇	一八				
獨逸	六五	九〇				
丁抹	四〇	四〇				
其他	四八九	三二四				
合 計	一九七九八	二七一三六	一七五	七二七		

比律賓は年々輸出超過國たり而して大正七年に在りては實に七千四百十六萬六千六百四十ペソの輸出超過を示し其の最も大なるは北米合衆國にして次は香港次は西班牙國なり輸入の最も多きは佛領印度にして次は我國なり次は濠洲次は暹羅なりとす故に爲替決済上に於て英米香港に取引銀行を要する至當のことたり。

貿易額に於て之を見るに最も多きは米國にして次は英國次は日本次は支那佛領印度香港濠洲等なり近時米國は米國と比律賓間の航路を沿岸航路と認め外國船舶の自由出入を營せんとするの案ありと謂ふ果して然るや否やを知らずと雖も若し此事にして實行せられれば現在貿易上に於て米國は最たるものなるに搦て加へて一頭地を抜くに至らん蓋し米國大統領ウキルソン氏は公海の自由を國際聯盟に提案したる程なれば此事無かる可しと雖も米國人の心理情態よりせば決して是無しとは斷言す

可からざるのみならず或は急に行はるゝに至るやも未だ知る可からざるもの有り東洋の優越権を有する我國民たるものは大に一大實力を有するに到ることに想到せざる可からず業已に武力解決は過ぎ去りたりと雖も實力問題及實力解決は將來のことにして今後の平和的戦争たるを豫測せざる可からず。

第三節 蘭領東印度の外國貿易

蘭領東印度に於ける大正六年に於ける外國貿易を見るに大正八年一月十八日附パタビヤ岩越領事の報告によれば輸出入總貿易額は十二億八千九百九十二萬餘盾にして前年に比し二千四百四十九萬盾を減少せり是米國政府が同國港灣に於ける蘭船の停留獨逸潛航艇の無差別襲撃に因すと謂ふ今輸出入額を見るに。

輸 入 額

大正二年	三六、〇七三	二〇、〇二七	一三、六七〇	三、九七一	四六、一六一
大正三年	三六、三六〇	二〇、三三〇	一三、八〇九	三、九七一	四六、一六一
大正四年	三六、二二〇	二〇、三三〇	一三、九四五	一、六〇七	四六、一六一
大正五年	二八、八三六	二二、七五五	一五、八八八	八五五	四六、一六一
大正六年	三二、七五五	二二、七五五	一五、三六四	八九八	四七、四七四

大正二年  
大正三年  
大正四年  
大正五年  
大正六年

輸 出 額

大正二年	二四、四九二	四、四一九	二五、三〇〇	三、〇八五	三二、〇八五
大正三年	二五、一五二	三、〇五〇	二五、三〇〇	三、〇八五	三二、〇八五
大正四年	二五、三三七	三、〇五〇	二五、三三七	三、〇八五	三二、〇八五
大正五年	一五、〇六二	四、〇〇〇	一四、九七	一、四三三	二二、九六一
大正六年	一八、九二六	一、六〇〇	一四、三三	一、四三三	二二、九六一

大正二年  
大正三年  
大正四年  
大正五年  
大正六年

貨物	三三、七三三	三、〇五〇	三三、七三三	三、〇八五	三三、七三三
金銀貨	三、〇二七	一、〇〇〇	三、〇二七	一、〇〇〇	三、〇二七
計	三六、七六〇	四、〇五〇	三六、七六〇	四、〇八五	三六、七六〇

而して是等輸出入の總額を示せば。

年	輸 入	輸 出
大正二年	四九三、三四一、〇〇〇	六八三、九四六、〇〇〇
同 三年	四二九、四五三、〇〇〇	六八四、六五五、〇〇〇
同 四年	三九九、四〇三、〇〇〇	七七〇、八六〇、〇〇〇
同 五年	四四六、二五二、〇〇〇	八六八、一五七、〇〇〇
同 六年	四九六、六八五、〇〇〇	七九三、二二九、〇〇〇

輸入の状況を見るに戦時中においては歐洲諸國より輸入困難となり和蘭本國よりの輸入は著しく減退し其の結果必需品は勢ひ日、米、濠等に仰かざる可からざるに至れり蓋し斯の如く太平洋上及印度洋上の航海太西洋より安全なりしは一に我日本帝國海軍力の威力預つて力ありと謂ふ可し今大正六年に於ける百萬盾以上の重なる輸入品を同領事の報告によりて之を示せば。

品名	和 關 日 本	英 國	米 國	新 嘉 坡	香 港	印 度	濠 州	合 計
陶磁器	二八七、七四七	五九、九七七	四六、一七	一、八四七	八三、六六			一、八六、四九四
石油	二、五九八、四九		三、〇八四、三	三九七				三、〇二、一五
自動車	九、九六〇	一、四一〇	七、六〇六、一〇	三九六、一〇				七、八三、一三
自動車、タイヤ	三、四九二、二	三、一六六、八	一、四四〇、七九	二〇七、二				三、三、四七
酒	二、八五五、四	四、四七三	六、八八〇、三	四七七〇				一、五、六、二
麵粉	六、八六二	一、四九四	一、七九一、〇	九〇				一、八、七、九一八
鉄力板	三、三三二、二		一、七九一、〇	九〇				一、五、八、四二四
その他	三、三三二、二		一、七九一、〇	九〇				一、五、八、四二四

品名	和 關 日 本	英 國	米 國	新 嘉 坡	香 港	印 度	濠 州	合 計
セメント	二、二七八、三	二、二一〇、一	二、八九三、		三、四一九六、一			二、六、四、二、八
化學藥品	二、七七八、一八	二、二五七、二	六、五五七、一	一、〇〇、三、五	三、八九九、八	一、七、三、五、四		二、四、二、九、九
食料品	二、七五三、四七	三、九八六、四	一、三三〇、二	一、二一、三、六	一、〇三、〇、六	一、六、五、五		一、〇、五、六、三
綿織品	一、四〇、三、五八	一、三三六、〇	六、一三、七	一、四〇、五、三	一、一〇、九	二、九、一、四		三、四、八、六、三
賣藥類	三、〇五、四七九	三、四〇、五七	一、三、一、一	一、八、九、〇、九	八、五、二、六	一、八、四、〇、九		一、〇、九、七、三
硝子製品	一、八六〇、九七	七、三、一、四七	六、五、九、一	三、六、〇、九	八、五、二、六	一、八、四、〇、九		一、〇、九、七、三
樹脂	七、六〇九	二、一〇、九	一、三、九、九、一	二、八、五、四、八	三、〇、五、二	一、四、六、一、七		一、四、六、一、七
木材及木製品	六、七六、一	七、一、八、四、九	一、三、六、九、〇	二、三、七、三	四、四、二、六	一、〇、三、三、二		二、四、二、六、四
大豆	三、三三九、三九	八、九三、一、五	一、六、六、九、〇	七、一、一、八〇	一、四、六、一、五	四、二、二		二、九、四、八、四
衣服類	一、五三、七	六、七、一、四	一、七、七、八、一	二、一、一、八	一、〇、一、四、五	一、〇、八、九、六		一、〇、八、九、六
銅板	一、五三、七	六、七、一、四	一、七、七、八、一	二、一、一、八	一、〇、一、四、五	一、〇、八、九、六		一、〇、八、九、六
銅線其他	一、五三、七	六、七、一、四	一、七、七、八、一	二、一、一、八	一、〇、一、四、五	一、〇、八、九、六		一、〇、八、九、六
小間物	二、八六、八	八、四、九、三、五	七、五、一、〇、六	三、六、六、二	一、七、九、六、二	一、七、七、九		二、八、四、〇、八
鑄造物	一、〇〇、一、六	一、七、一、九、二	三、三、三、一、五	一、七、九、六、二	一、七、九、六、二	一、七、七、九		二、八、四、〇、八
工場機械	一、三、〇、五、四九	一、五、九、二、三	三、九、四、一、七	八、三、三、九、六	五、八、三、〇、四	二、七、〇、〇		二、八、四、〇、八
製糖機械	一、七、九、〇、六	三、五、九、〇、四	一、八、四、四、九	四、〇、九、九、九	五、五、二、五、九	二、七、〇、〇		二、八、四、〇、八
縫製器具	五、九、七、七、八	一、七、四、五、〇	一、八、四、四、九	一、三、九、六、〇	五、五、二、五、九	二、七、〇、〇		二、八、四、〇、八
裁縫器機	四、七、六、二	八、三、一、四、七	六、九、七、五、五	一、〇、一、一、八	一、九、四、七、三	二、七、〇、〇		二、八、四、〇、八
農手工業器械	三、二、五、四、七九	八、七、〇、一、九	七、五、五、一、六	一、五、三、七、五	一、九、四、七、三	二、七、〇、〇		二、八、四、〇、八
其他機械器具	一、五、八、五、三	二、四、二、七、二	四、七、九、八、〇	九、五、三、四、四	二、九、八、八、三	二、二、九、六		二、八、四、〇、八
生木	一、〇、八、三、六、七	四、三、五、五、〇	三、七、七、三、三	二、九、八、八、三	四、六、七、三	三、八、四、三		二、八、四、〇、八
晒木	八、二、四、一、四九	一、九、一、五、四、六	一、四、〇、六、八、三	七、七、八、一、四	四、六、七、三	三、八、四、三		二、八、四、〇、八
更紗類	三、二、八、四、五、三	七、〇、九、九、八	二、一、〇、三、八、〇	三、九、五、九、〇	二、六、七、八、二	二、一、五、九、六		二、八、四、〇、八



絹及半絹	五九八五三	六二九四二〇	三三三三三	二二六〇八	一六五九七三	五七六〇八九	一〇九〇六	六三三六	一八九九七三
布帛類	五九一三九	九八〇七九	一〇五五四七	一四四四九	一五三四〇八	七二六三九	一〇九〇六	六三三六	四一三〇八七
煉乳其他	七八八	三九七九一五	一七三三三	一七三三三	一三三〇〇	五九六三	一七三八	二〇九〇三	二六七〇七〇
硫酸アンモニア	二六九六五	一六〇九六	九三九四	三三一九七	二二七四七	二六八一八	四九三七八	一七三三六六	一七三三六六
肥料	二五〇	三七四九八	四〇〇一三五八	二六六三三	一〇〇〇〇	四〇一七七	六九九九三	一三三三九八	一〇三三九八
流行品	二五〇	七二七七四	一三三三三	一三三三三	一四六〇一五	一八五〇八九	一八五〇八九	二〇九〇三	四六九七七〇
紙類	二九四四八	一八四一三三	二二〇三三	一〇〇三三	一〇九四八	四四二四三	二二九二	二二〇四九	三〇八一三
香水	九六五八九	九八八九七	一四四八九四	九八五三〇	一〇二一五八	三九九四三	二二九二	六〇	三九九四三
米	一一八〇九	六四八三一	五九二八三	一七二八三	四二八一五	一四〇六五	二二九二	二二九二	一四四四八
煙草	二〇〇〇五三	四八七八	六七三三〇	一九七八〇	五九九七四〇	四〇五六	二〇九七七四	二二九二	四八七七四
石炭	三三三三三	三三三三三	三三三三三	三三三三三	三三三三三	三三三三三	三三三三三	三三三三三	三三三三三
茶	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇
染料	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇
干鹽	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇	一〇一〇一〇
魚類	一七三三三	一七三三三	一七三三三	一七三三三	一七三三三	一七三三三	一七三三三	一七三三三	一七三三三
葡萄酒	六二二〇六	一四四八六	一〇〇一三	八二六二	五二七九	二二八七	四九九九	一三三三三	一三三三三
鐵鋼及	一〇一〇一〇	九二〇五〇	八九一〇〇	一八三三三	二四七三〇	一〇九一〇八	五五六六一	四九八三三	一六六一一七
鐵鋼製	五八七九七	三〇八〇七	四二〇八四	一三三三三	三六〇〇	一八二四五	三三三七	一六八六三	一六八六三
包裝用	一七三三三	五八〇三三	四四八八三	八七九九四	四六六〇	二二九九	三三三七	二二九九	八六九九〇
石鹼	二〇一〇一〇	二〇一〇一〇	二〇一〇一〇	二〇一〇一〇	二〇一〇一〇	二〇一〇一〇	二〇一〇一〇	二〇一〇一〇	二〇一〇一〇

備考 香港の中には支那を含む又其他諸國は之を略せり。

右によりて輸入貿易の事情を観察するに我國に於て最も製品に旺盛を極むる紡績業の消長によりて考ふるに爪哇輸入の最も多きは英國に在り綿織類に於ても生木綿に於ても又は晒木綿に於ても我邦は遠く及ばざるの觀あり而して英國に於ては自領印度に於て原料を産出し又埃及に於ても之を産せり然るに我國に於ては原料を悉く外國に仰き其の最も多きは印度綿にして戰時カウンシルの制限に依り我國は絶大の支障を來せしは尙耳朶に新なる所なり印綿に亞くに亞米利加綿を以てし悉く原料を海外に仰けり今後の競争上に於て果して如何ぞや若し英米にして一層活躍するに至れば東洋市場に於て一大打撃たるのみならず我紡績工業上に於て一大打撃たることなきに非ず其の他各品に就て大に一考を要するのみならず我國家の立場よりして東洋貿易に就て一層の奮勵を要す可きものなり。

爪哇輸入品中製茶は殆ど我國産にして即ち臺灣産出の包種茶なり元來爪哇に於ける製茶の産額は甚大なるものにして爪哇總督は一方に於て製茶を奨勵し他方に於ては茶業奨勵の爲め製茶の輸入制限をなせり即ち大正七年九月十五日以降製茶の輸入を禁止したることあるは世人の知る所なり近來又絶對禁止の方針なる旨傳ふるあり製茶の運命も蓋し短なりと謂ふ可き乎然るに幸ひ爪哇總督は我國との國際的關係に想當し大正八年六月二十一日限り解禁せりと謂ふ殊に爪哇輸入に就て注目す可きは我國製品たる機械類の輸入なきことなり蓋し我國に於て原料に乏しきと技術の未だ進歩せざるに

職由せずんばあらず我國工業家の奮勵を要す可きものある決して尠からず。  
 爪哇に於ける輸出状況を見るにバタビア駐在岩越領事の報告により更に研究する所あらんとす今案  
 を避くるため概要に留め二百萬盾以上の貨物に就き掲載せんと欲す。

品名	和蘭	日本	英國	米國	印度	新嘉坡	香港	濠州	合計
護謄	191,236.63	17,282.84	59,653.90	40,349.20	4,699.68	4,699.68	17,623.25	5,135.23	391,749.71
コアラ	191,236.63	17,282.84	59,653.90	40,349.20	4,699.68	4,699.68	17,623.25	5,135.23	391,749.71
牛皮	38,112.24	1,444.44	2,002,192.11	50,759.69	2,756.11	2,756.11	6,760.00	1,027,700.00	2,849,116.30
羊皮	9,727.38	2,983.11	44,175.00	23,986.64	78,268.11	44,644.44	5,044.44	5,044.44	194,927.56
規那皮	9,727.38	2,983.11	44,175.00	23,986.64	78,268.11	44,644.44	5,044.44	5,044.44	194,927.56
藍規那	16,851.91	1,258,056.66	1,172,458.11	1,332,344.22	6,190.80	28,761.10	9,000.00	1,599,888.11	4,979,449.11
規尼	16,851.91	1,258,056.66	1,172,458.11	1,332,344.22	6,190.80	28,761.10	9,000.00	1,599,888.11	4,979,449.11
珈琲	22,573.63	7,330.87	66,626.90	1,174,893.33	8,899.11	16,321.98	14,684.44	5,975.22	1,349,888.11
椰子油	6,367.00	1,924.44	2,554.22	1,174,893.33	8,899.11	16,321.98	14,684.44	5,975.22	1,349,888.11
胡椒(白)	1,924.44	6,367.00	2,554.22	1,174,893.33	8,899.11	16,321.98	14,684.44	5,975.22	1,349,888.11
胡椒(黒)	1,924.44	6,367.00	2,554.22	1,174,893.33	8,899.11	16,321.98	14,684.44	5,975.22	1,349,888.11
同類	1,924.44	6,367.00	2,554.22	1,174,893.33	8,899.11	16,321.98	14,684.44	5,975.22	1,349,888.11
砂糖	19,687.33	4,444.44	8,888.88	1,174,893.33	8,899.11	16,321.98	14,684.44	5,975.22	1,349,888.11
煙草	19,687.33	4,444.44	8,888.88	1,174,893.33	8,899.11	16,321.98	14,684.44	5,975.22	1,349,888.11
タバコ(粉)	3,000.00	6,000.00	12,000.00	24,000.00	48,000.00	96,000.00	192,000.00	384,000.00	768,000.00
タバコ(フレーク)	3,000.00	6,000.00	12,000.00	24,000.00	48,000.00	96,000.00	192,000.00	384,000.00	768,000.00
同類	3,000.00	6,000.00	12,000.00	24,000.00	48,000.00	96,000.00	192,000.00	384,000.00	768,000.00
茶	67,128.11	2,111.11	1,109,073.33	4,248,844.44	101,000.00	1,380,699.11	1,041,111.11	181,330.00	2,565,888.11

品名	同類(粉茶)	錫	カボチャ	サイザル麻	鐵及鋼
同類(粉茶)	29,906.66	86,400.00	2,106,011.11	3,888,888.89	1,041,111.11
錫	29,906.66	86,400.00	2,106,011.11	3,888,888.89	1,041,111.11
カボチャ	29,906.66	86,400.00	2,106,011.11	3,888,888.89	1,041,111.11
サイザル麻	29,906.66	86,400.00	2,106,011.11	3,888,888.89	1,041,111.11
鐵及鋼	29,906.66	86,400.00	2,106,011.11	3,888,888.89	1,041,111.11

右によりて之を見るに最も輸出額の多きは護謄にして米國最たり次は英國にして是等二國が如何に  
 護謄を利用せるかを知らるに足る次は錫にして米國への輸出最たり次は製茶にして是亦米國への輸出  
 最も多く次は英國なり斯の如くなれば包種茶の輸入を禁止し益々國力の發展を畫する故なきに非ず  
 想ふに文明國即ち物質的進歩の國は能く是等農産品を輸入し是等未開國は多く製品の輸入大なるを  
 見る今亦岩越領事の報告を綜合して輸出入總額の各國別により其の權衡を見其の貿易總額の順位に  
 より大正六年に於ける狀況を示せば左の如し。

國名	輸出入總額	國名	輸出入總額
海峽殖民地	324,533.33	南印度	222,168.11
米國	260,672.22	佛領印度	18,037.77
英國	156,081.11	暹羅	12,114.44
英領印度	99,453.33	佛領西羅	11,193.33
日本(朝鮮大連を除く)	88,236.66	露亞	7,901.11



第四節 印度の外國貿易

一九一七年及一九一八年に亘る印度外國貿易の趨勢を見るに銜信領事の報告によれば輸出は金銀及政府用品を除き二十三億八百五十萬留比輸入は十五億三百十萬留比にして輸出超過は八億五百八十萬留比にして主要輸入國は英國米國日本及佛國の順位輸出は英國日本米國爪哇等の順位なり今尙詳細に互りて之を見るに左の如し。

年次	輸出	輸入	輸出超過
一九一五年—一九一六年	一九、七三八 <small>十萬留比</small>	一三、一九九 <small>十萬留比</small>	六、五三九 <small>十萬留比</small>
一九一六年—一九一七年	二四、〇八九	一四、九二六	九、一六七
一九一七年—一九一八年	二三、〇八九	一五、〇三一	八、〇五八

是によりて見るに年々輸出超過にして而も六億萬留比以上に上れり今一九一七年一九一八年間に於ける各國との輸出入貿易を見るに。

國名	輸出	輸入	輸出超過
英國及英領	110,420,000 <small>千留比</small>	96,378,000 <small>千留比</small>	14,042,000
露西亞	7,321	1,211	6,110
瑞典	—	7,771	—

國名	輸出	輸入	輸出超過
獨逸	1,840	6,508	—
和蘭	—	107	—
白蘭	—	64	—
佛蘭	8,410	1,620,000	—
西班牙	8,448	11,229	—
瑞西	3,744	2,966	778
伊太	30,621	11,711	18,910
奧國	—	626	—
亞細亞	21,722	2,864	18,858
亞刺比	15,928	2,940	12,988
波刺	26,754	6,841	19,913
爪哇	30,000	2,128	27,872
暹羅	3,778	11,720	—
暹羅	6,264	622	5,642
印度支那	13,788	5,554	8,234
支那	16,550	5	16,545
日本	43,550	2,737	40,813
佛領東亞	28,856	1,826,233	—
佛領東亞	5,754	583	5,171
佛領東亞	7,859	2,659	5,200
佛領東亞	106,100	1,823,881	—

四 印 度	23,220	5	23,225
南 亞 米 利 加	3,986,644	438	3,991,032
オセアニア	1,752	1	1,753
其 他	1,200	1	1,201
總 計	23,229,156	1,509,477	24,738,633

備考 Aは捕獲船載貨なり。

輸出超過の状況を見るに英國及英領は實に二億四千萬留比にして最高を占め内英國に在りて輸出は五億八千七百四十二萬七千留比輸入は八億一千七百七十一萬四千留比にして輸入の超過實に二億三千二十八萬七千留比なりと雖も英領に在りては輸出は六億一千六百九十九萬七千留比して輸入一億四千六百六萬八千留比入超過に四億七千〇九十二萬九千留比なれば前掲の如く出超五億萬以上を示せるなり次は米國及日本にして我國への輸出超過は一億六百餘圓なり是印綿の輸出旺盛なる證にして我國紡績界の注目す可きと同時に又金融業者の注目し價する所なり。

本表により爪哇貿易を見るに輸入超過は九千萬留比にして爪哇國の貿易を見るに爪哇より印度に對し三千七百六十萬七千盾にして兩國側何れの統計より觀るも英領印度の債務國たるを證す其の間我邦との爲替調節を爲すの要ある明晰のことたり。

第五節 濠洲の外國貿易

濠洲は今尙未開の地多く而も人口稀薄にして今後發展の餘地多々あり今大正六年に於ける外國貿易の状況を見るにシドニー駐在清水領事の報告により之が比較研究に便し統計表を少しく改め之を見るに。

年 次	輸 入	輸 出	超		人口一入に付	
			入	出	入	出
大正二年度	7,979,653	7,857,769	127,884	16,200	16,000	16,000
同 三年度	3,977,497	3,790,087	187,410	18,000	18,000	18,000
同 四年度	6,443,837	6,052,576	391,261	15,000	15,000	15,000
同 五年度	7,752,142	7,767,322	2,781	15,140	15,140	15,140
同 六年度	7,626,679	9,955,482	2,328,803	15,200	15,200	15,200

備考 大正三年は貿易年度改正に付最初の六箇月のみ算入せり。

右によりて濠洲貿易の趨勢を見るに大正五年度迄は年々輸入超過にして年々百萬磅以上即ち我通貨に換算せば略一千万圓の輸入超過なりしなり殊に大正五年には増加して二百萬磅の入超となりしが大正六年度に至りて一躍一變して輸出超過となり而も其の超過額は二千七百七十二萬餘磅にして是を我通貨に換算せば二億圓の出超となるなり其の變遷の大なる又驚く可きなり近時濠洲人の勢力の大なる以て知る可きなり焉に於てが濠洲は濠洲白人を以て開拓に任し東洋人の浸入を防禦するに自信力と此勢力とを以てせんするあるなり。

濠洲に於ける貿易に就て主要國々別に就き其の趨勢を觀察するに同じく清水領事の報告により大正六年度の狀況を見るに左の如し。

國	輸 入	輸 出	入 入	超 出
英 國	三九、九六、二〇四	五七、八四、三六四	八七、四七、二七六	一七、八四、七四〇
米 國	一五、五二、八三二	六、七三、〇三三		四、七九、二二八
加 奈 陀	一、九九、九五二	六、三九、二五九		三、四一、五五七
日 本	三三、六二、八二八	三、七二、九八五		八、一八、四四七
印 度	三、八一〇、二八七	二、八五、二五二	九、九七、七〇五	
新 西 蘭	二、二七、四六六	二、九九、六三三		四〇、八四、七二八
伊 太 利	三、六三、七〇九	四、四三、二八七		三、九〇、七四二
佛 國	一、五〇、〇一九	四、〇九、七六一		
蘭 領 東 印 度	一、五八、七一九	八、六六、九九九	七、二二、〇一〇	
爪 哇	一、二九、〇九四	七、〇三、九一一	五、〇〇、〇八三	
南 亞 弗 利 加	二、七九、八三三	一、三六、四七九	一、三九、五五八	
海 峽 殖 民 地	八、六四、三五六	七、四八、〇〇〇	一、一九、五五八	
フ ィ ー ジ	一、一三、四四六	四、二五、四五六	六、八八、九九〇	
露 國	三、四九	一、四六、二〇八		一、四六、二〇八
錫 蘭	一、二八、二九四	一、六七、八二八	一、二七、四六六	
諸 國	九、九三、〇三二	一、六五、二二二	七、九四、〇九〇	

輸入超過國より之を見るときは米國第一位に居り錫蘭第二位に位し次は印度次は爪哇等なり蓋し隣

國に位するものは別として遠き米國よりして輸入の盛大なるは大に注目し濠洲民が常に米國と歩調を同一にせる觀ある蓋し斯る經濟的關係と人種的關係ある又決して等閑に附し去る可からざる可し輸出の最も旺盛なる及輸出超過の大なるは英國にして次は加奈陀なり次は佛國及蘭領印度等なり我國が海運業進歩し輸出貿易旺盛なりと任しつあるが如しと雖も南洋に於ける各方面に於て大に遜色のあるは殊に注意す可き問題たり。

輸出入貿易に於て我國は濠洲より輸入超過三十四萬六千磅即ち我通貨の三百四十萬圓なりとせば此爲替の出合に於て現今米國に對する濠洲の輸出超過を利用し米國より我國の輸入超過を決済するの途を講ずる敢て難事にあらざる可し勿論華主は各其の好む所の銀行及從來取引銀行ありて俄に斯の如く處理し得可しとは斷言すへからすと雖も華主に對する親切とレートを勉強せば我銀行に赴くものなきに非ず海外に於ける金融業者は能く斯邊の消息を解し有利なる決済法を講ずべきは無稽のことにあらざる可し。

濠洲に於ける輸入品に就て累年比輪表を見るに同國關稅表によれば。

	大正四年度	大正五年度	大正六年度
酒類其他飲料	一、八〇七、三五二	一、五一六、五〇八	二、〇〇九、一四六
煙草	九〇二、四七一	九六九、〇四三	一、一一五、〇一〇
砂糖	二〇八、三四一	一、八九三、九三四	一、六六一、四九六

農産品及食料品	七、八七八、八二〇	一一、〇五九、七八九	六、四七〇、五二七
織物 衣類	一六、三四四、八二三	三〇、三一、一二七	二二、七六七、六五七
金屬類及機械	一五、二一三、〇五二	一五、〇九八、〇二五	一一、一一八、九七三
油、ペイント、ニス	二、六九四、九七九	三、三二六、〇八七	三、八一六、六四八
陶磁器セメント硝子	一、四三四、六七二	一、六四六、二三九	一、三五六、六七八
藥種 藥品	二、四四五、六三一	二、九五二、六九六	三、〇一二、八〇三
木材、柳、枝、藤	二、五六五、四七三	二、一〇七、九五四	一、八一九、二二七
寶石及ソフトグレース	一、四四五、三一五	一、五一六、九五三	一、五九四、〇七九
皮革及護謨	一、八二七、〇四五	二、一四五、八〇九	二、二八九、六二〇
紙類及文房具	二、七四五、八二七	二、九六一、三一〇	四、四六二、〇四〇
諸種 單類	一、九一九、一〇九	二、五五〇、〇〇六	二、一一五、四七五
樂器	二七五、三四八	三二九、六一四	三六二、七三一
雜品	三、一一五、〇四一	三、六三二、八七九	五、九四九、〇七九
無税品	七八〇、四八二	一、八二二、九二六	二、〇三三、二一六
正貨及金銀塊	八六八、〇五六	七八〇、二四三	二七二、二七四
總計	六四、四三一、八三七	七七、五二一、一四二	七六、二二八、六七九

一七六

輸入品中第一を占むるは織物衣服帽子類にして該品類の騰貴せしに拘らず需用の大なりしは農作物  
牧羊其の他豊作物豊富にして一般農家の金廻り好く好景氣なりしに由る右の内六割三分七厘は英國  
の供給にして米國は七分五厘日本は六分六厘六毛佛伊之に亞く。  
輸出品に就て之を見るに左の如し。

動物性食料品	大正四年度 一四、五一八、八三八	大正五年度 五、六六〇、四四三	大正六年度 一五、三八一、四二一
植物性食料品	二、四九八、七六四	一一、四六六、一一九	一九、二六三、四〇六
飲料及原料(酒精を含まず)	一一一、六二八	一三四、九〇八	二〇〇、五八〇
酒類	一九七、一九三	二二六、三五五	二二六、八五七
煙草	一四一、六二一	三三二、一五〇	二〇一、六一九
動物(生)	五四一、三〇〇	三二八、〇〇〇	三九九、〇六七
羊毛骨粉毛皮等	二五、九〇四、八二五	二九、五四九、八〇七	三一、六九七、六〇三
植物性産品及纖維	二二一、一九〇	二六九、〇一九	三一八、八三六
衣類	三四四、六一一	四八二、九〇一	六七五、四五五
油、脂肪及蠟	二、一一〇、六〇六	九一〇、〇三二	一、六五二、二四九
ペイント及ニス	八、九五七	一〇、九六六	一六、一九二
石材工業 礦石	七四三、一一一	五四三、一七一	四七二、三五九
正貨	一、九九四、四〇〇	九、五四九、九六一	一一、五二〇、三三六
未製金屬及礦石	七、二七九、三六七	一一、二五七、一一五	一一、七六九、七九八
半製金屬	一五三、四八八	二四一、五七二	三三四、五七六
機械其他金屬製品	四二八、八四一	五四七、八七八	五五五、〇六九
皮革、護謨及其製品	一、三一〇、一三一	一、二八九、九二五	一、三六五、八六三
木材、柳枝、原料及製品	八三三、〇八二	四三四、六四五	三三九、九三九
陶磁器セメント、硝子器	三一、七一一	六七、七八五	六六、七二三
紙類及學用品	一二六、八七三	一三〇、七三三	一二三、七〇三
寶石時計、及フアンシーグ	六五、〇三九	七〇、三二〇	七〇、三一一
外科用及學術器具	七七、二二〇	八八、〇四八	九六、五四一

一七七

藥種藥品及肥料 三七九、七四  
雜品 五七九、一〇一  
計 六九八、三六七  
五三八、二六七  
六六七、七一〇  
九七、九五五、四八二

輸出品中第一位を占むるは羊毛にして今戦前戦後を比較し見るに左の如し。(戦争は大正三年に始まる)

大正元年	同二年	同四年	同五年	同六年	輸入		輸出		
					正貨	合計	正貨	合計	
三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二
二二、四九七、七八一	二二、四九七、七八一	二二、四九七、七八一	二二、四九七、七八一	二二、四九七、七八一	二二、四九七、七八一	二二、四九七、七八一	二二、四九七、七八一	二二、四九七、七八一	二二、四九七、七八一
一七、四二六、六三七	一七、四二六、六三七	一七、四二六、六三七	一七、四二六、六三七	一七、四二六、六三七	一七、四二六、六三七	一七、四二六、六三七	一七、四二六、六三七	一七、四二六、六三七	一七、四二六、六三七
二〇、三二八、二二六	二〇、三二八、二二六	二〇、三二八、二二六	二〇、三二八、二二六	二〇、三二八、二二六	二〇、三二八、二二六	二〇、三二八、二二六	二〇、三二八、二二六	二〇、三二八、二二六	二〇、三二八、二二六
三三、三九八、八二〇	三三、三九八、八二〇	三三、三九八、八二〇	三三、三九八、八二〇	三三、三九八、八二〇	三三、三九八、八二〇	三三、三九八、八二〇	三三、三九八、八二〇	三三、三九八、八二〇	三三、三九八、八二〇
合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計
三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二	三三〇、七三二

羊毛に就て英國は最高を示し八割一分に達す蓋し英國は獨占的買占を行ひたるに在り次は日本にして次は伊太利國なり。

日本と濠洲との貿易に就て見るに清水領事の報告によれば左の如し。

大正二年	同三年	同四年	同五年	同六年	輸入		輸出	
					正貨	合計	正貨	合計
九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八
九一八、六八一	九一八、六八一	九一八、六八一	九一八、六八一	九一八、六八一	九一八、六八一	九一八、六八一	九一八、六八一	九一八、六八一
一、三九二、三一七	一、三九二、三一七	一、三九二、三一七	一、三九二、三一七	一、三九二、三一七	一、三九二、三一七	一、三九二、三一七	一、三九二、三一七	一、三九二、三一七
二、九〇六、〇二二	二、九〇六、〇二二	二、九〇六、〇二二	二、九〇六、〇二二	二、九〇六、〇二二	二、九〇六、〇二二	二、九〇六、〇二二	二、九〇六、〇二二	二、九〇六、〇二二
三、三八三、八二八	三、三八三、八二八	三、三八三、八二八	三、三八三、八二八	三、三八三、八二八	三、三八三、八二八	三、三八三、八二八	三、三八三、八二八	三、三八三、八二八
合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計
九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八	九五〇、二九八

斯の如くにして日本への輸出超過は年々皆然るあり大正二年より同五年に至るまで年々超過し大正五年度に至りては殆ど我通貨の七百萬圓の超過を見たり大正六年度に至りては約半額に減じ我通貨の約三百萬圓に減じたりと雖も要するに貿易上尙開拓の餘地あると共に濠洲に對する第三國の貿易を利用し間接爲替を利用する又止むを得ざる所にして當然此利用を爲さざる可からざるなり。

### 第五章 南阿聯邦市場

大正七年六月十日附在ケープタウン清水領事の報告に係る一九一七年に於ける南阿聯邦に於ける貿易の情況を見るに。

大正元年	同二年	同四年	同五年	同六年	同七年	輸入		輸出	
						正貨	合計	正貨	合計
二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九
一、六〇一、八一八	一、六〇一、八一八	一、六〇一、八一八	一、六〇一、八一八	一、六〇一、八一八	一、六〇一、八一八	一、六〇一、八一八	一、六〇一、八一八	一、六〇一、八一八	一、六〇一、八一八
一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三
一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三	一、七五〇、六八三
一、八八九、三三二	一、八八九、三三二	一、八八九、三三二	一、八八九、三三二	一、八八九、三三二	一、八八九、三三二	一、八八九、三三二	一、八八九、三三二	一、八八九、三三二	一、八八九、三三二
合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計
二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九	二、〇〇八、八九九

一九一七年に於ける輸入品は前年に比し減退せるを見る惟ふに戦争の永引くに從ひ船腹の不足を來たせると共に英國に於ける製造力の減退せる等に因るものなるべし輸出に在りては戦争の影響を受け價格著しく騰貴し取引好況を呈し一九一七年の貿易は前年に比し四百七十萬千三百二十一磅を増



加せり。

今一九一七年に於ける南阿聯邦の國別輸出入の状況を見るに左の如し。

原産國	輸 入		輸 出		輸 超	
	入	出	入	出	入	出
英 國	1,210,000	1,377,714	445,766	445,766	0	0
加 奈 陀	95,013	29,628	96,385	96,385	0	0
印 度	21,348	41,294	20,054	20,054	0	0
錫 蘭	2,042	37,566	1,648	1,648	0	0
漆 刺 利	12,648	13,633	11,811	11,811	0	0
新 西 蘭	2,331	23,391	2,331	2,331	0	0
マ ン 島	1,211	1,211	1,211	1,211	0	0
サ イ プ ラ ス	1	1	1	1	0	0
亞 丁 港	281	281	281	281	0	0
香 港	8,484	27,850	8,484	8,484	0	0
海 峽 殖 民 地	27,078	27,850	27,850	27,850	0	0
英 領 東 印 度 諸 島	511	14,343	511	14,343	0	0
英 領 東 亞 弗 利 加	33,045	14,343	33,045	14,343	0	0
モ ー リ シ ア ス	1,110	5,505	1,110	5,505	0	0
セ ー セ ル ス 諸 島	49,528	10,506	49,528	10,506	0	0
英 領 東 亞 弗 利 加 及 埃	36,891	10,506	36,891	10,506	0	0

原産國	輸 入		輸 出		輸 超	
	入	出	入	出	入	出
ザ ン シ ハ ル	76,380	76,380	76,380	76,380	0	0
ニ ャ サ ラ ン ド	3,191	3,191	3,191	3,191	0	0
セ ン ト、ヘ レ ナ	96	96	96	96	0	0
南 亞 弗 利 加	49,784	49,784	49,784	49,784	0	0
英 領 亞 弗 利 加	1,114	1,114	1,114	1,114	0	0
ニ ュ ー フ ア ウ ン ド ラ ン ド	855	855	855	855	0	0
英 領 西 印 度 諸 島	51,323	51,323	51,323	51,323	0	0
英 領 ホ ン シ ュ ラ ス	492	492	492	492	0	0
英 領 ギ ア ナ	1,629	1,629	1,629	1,629	0	0
サ ウ ス シ ー 諸 島	27,768	52,790	27,768	52,790	0	0
其 他 英 領 各 地	23,269	16,091	23,269	16,091	0	0
英 帝 國 合 計	354	354	354	354	0	0
澳 洲	11,453	11,453	11,453	11,453	0	0
白 耳 義	29,637	29,637	29,637	29,637	0	0
白 領 コ ー コ	33,926	33,926	33,926	33,926	0	0
丁 抹 西	44,333	16,337	44,333	16,337	0	0
佛 蘭 西	164	47,083	164	47,083	0	0
ア ル ガ リ ヤ	19,732	4,359	19,732	4,359	0	0
マ ダ ガ ス ガ ル	295	295	295	295	0	0
其 他 佛 領	6,154	6,154	6,154	6,154	0	0
獨 逸	6,560	6,560	6,560	6,560	0	0
希 臘	6,560	6,560	6,560	6,560	0	0

和蘭	三、五七、七二	七、六二	三、五七、七二
蘭領東印度諸島	二、四七、三二	二、四六、五〇	二、四六、五〇
伊太利	二、四八、六二	二、四八、六二	二、四八、六二
諸國	二、〇三、七四	二、〇三、七四	二、〇三、七四
葡牙	四、七三、八九	八、八一	四、六五、〇八
マデラ	一、四六、八	四、三六、七	二、八九九
葡領東亞弗利加	二、五七、一五	二、三二、五六	二、四八、八九
葡領西亞弗利加	一、一八、八一	二、二一、三三	九、二五、三
露西亞	一、三二、九二	一、三二、九二	一、三二、九二
西牙	三、七六、六一	三、七六、六一	三、七六、六一
カナリア諸島	三、七三	三、七三	三、七三
瑞典	八、三三、九六	八、三三、九六	八、三三、九六
瑞耳	一、九一、〇七	一、九一、〇七	一、九一、〇七
土其	一、〇〇、九七	一、〇〇、九七	一、〇〇、九七
支那	七、二二、三三	七、二二、三三	七、二二、三三
日本	七、三〇、九八	二、八四、〇七	二、八四、〇七
波羅	一、四一、〇	一、四一、〇	一、四一、〇
暹羅	五、八八、二二	五、八八、二二	五、八八、二二
埃羅	四、五二	四、五二	四、五二
モロッコ	六、二八、三三	六、二八、三三	六、二八、三三
北米諸島	四、四三	六、〇七	六、〇七
比律賓	六、二八、三三	六、二八、三三	六、二八、三三

亞丁	八、一四、〇〇	八、一四、〇〇	八、一四、〇〇
伯刺西	五、二一、〇六	五、二一、〇六	五、二一、〇六
智利	三、五九、九一	三、五九、九一	三、五九、九一
コスタリカ	九、六五	九、六五	九、六五
玖瑪	二、五七、二七	二、五七、二七	二、五七、二七
エグアドル	八、七八	八、七八	八、七八
墨西哥	五、三三	五、三三	五、三三
墨西	九、六〇	九、六〇	九、六〇
巴拿馬	一、七八	一、七八	一、七八
秘露	一、二八	一、二八	一、二八
サンサルバドル	一、二八	一、二八	一、二八
ウルグワイ	一、二八	一、二八	一、二八
グエネシユラ	一、二八	一、二八	一、二八
其他諸國	一、〇〇	九、二八、八六	九、二八、八六
南北諸國	一、〇〇	九、二八、八六	九、二八、八六
の輸入	一、〇〇	九、二八、八六	九、二八、八六
南亞弗利加	三、四一、九三	二、五七、九一	二、五七、九一
南亞弗利加以外の生産品	九、三二、二七	二、六四、七〇	二、六四、七〇
商産品合計	三、四七、五〇	二、六四、七〇	二、六四、七〇

備考 輸出中には關稅同盟加入州外の輸出、再輸出品、小包郵便による輸出、及正貨を含めるも爰に其の記入を略す。

是によりて之を觀るに南阿聯邦は輸入超過六百十萬餘磅にして我邦貨に換算せは六千萬圓の輸入超過なり然れども該地方は世界に於ける有名なる金産地の在る地方にして英國に於ける金の供給地は

南阿弗利加及濠洲なりとす近時濠洲は少しく衰退せる視在りと雖も南阿の産金は實に世界に冠たるものにして二十世紀の當初夫の有名なるセシルローズ氏がトランススヴァールと戦端を開き征服したるは實に茲にありと謂ふ可し即ちトランススヴァールに於けるウキツトウオースランドは産金地として最たるものたり然れども領事の報告によれば正貨の輸入多くして正貨の輸出尠きは産金地としての現象と相反するが如しと雖も蓋し是正貨にして金塊に非ざれば一見斯る矛盾せるが如き觀を呈せるも輸入超過は能く金塊の輸出を以て補ふことを得可し今統計上頗る古きを免れずと雖も明治四十年一月アラッド、ストリート紙のトランススヴァール産金額に就き報する所を見るに。

(英社戦争當時に近し)

一九〇三年	一二、四八九、二四八
一九〇四年	一六、〇五四、八〇九
一九〇五年	二〇、八〇二、〇七四
一九〇六年	二四、五七九、九九七

即ち一九〇六年に於ては二千四百萬磅以上の産出ありて我邦貨に換算せは二億萬圓以上なり又以て其の旺盛なることを知る可く近時に在りては一層増加せし推測に難からず我邦との貿易關係は羊毛の輸入多額に上り殊に戦時中驚く可き輸入額進歩せるを見る左に清水領事の報告に係る一九〇九年以降一九一七年に至る九年間に於ける本邦品輸入額の比較表を示せば左の如し。

年	南阿聯邦	英領南阿全體
一九〇九年	五一、七八七	五七、六四七
一九一〇年	七八、七〇六	八一、六四七
一九一一年	九四、七〇二	一〇〇、五三三
一九一二年	一〇四、六〇四	一〇九、八七六
一九一三年	一〇九、八一二	一一五、四六一
一九一四年	一一〇、二五九	一一九、六六三
一九一五年	二二一、五九三	二三二、七七四
一九一六年	五四〇、八八四	五五五、五七五
一九一七年	七三〇、九九八	七四五、九五六

斯の如くにして彼我貿易は年一年進歩せり南阿は又羊毛の産地にして戦時中我邦に輸出したる額尠からず今大正七年五月三日附ケーブタン清水書記生の報告によれば一九一七年八月一日より一九一八年三月一日に至る輸出羊毛の價額は一千百三十一萬二千九百六十二磅にして我國に對しては脂毛二百五十一萬四千八百七十五磅精洗毛十六萬八千八百八十三磅合計金二百六十八萬二千九百五十七磅にして邦貨に換算せは實に約二千六百圓なり又實に大なりと謂ふ可し。

### 第四編 貿易爲替の競争及其の調節

我國の輸出入貿易たる或時は輸入超過となり又或時は輸出超過となり其の變遷ある毎に財政當局

は常に苦心慘憺施設せり殊に歐洲戰爭に際し幾多の支障發生し最も大なるは英米諸國の金禁輸にし  
て又英國に於けるカウンスルピルの停止之に亞けり而かも戰國に於て補助貨幣の増發せられ東洋に  
於ける銀貨銀塊は殆んど歐洲に流出して銀爲替相場暴騰し金銀兩國間に於て爲替調節に苦心せしは  
一般のことたり加之貿易の數量上に於て上進し且物價騰貴せしより貿易の價額亦多額に上りたり去  
れば我國の銀行業者が常に之に苦しみ其の資源を得る爲め託信方法を講し信託預金を取扱ひたるこ  
とは事情止むを得ざること、謂ふ可し已に外國貿易ある以上外國爲替無かる可からず外國爲替ある  
以上は其の資源を調達せざる可からざるは理の當然と謂ふ可し。

### 第一章 貿易爲替の實際的調節

國際爲替の實際にありては已に上來述ぶる所の如しと雖も元來貿易は國際的のものにして従つて是  
に關聯して時々刻々に遷轉萬化して停止する所なきなり即ち靜止的に非ずして活動的なり。  
我國の貿易を隆盛ならしめ國民力をして世界に知らしめ國家の大を期せんと欲せば實際上に方りて  
畫策其の宜しき方法を講せざる可からず即ち國際貿易に對しては相互間の事情に就き克く之に精通  
せざる可からず直接爲替決済にありては只單に相互間の需用供給を注目するに足ると雖も間接爲替  
決済に在りては第三國との事情に注目せざる可からず而して直接貿易及間接貿易とを間はす常に是

が注意を拂ふに方り第一物質的と第二精神的とにより留意せざる可からず第一の物質的は之を大要  
三段に區別す即ち其の一は輸出貿易に在り其の二は移民事情に在り其の三は資本の投資にあり第  
二の場合に在りては精神的にして一は人種二は政治三は宗教等なりとす第一の場合に在りては物質  
上よりするを以て統計的に之が注意を拂ふときは直に現在及將來の事情を觀察することを得可しと  
雖も第二の精神的に在りては之を數量上に於て調査することを得ず然りと雖も國際的に貿易上國權  
の伸張に關し複雑なる問題生し一時的に非ずして微温的に漸次昂進し遂には根柢を萌芽し抜く可か  
ざる勢力となり貿易を左右するに到る白人の世界的創造は皆此施設に在るが如し。

#### 第一節 國際貿易

國際貿易に就て爰に研究を要す可きは第一に世界上より之か研究を爲す可きや又は第二に我國家よ  
り之が研究を爲す可きやに在り世界的國際貿易及び爲替上よりせば斯の如く研究を爲す可きは理の  
當然なりと雖も我國家の立場よりして我國を經となし他國を緯となすべきは研究の順序なる可し故  
に此論法により重複の嫌になきに非ずと雖も少しく之が研鑽を試みんとす今我國と世界との大體上  
輸出入貿易に就き大正五年大藏省編纂外國貿易年表によりて之を観るに。

#### 日本と世界各國との輸出入額